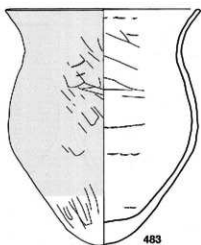
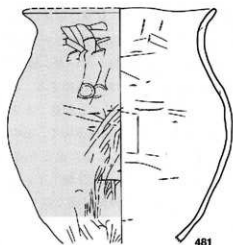


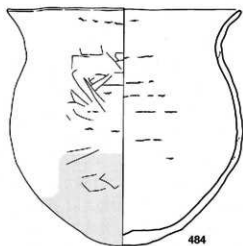
480



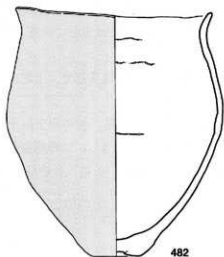
483



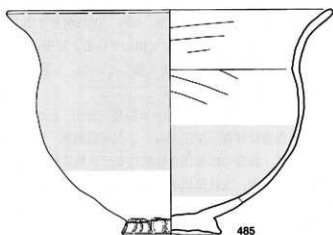
481



484



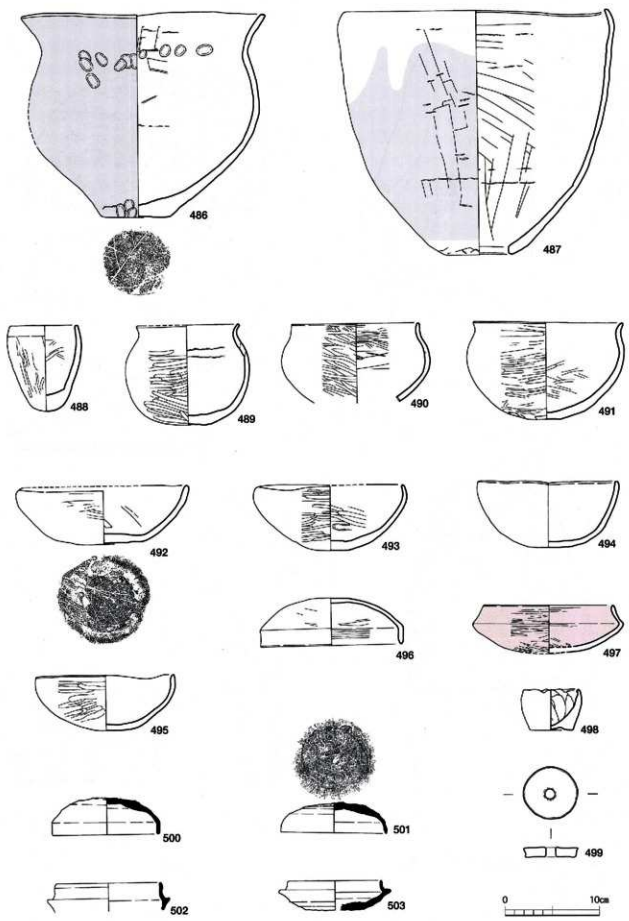
482



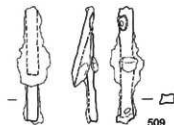
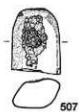
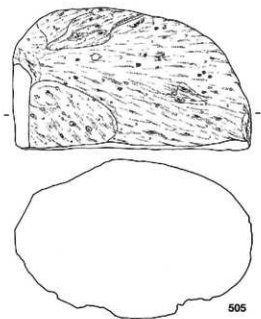
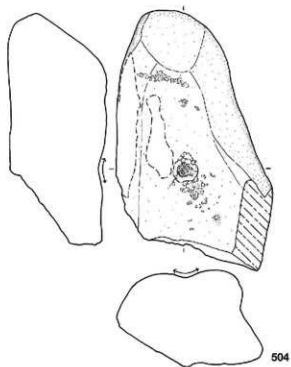
485



第81図 SA23出土遺物実測図Ⅱ (S=1/4)



第82图 SA23出土遗物实测图Ⅱ (S=1/4)



第83図 SA23出土遺物実測図Ⅳ (508・509はS=1/2、他はS=1/4)

### SA13 (第84~88図、510-547)

位置 AB5グリッド

重複 SA20を切り、SA23に切られる。

規模 長軸6.5×短軸6.3×深さ0.28m、41.0㎡

形状 方形。

柱穴・周溝 柱穴4基。1：長径0.3×短径0.28×深さ0.4m、2：長径0.3×短径0.25×深さ0.2m、3：長径0.35×短径0.3×深さ0.32m、4：長径0.3×短径0.28×深さ0.28m

遺構調査状況 遺構の大まかな範囲は平面上で確認できた。遺物出土量がSA20に次ぐ多さであった。住居内施設は柱穴が4本四隅近くより検出され、中央からは埋甕が出土した。甕は床面に掘り込んだ土坑状の掘込みに設置されており、土器は住居床面から5cm程上端部が突出していた。使用された甕は球形で胴部最大径は胴部中央にあり、口縁部を打ち欠かれ外面にはススが胴部最大径付近まで付着している。

埋甕より1.5m西に、甕が片袖を欠損した状態で検出した。煙道を持たず、壁に付設しておらず単独で、砂に灰白色粘土といった構築材を用いて構築されていた。焚口幅は凡そ0.5m、袖長約0.8mである。燃焼部内より口縁部を欠損した土器(510)が立った状態で出土した。土器下の埋土は炭化物混じりの焼土で、その後全体の粘土を取り除いたところ床面は土器下の埋土と同様に暗赤褐色でその厚さは2-3mmほどみられた。

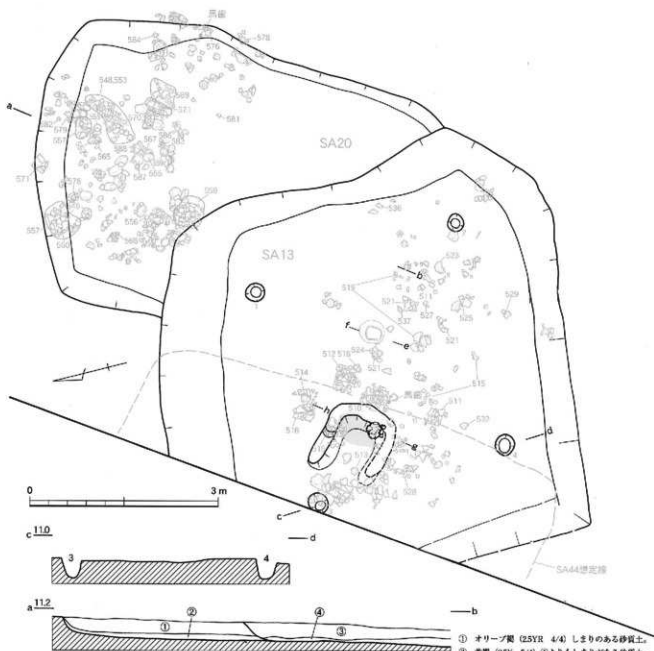
当初、平面での遺構検出の際にSA13の北西側に、他住居との切り合い(仮にSA44とする)を確認しており、その遺構範囲を実測した。しかしその後土層断面上での確認が出来ず、SA44は遺構として認定しなかったが、その遺構想定範囲をSA13に重ね合わせると、東壁中央にちょうど甕が位置することとなる。SA44が存在したとすると甕はSA44に付設されたものと考えたほうが妥当であり、その時期は燃焼部内出土土器(510)の時期より6世紀中～後半に相当する。

遺物 510、512-529、532、537、538、540-543、546、547は床面出土で、他は埋土中である。510は甕燃焼部から出土している。口縁部から頸部を欠損している。底部は平底で、内面は黄土色に変色している。511-513は甕で、511は胴部中央が張り出し、底部は意図的に打ち欠かれている。512は頸部がややすぼまり、口縁が外反する。513は樽形を呈し平底の木の葉底である。512・513ともに口縁端部が外方にやや丸められている。514、515は長胴形の甕で口縁は中心に向かってやや内傾し端部がわずかに外反する。520は甕の底部で、木の葉底を有する平底である。外面にミガキ状のナデが施してあり丁寧な作りである。521は甕で口縁はゆるやかに外反し、胴部最大径が胴部下位にありソロバン玉状をなし平底となる。内面全体が黒変している。外面は工具痕が残っており、520と比べると粗雑である。523-526は高坏で、525は坏状の坏部を持つ高坏である。526の坏部は口縁が大きく外反し、稜線が入る。脚部は他と比べて長くハの字状に広がる。

532-542は須恵器で、537は完形の坏身で、口径11.4cmと小さめで立ち上がりはやや短い。底部にヘラ記号がみられる。540は高坏で、SA20の埋土中出土の破片と接合している。

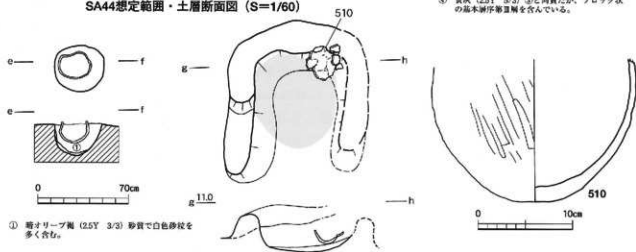
543-547は鉄器で、543-545は鉄鏝の破片で、544、545は茎部に木質が付着している。546、547は鉄製鍬・鋤先で、546は刃厚約2mmと薄い。先端部に木質が付着している。546は甕内より出土した。

時期 須恵器の床面出土遺物は坏蓋(532)、坏身(537、538)、高坏(540)、甕(541、542)である。そのうち坏蓋(532)は口径13.8cmで、TK209古段階に相当する。坏身(537)は口径11.4cmでTK209型式新段階-TK217型式古段階に、538の坏身はTK43型式に相当する。その他埋土中の遺物の中で539の坏身は比較的早く、MT15型式に相当する。しかし539は埋土出土でSA14・22との接合資料で



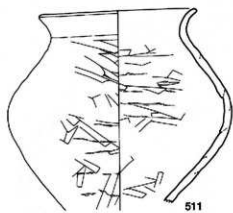
第84図 SA13・20平面図及び遺物出土状況、  
SA44想定範囲・土層断面図 (S=1/60)

- ① オリーブ罎 (2.5YR 4/4) しまりのある砂質土。
- ② 黄罎 (2.5Y 5/4) ①よりもしまりがある砂質土。
- ③ オリーブ罎 (2.5YR 4/3) しまりのある砂質土。
- ④ 黄罎 (2.5Y 5/3) ③と同質だが、ブロック状の基本砂序層を多く含んでいる。

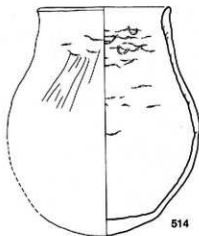


- ① 暗オリーブ罎 (2.5Y 3/3) 砂質で白色砂粒を多く含む。

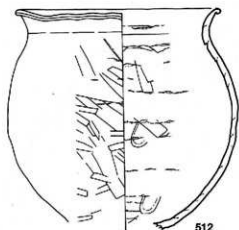
第85図 SA13埋壺及び甕平面図・土層断面図 (S=1/30) 及び甕内出土遺物実測図 (S=1/4)



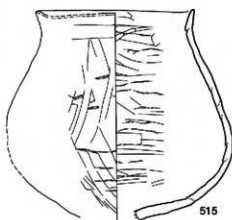
511



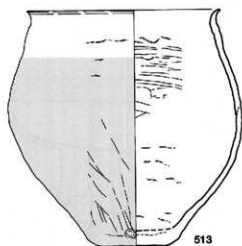
514



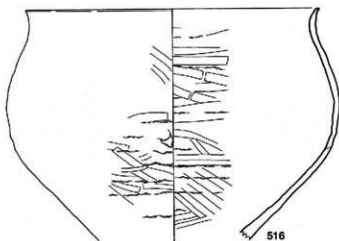
512



515



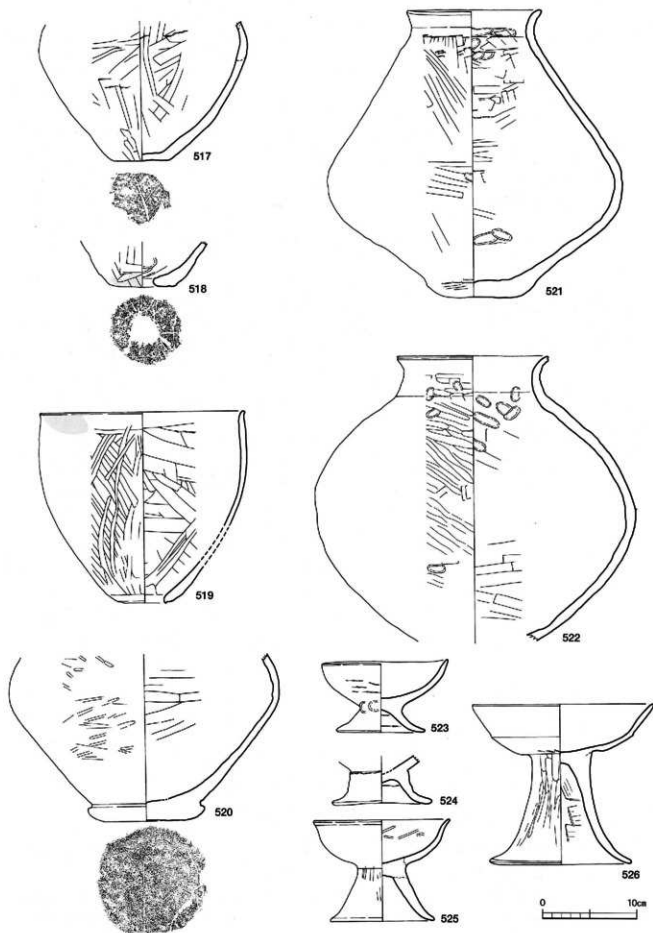
513



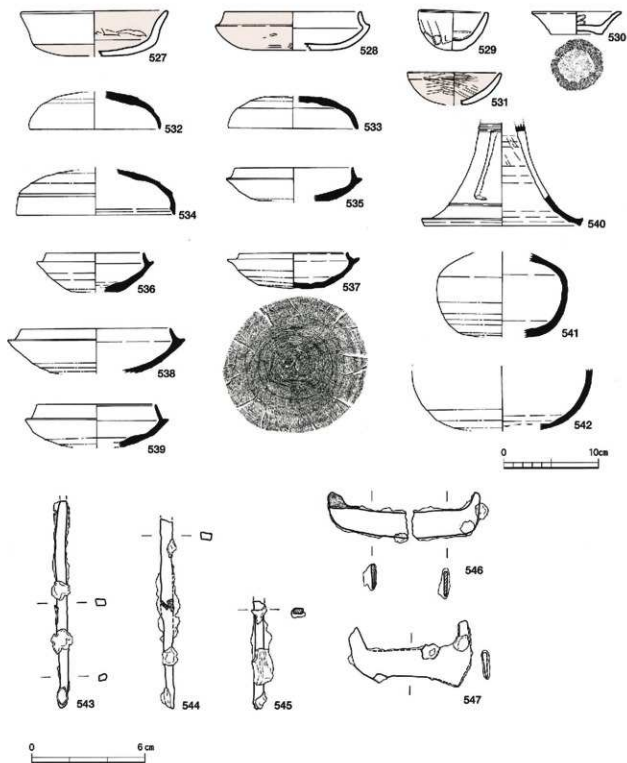
516



第86图 SA13出土遺物実測図 I (S=1/4)



第87図 SA13出土遺物実測図Ⅱ (S=1/4)



第88図 SA13出土遺物実測図Ⅲ (543-547はS=1/2、他はS=1/4)

あること、そしてこの時期の遺物が他にSA13から出土していない点を考慮するとSA13の時期判定資料として使用するのはいささかためられる。遺物は重複した住居から混入した可能性もあるため、数多く出土しているTK209段階～TK217式古段階の時期が妥当であろう。また、土師器は床面出土の甕から概ね7-8期に相当、521の甕が9期まで下る可能性がある。このことから時期を年代は概ね6世紀後半以降～7世紀中頃の住居ではないかと推定される。



SA20 (第84・89～92図、548～591)

位置 AB7、AC7グリッド

重複 SA13に切られる。

規模 長軸(5.75)×短軸4.65×深さ0.3m、22.8㎡

形状 長方形。

柱穴・周溝 不明。

遺構調査状況 遺構の大まかな範囲は平面上で確認できたが、遺構が密集しているグリッド内だったためプランの確定が困難だった。SA13に南西側を切られており、柱穴等住居内施設は不明である。調査区内で最も遺物量が多くそして完形率も高い。遺物は埋土中より多く出土し、その大半は住居北側に集中している。SA13と切り合っているため遺物の遺構間接合が多く、互いの遺物の混入が激しいようである。住居南側埋土中より馬歯が出土している。

遺物 590、591の鉄器以外床面出土である。

548～553は長胴形の甕で、549は丸底、それ以外平底である。548、552は木の葉底を有する。552は底部の粘土が輪状に形成され、後で中央を埋めている。548～553の甕いずれも頸部はくびれ、口縁部が外反する器形である。554、555、557は球形形の甕で、557は口縁が外反し、頸部が湾曲する。555の底部は境目が明瞭な丸底で552と同様輪状に形成されている。木の葉底である。556、559は大型の長胴甕で、556は頸部に刻目突帯を有し、口縁はゆるく外反し口縁端部は面取りされている。底部は丸みをもつ平底である。558は器形より甕と思われたが、器面の調整や頸部のすばまりから直口甕の可能性もある。561～566は甕で、565、566は頸部に刻目突帯を有す球形形甕で、他は口縁が外反し頸部ですばまり、肩部が張り平底もしくは平底気味の底部となる。567～571は口縁が内湾する坏で、569以外は丸底である。573～575は模倣坏で、575は坏身で口縁の立ち上がりか内傾し内面に赤彩塗布を施す。576は碗で、577は鉢、578～581は高坏で、581は接合痕が明瞭で粗雑、他の3点は坏状の坏部を持つ高坏である。579は内面全体黒変している。

584の須恵器坏身は器高の浅い器形である。585の須恵器高坏は坏部に櫛溝波状文を施し、脚部は四方透かしである。

586～588は軽石で586は一面、587は二面が水平に加工され、588は円形である。

590、591は鉄鏝で、鏝身部～基部のみ残存している。

時期 須恵器の床面出土遺物は坏身(584)、高坏(585)の2点である。坏身は口径13.4cmで、TK209古段階、高坏はMT15型式に相当する。土師器は床面出土の甕・坏から概ね4～6期に相当する。これらの編年の示す時期と重複関係から、5世紀後半～6世紀中頃の住居ではないかと推定される。

SA22 (第93～95図、548～591)

位置 AB7、AC7グリッド

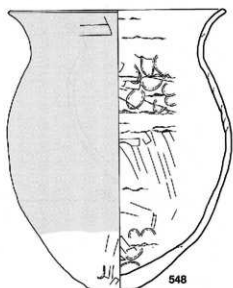
重複 SE3に切られる。

規模 長軸4.3×短軸4.2×深さ0.56m、18.1㎡

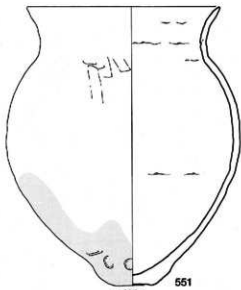
形状 不定方形。

柱穴・周溝 不明。

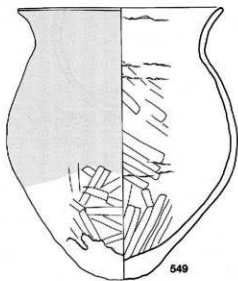
遺構調査状況 西側の壁の一部をSE3に切られている。住居内施設は埋甕が住居の対角線上、北隅付近で出土した。甕上は黒色砂質土、掘り込みの断面形は土坑状で、土器は口縁部までが2/3残存しているので打ち欠きは行われておらず完形で使用されたと考えている。また、土器の上端部は床面



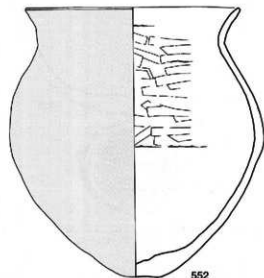
548



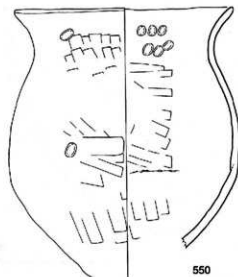
551



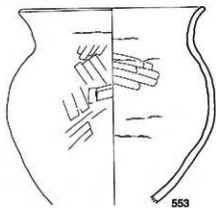
549



552



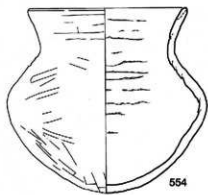
550



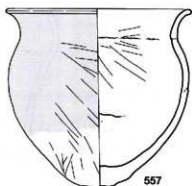
553



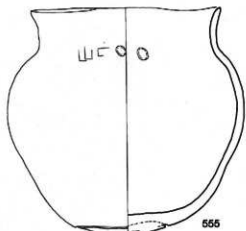
第89图 SA20出土遺物実測図I (S=1/4)



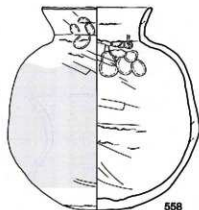
554



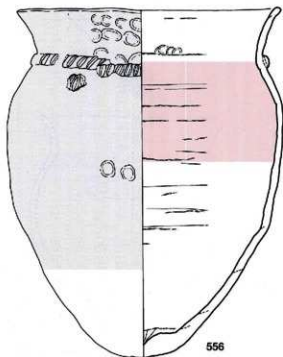
557



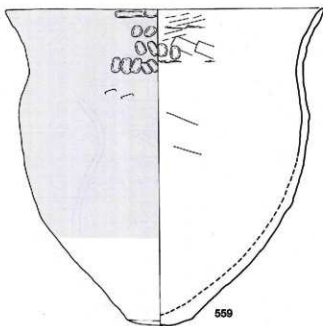
555



558



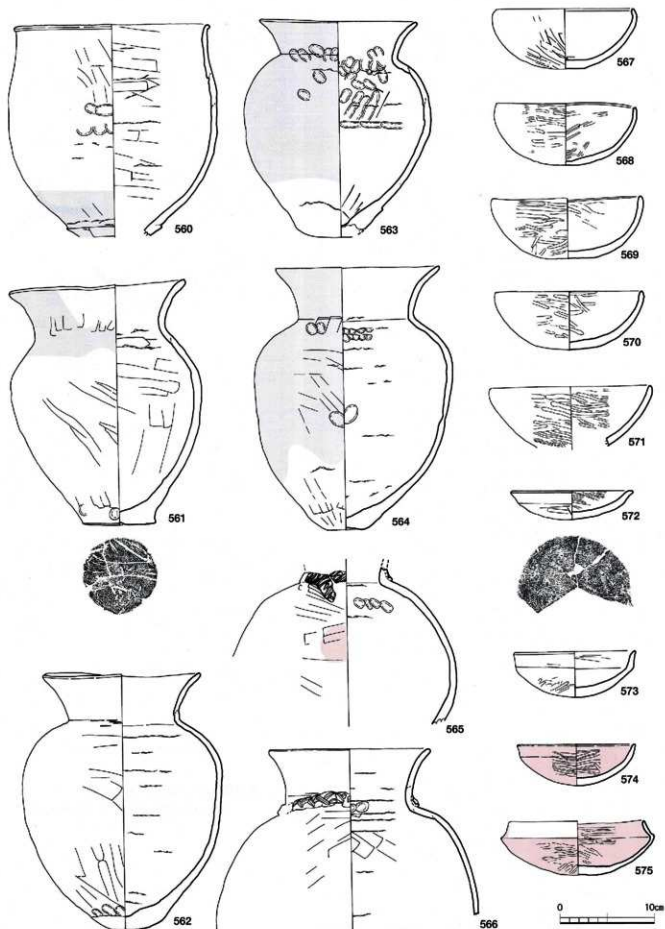
556



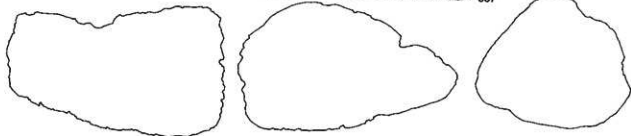
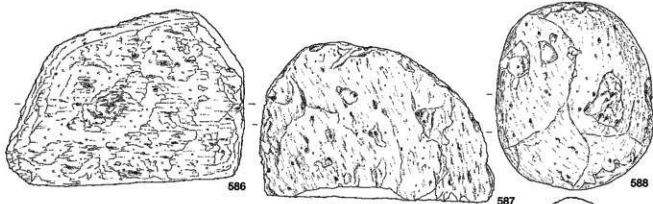
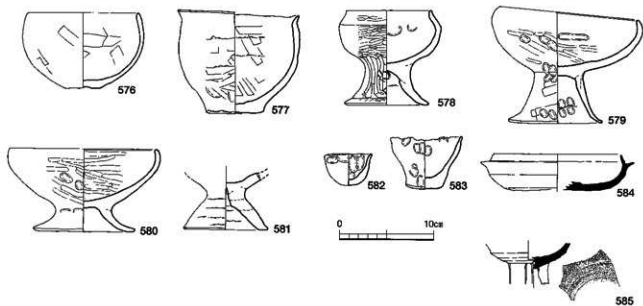
559



第90图 SA20出土遺物実測図Ⅰ (S=1/4)



第91图 SA20出土遺物実測図Ⅱ (S=1/4)



591

第92図 SA20出土遺物実測図Ⅳ  
(590、591はS=1/2、他はS=1/4)

約5cm突出していた。柱穴等は不明である。

**遺物** 592-598、600、602、603は床面出土で他は埋土中である。592は土器埋設炉に使用された甕で、頸部と底部付近に帯状にススが付着している。また出土時は口縁の一部が打ち欠かれていた。593は大型の壺、594は小型の壺で、口縁端部は面取りしてあるなど丁寧なつくりである。596は工具痕のある甕底部、597、598は模倣坏でどちらも内面赤彩塗布されている。597は坏蓋で口縁が若干内傾している。598は坏身で、口縁端部が外反する。600-602は須恵器で、600の坏身は器高が浅く、602の高坏脚部はカキ目が施されている。603は砥石で、上下部を欠損している。上下面以外使用している。

**時期** 須恵器は床面出土の坏身(600)は口径が12.4cmでTK209型式古段階に相当する。埋土中の遺物である坏身(601)も概ねこの時期である。土師器は、床面出土の遺物は概ね7-8期に相当し、これらの編年の示す時期から6世紀後半~7世紀初頃の住居ではないかと推定される。

#### SA21 (第96~98号、548-591)

**位置** AB7、AC7グリッド

**重複** SA13、SE2に切られる。

**規模** 長軸(4.45)×短軸4.75×深さ0.38m、8.28㎡

**形状** 方形。一部調査区外のため全面検出は出来なかった。

**柱穴・周溝** 不明。

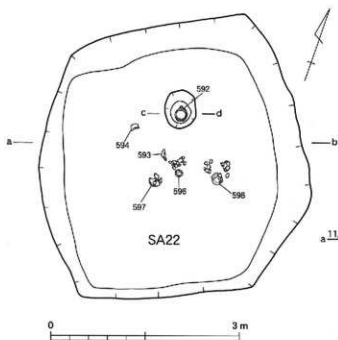
**遺構調査状況** 調査区の東側の壁際に位置する住居で、平面上より範囲を確定できた。北側の壁の一部をSE2に切られている。

住居内施設は埋甕が住居中央より検出されており、埋土は黒色砂質土、掘り込みは長軸1.5×短軸0.85×深さ0.16mと大きく、楕円形の形状を呈す。使用された甕(605)は球胴形の平底で口縁部を打ち欠かれており、土器は掘込の中央に床面より土器の上端部が約5cm露出した状態で設置されていた。その周囲より焼土や炭化物は確認できなかった。柱穴等は不明である。

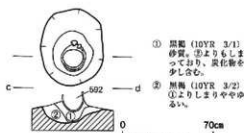
**遺物** 床面出土は605、606、614で他は埋土出土である。604、605はいずれも胴部最大径が底部付近にくる球胴形の甕である。605は土器埋設炉に使用されており、口縁部を打ち欠き使用している。606は甕で、木の葉底を有する平底、外反する口縁をもち胴部最大径は中央にくる。

608は須恵器の坏蓋で、焼成不良のため胎土は磁器化しておらず、内外面ともに風化している。口径は15cmである。610は壺蓋で、天井部にカキ目を施している。

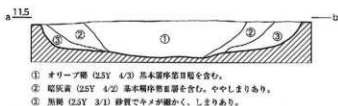
**時期** 須恵器は大半が埋土中出土である。608の坏蓋はTK43形式に相当するが、坏身(611、612)はTK217型式古段階に相当する。床面出土の高坏脚部(614)も概ね同時期である。土師器は床面出土の遺物は概ね7-8期に相当するが、埋土出土の甕(604)は9期まで下る可能性がある。これらの編年の示す時期と重複関係からSA21は、6世紀後半~7世紀前半頃と推定される。



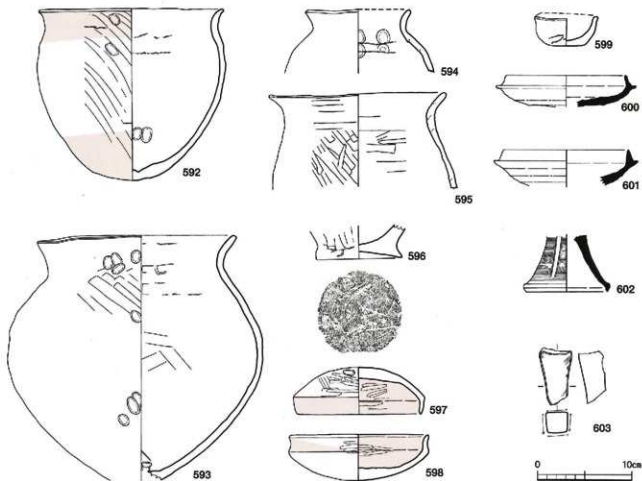
第93図 SA22平面図及び遺物出土状況・土層断面図 (S=1/60)



第94図 SA22埋壺平面図・土層断面図 (S=1/30)



- ① オリーブ層 (2.5Y 4/3) 黒本層序層を伴う。  
 ② 腐灰層 (2.5Y 4/2) 黒本層序層を伴う。ややしまりあり。  
 ③ 黒層 (2.5Y 3/1) 砂質でキメが細かく、しまりあり。



第96図 SA22出土遺物実測図 (S=1/4)

SA12 (第100・101図、615-624)

位置 AC4、AC5グリッド

重複 なし。

規模 長軸(4.8)×短軸4.6×深さ0.3m

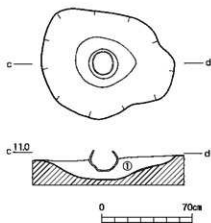
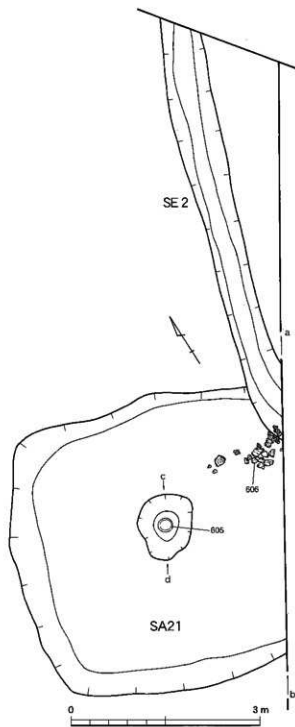
形状 隅丸方形。調査区外に伸びるため全体は不明。

柱穴・周溝 不明。

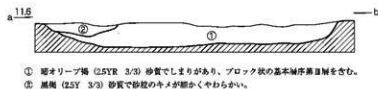
遺構調査状況 平面上でプランを確定できた住居である。東側半分は調査区外のため検出できなかった。住居内施設は中央の床面5-10cm上で直立した状態の埋甕が設置してあった。掘込ははっきりしていないが、甕の下とその周囲に焼土が確認できたことから埋甕としてよいと思われる。口縁部は打ち欠かれていたが、その破片は住居内に散らばっており完形に復元可能であった。

遺物 624のガラス玉以外は床面出土である。615-618は甕で、615は埋甕に使用された甕である615-617は球形形で、口縁が外反し、口縁端部が丸まる。619は小型の鉢で、外面に接合痕が明瞭に残る粗雑なつくりである。口縁端部はユビでつまみ出してわずかに外反させている。

621は須恵器环壺で、天井部が平坦で、口縁部が丸い。



第97図 SA21埋甕平面図・土層断面図 (S=1/30)



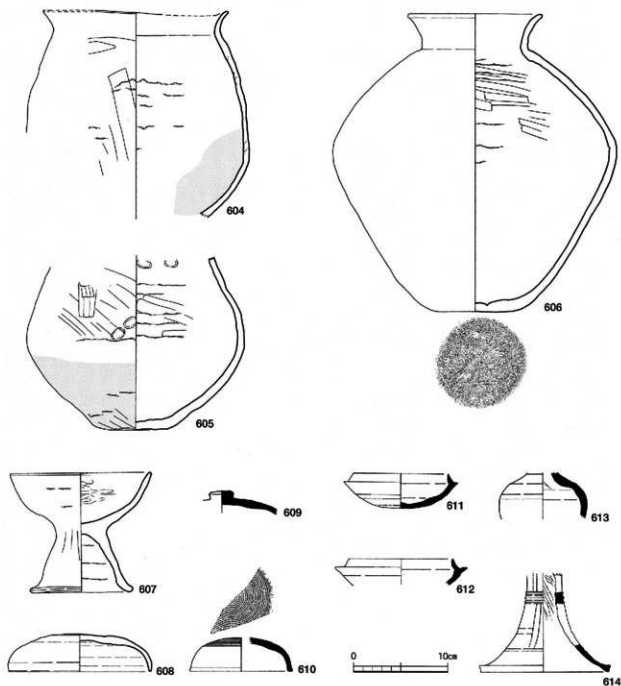
第96図 SA21・SE2平面図及び遺物出土状況・土層断面図 (S=1/60)

① 埋甕 (7.5YR) 埋甕周囲の砂は固くしまっている。3cm以下の炭化物をわずかに含む。

① 埋甕 (2.5Y 3/3) 砂質で砂粒のキレが細かくやわらかい。

② 埋甕 (2.5Y 3/3) 砂質で砂粒のキレが粗くやわらかい。

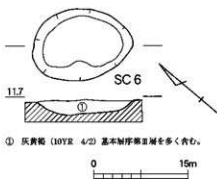




第98図 SA21出土遺物実測図 (S=1/4)

622は礫石で、下部を欠損している。624は床上数cmまでの埋土をふるって検出したガラス玉で、色は青色である。

時期 須恵器は坏蓋(621)が復元口径12.8cmで、TK209型式新段階の時期に相当する。また土師器の甕(615-617)は概ね7期になり、6世紀末～7世紀初頃の住居と推定される。



第99図 SC 6 平面図・土層断面図 (S=1/60)

## (2) 土坑 (SC)

### SC 7 (第63・65図、376-379)

位置 AA 7 グリッド

重複 SA17に切られる。

規模 長軸1.68×短軸(0.42)×深さ0.46m

形状 楕円形

遺構調査状況 SA17の完掘後、南側壁に立ち上がり確認された。SA17内にはSC 7の想定範囲には別遺構の埋土は検出されなかったため、SC 7はSA17に切られたと判断した。

遺物 すべて埋土中からの出土である。

376は甕の口縁部、377は瓶である。薄手で接合痕が明瞭である。378は粗雑なつくりのミニチュア土器である。379の坏は、SA17との接合資料である。底部は木の葉底を有し体部が大きく開く器形で、口縁部はさらに水平に屈曲する器形である。時期 遺物は埋土中の土師器のみで、概ね8-9期に相当する。遺物の時期と重複関係から推察される時期にずれがある。遺物がすべて埋土出土であり、更にSA17からの流れ込みの可能性もあることから重複関係より推察できる時期を尊重する。SC 7の時期は6世紀後半以降の遺構と思われる。

376は甕の口縁部、377は瓶である。薄手で接

### SC 9 (第74・77図、476)

位置 AA 6 グリッド

重複 SA14の中央に位置しており、SA14と関連のある土坑と思われる。

規模 長軸1.85×短軸1.75×深さ0.4m

形状 楕円形

遺構調査状況 SA14・25の切り合い確認のため、東西に入れたトレンチで断面から平面の遺構プランを確定させた。遺物はまばらで少ない。埋土は黒褐色で炭化物をわずかに含む。

遺物 埋土出土のみである。476は甕の口縁部で、波状文を沈線と交互に二段施している。TK10型式に当てはまると思われる。

時期 遺物より6世紀後半と推定される。

### SC 6 (第99図)

位置 AC 4、5 グリッド

重複 SA12の南西約1mに位置している。

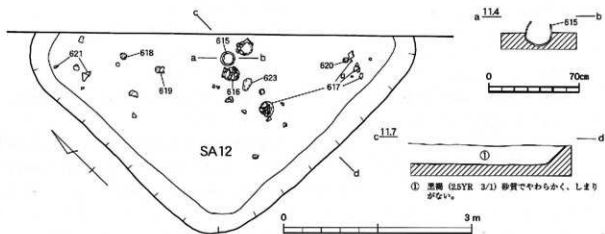
規模 長軸1.60×短軸1.1×深さ0.2m

形状 楕円形

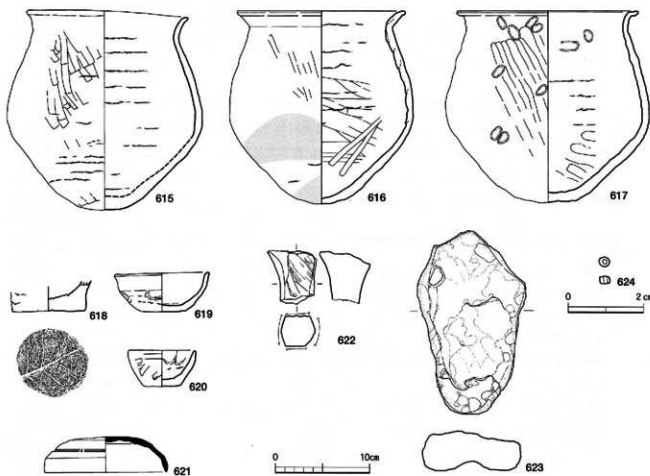
遺構調査状況 平面上で範囲を確定し、掘り下げを行った。遺物は土師器片で図化出来ない小片であった。

遺物 土師器片。小片のため図化できず。

時期 不明。



第100図 SA12平面図及び遺物出土状況・土層断面図 (S=1/60) 及び埋壘土層断面図 (S=1/30)



第101図 SA12出土遺物実測図 (624のみS=1/1、他はS=1/4)

### (3) 溝状遺構 (SE)

#### SE 3 (第78図)

位置 AA 5、AB 5 グリッド

重複 SA 22、23 を切る。

規模 残存長9.7×幅0.52×深さ0.11m

断面形状 浅い皿状を呈す。

遺構調査状況 黒褐色の砂質土で、炭化物は含まれていない。走行方向は東西で、東側に延びる溝は、SA22を切り、途中より消失、西端はSA23を通り抜け、調査区の壁の手前で消失している。

遺物 不明。SA23と混在している可能性がある。

時期 重複関係から7世紀前半以降と思われる。

#### SE 2 (第96図)

位置 AB 7、AC 7 グリッド

重複 SA 21 を切る。

規模 残存長6.5×幅0.53×深さ0.2m

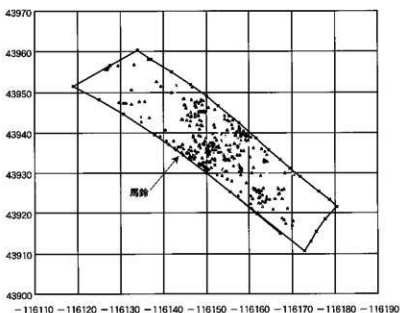
断面形状 浅い皿状を呈す。

遺構調査状況 調査区東側壁より立ち上がりを確認、検出を行った。埋土はやわらかい黒褐色の砂質土で、炭化物は含まれていない。走行方向は南北で、北側に延びる溝は、調査区外へ延び、南端はSA21の北側壁を切った後、やや東側へ屈曲し、調査区外へ延びている。

遺物 遺物は土師器の小破片のみで、図化は無理であった。

時期 時期判定が可能な遺物が出土していない。重複関係からは、7世紀前半以降の溝状遺構と推定される。

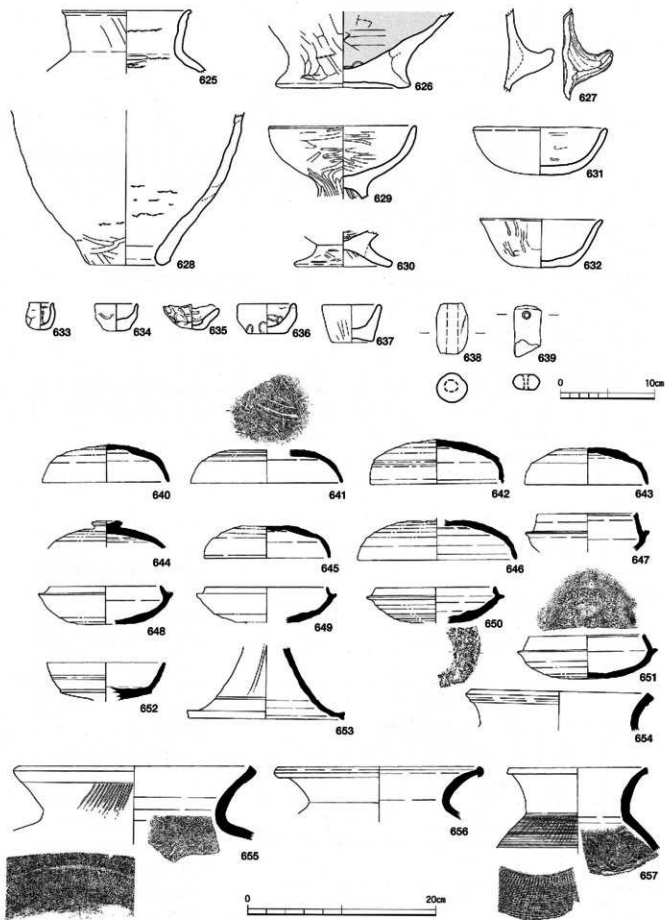
### (4) B-2区包含層出土の遺物 (第103~106図、625-682)



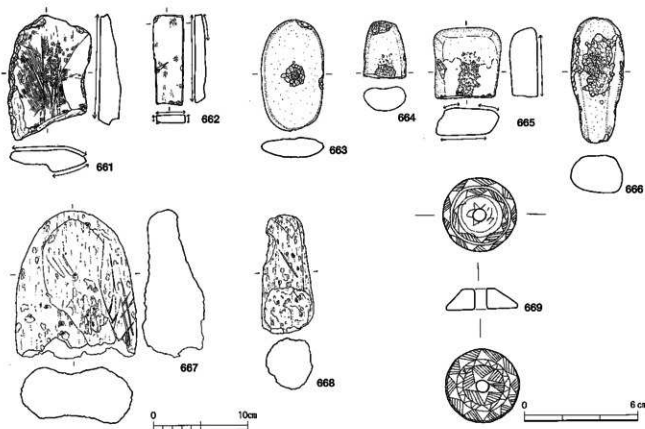
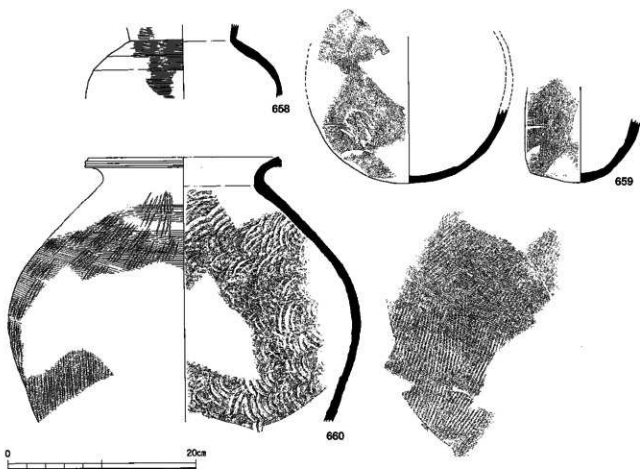
第102図 B-2区包含層遺物分布状況

主に基本層序第二層～第三層上面で出土しており、第102図の分布図によると調査区内の中央に集中しているが、これは住居跡の集中位置と同一である。また、遺構は検出できなかったが、古代以降の遺物も若干みられる。以下、遺物の説明を述べる。

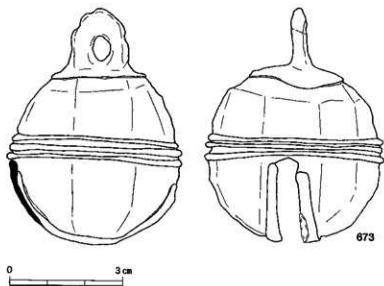
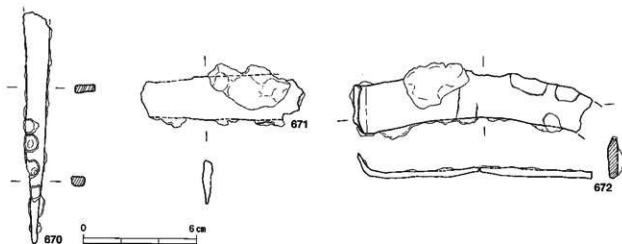
625は壺で、やや外反する直口壺の頸部と思われる。627は瓶の把手で、今回この1点のみの出土である。628は瓶である。底部の穿孔の内側部分を面取りするなど丁寧な作りである。629は高坏



第103图 B-2区包含层出土遗物实测图 I (S=1/4)



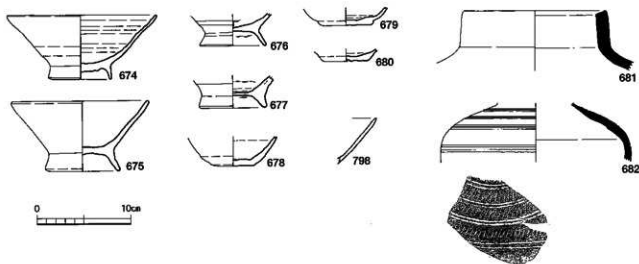
第104図 B-2区包含層出土遺物実測図Ⅱ (669のみS=1/1、他はS=1/4)



第105図 B-2区包含層出土遺物実測図Ⅱ (673のみS=1/1、他はS=1/2)

の坏部で、外面を赤彩塗布している。630は台付鉢もしくは高坏の脚部である。631の坏は分厚く、粗雑な作りである。632の鉢は平底で、口縁部がわずかに外反する。633-637はミニチュア土器で、638、639は土鏝である。

640-660は須恵器である。640-646は坏蓋で、642は口縁部に段を有す器形である。643は焼成不良のため磁器化していない。641、646は口径が16cmを超える大きさとTK43型式の時期に相当する。647-651は坏身で、647は立ち上がりが高く、復元口径も10.6cmと小さい。TK209型式に相当する。648-650は口径が12-13cm内に収まり、TK209型式新段階に相当する。651は内面に縄目痕がみられる。受部はオリコミ法で立ち上がりはやや内傾気味に立ち上がる。642の坏蓋と同時期で、MT15型式に相当する。652は無蓋高坏の坏部で、強い沈線を施す。652は高坏脚部で、三方透かしで裾部が外方に広がる。654-656の甕はいずれも口縁部がやや外反、口縁端部を外方に折り返し肥厚させているが、655はやや内傾し、656は玉縁状に形成される。657の甕は口径が小さく、口縁部はやや直立しながら立ち上がり、外反する。658は甕で外面に丁寧なカキ目を施す。頸部付け根はやや外方に開く。659は提瓶で、660は甕で外面に平行タタキを行い、その上からカキ目を施し、内面は同心円当て具痕がみ



第106図 B-2区包含層出土遺物実測図Ⅳ (S=1/4)

られる。

661-668は石器である。661、662は砥石で、661は筋状の強い擦痕が幾多もみられる。663-666は敲石で、666は砥石を転用している。667、668は軽石で、667は下部を欠損している。正面・裏面が大きく凹んでいるが、砥石として使用されたと思われる。668も下部を欠損しているが、一般的に支脚といわれている棒状の軽石製品である。

669は蛇紋岩製の紡錘車で、台形状に整えられ、鋸歯文を広面に二段、側面に二段、狭面には弱く、完全に施文されない状態で施されている。形状は非常に整っているが、その施文作業は雑である。施文時に工具が滑り、はみ出したのであろう痕跡や文様を割付けの際、計画的に行っていなかったと思われる痕跡が見受けられる。上面の線刻に至っては、刻みの彫り込み方自体が浅く、星形ともいふべき模様を不規則に施し中断しているようである。

674-677は高台付碗で、674は体部が直線的に開く器形で、見込みが若干凹んでいる。高台内に菊花状の工具痕がみられる。675は見込みが盛り上がる器形で高台は674より高く、大きく外方に開く。678-680は環である。678、679は円盤高台状の底部で、見込み内に強いナデを施し段状になる。680は糸切り底の土師皿で、左回転である。681、682は須恵器である。681は壺で、頸部付け根で口縁部が直立して立ち上がり、口縁端部を内側に折り返している。682は長頸壺の胴部で、肩部周辺に文様帯を施す。

670-673は鉄器である。670は刀子で、刃部に対して斜めに間をつくっている。671、672は鎌で、672は基部の折り返しは鈍角につくられている。673は青銅製の馬鈴である。AC7グリッド内より出土した。紐座の形は八角形で紐と鈴口は同一方向につくられ、腹帯は中央に三条みられる。紐、鈴口端部の形はいずれも半円形を呈す。



### 第3節 平成5年度調査分

#### 1. AA-1区の調査(第107図)

平成5年度4月調査分で、住居跡(SA)2軒、土坑(SC)1基を検出した。

##### (1) 住居跡(SA)

SA38(第108・109図、683・684)

位置 EEa 8、EEa 9グリッド

重複 なし。

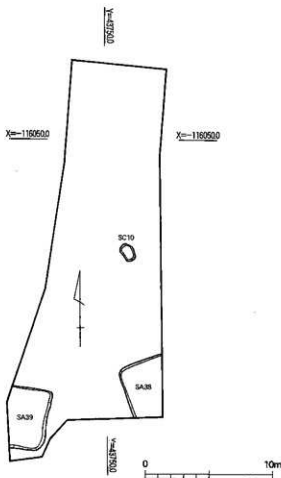
規模 長軸(4.0)×短軸(3.5)×深さ0.2m

形状 方形。一隅検出したが一部攪乱にて消失、また調査区外に遺構が伸びていたため全面検出できなかった。

柱穴・周溝 不明。

遺構調査状況 調査区の南西側角に位置する住居で、平面上より範囲を確定できた。遺構は調査区外に広がるため約1/4を検出するととまった。切り合い等はみられない。埋土はやわらかい黒褐砂質土で柱穴等住居内施設は不明である。

遺物 683は模倣坏身で、口縁部の立ち上がり内傾し内外面ともに丁寧なヘラ



第107図 AA-1区遺構分布図(S=1/300)

ミガキを施し赤彩塗布されている。684は須恵器坏身で口縁部の立ち上がりがやや内傾しており、底部が厚めである。

時期 須恵器は坏蓋(684)が復元口径13.0cmで、TK209型式古段階の時期に相当することから、6世紀後半～末頃の住居ではないかと想定される。

#### SA39(第110・111図、685-687)

位置 DDa 8、DDa 9グリッド

規模 長軸4.84×短軸(3.3)×深さ0.3m

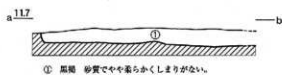
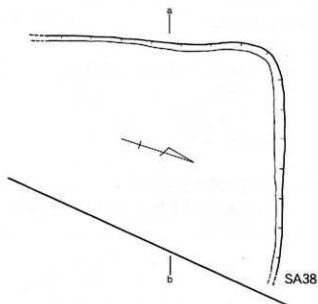
形状 方形。調査区外に遺構が広がるため一部しか検出できなかった。

柱穴・周溝 不明。

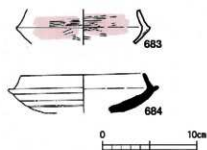
遺構調査状況 調査区の南西側に位置する住居で、平面上より範囲を確定できた。遺構は調査区外に広がるため南側を可能な限り拡張し、約1/2を検出した。切り合い等はみられない。住居内施設は不明である。

遺物 685は球胴形の甕で、口縁付近を欠損しているため不明だが、胴部中心が張り出し、底部は平底に近い丸底である。外面底部・内面全体が黒変している。686は模倣坏身で口縁の立ち上がりは高く内傾する。外面は赤彩塗布されている。

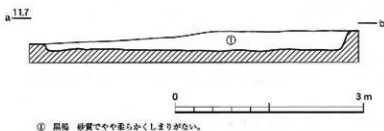
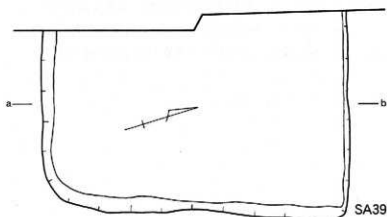
時期 土師器の甕(685)は概ね7期に相当し、6世紀後半～7世紀初頃の住居跡と推定される。



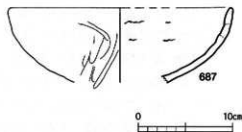
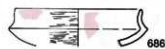
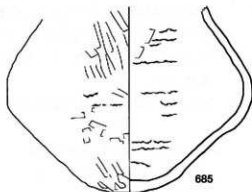
第108図 SA38平面図・土層断面図 (S=1/60)



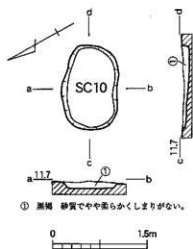
第109図 SA38出土遺物実測図 (S=1/4)



第110図 SA39平面図・土層断面図 (S=1/60)



第111図 SA39出土遺物実測図 (S=1/4)



第112図 SC10平面図・土層断面図 (S=1/60)

## (2) 土坑 (SC)

### SC10 (第112図)

位置 EEa 7 グリッド

規模 長軸1.32×短軸0.86×深さ0.12m

形状 楕円形。

遺物 なし。

時期 不明。

## 2. AA-2区の調査 (第113図)

平成5年度7月調査分で、住居跡 (SA) が2軒検出されている。

### (1) 住居跡 (SA)

#### SA40 (第113図)

位置 EEa 5 グリッド

重複 SA41を切る。

規模 長軸3.3×短軸 (1.7) ×深さ0.26m

形状 調査区外に遺構が広がるため詳細不明である。

柱穴・周溝 不明。

遺構調査状況 調査区の北側に位置する住居で、平面上より範囲を確定できた。遺構は調査区外に広がるため約1/2を検出するにとどまった。調査区壁面で土層を確認した結果、SA41の存在を確認、SA40が切ることが判明した。埋土はしまりの良い暗黄褐砂質土で柱穴等住居内施設は不明である。

遺物 なし。

時期 重複関係から7世紀前半以降の住居ではないと思われる。

#### SA41 (第113・114図、688-690)

位置 EEa 5 グリッド

重複 SA40に切られる。

規模 長軸 (4.3) ×短軸 (2.5) ×深さ0.38m

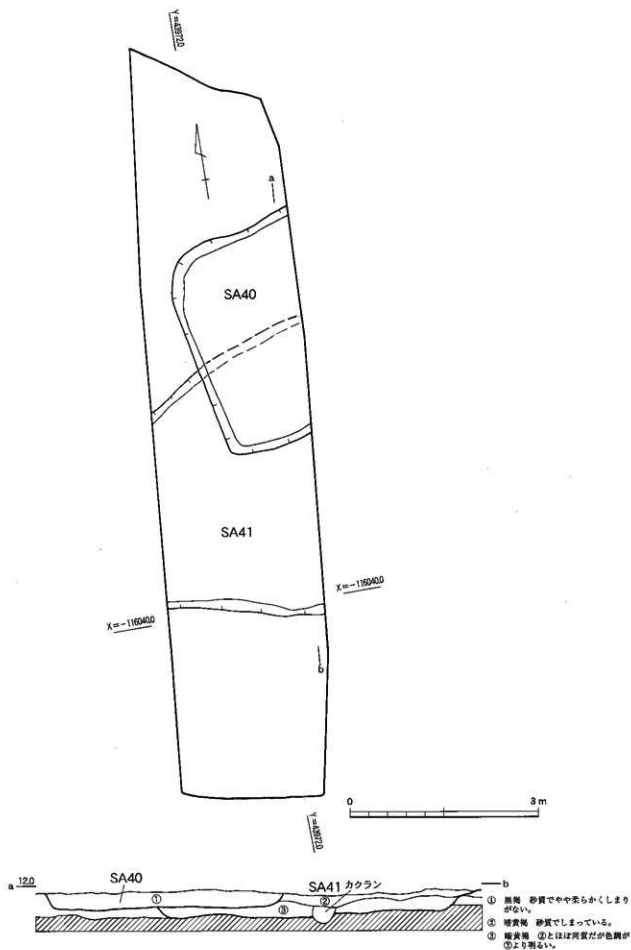
形状 方形? 調査区外に遺構が伸びるため詳細不明。

柱穴・周溝 不明。

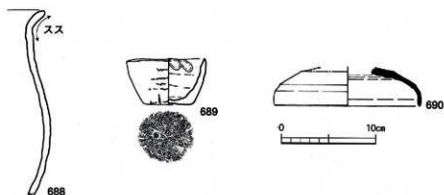
遺構調査状況 調査区の南側に位置する住居で、調査区壁面にて範囲を確定できた。遺構は調査区外に広がるため一部を検出するにとどまった。SA40に切られている。埋土はやわらかい黒褐砂質土で柱穴等住居内施設は不明である。

遺物 688は甕の口縁部～胴部で、口縁が外反し、口縁端部が丸まり、外面口縁部にススが附着している。689はミニチュア土器で、底部に放射状の筋がみられる。工具痕等ではなく、おそらく成形時に下に敷いたものの痕跡と思われる。690は須恵器坏身で、口縁端部がやや凹んでいる。

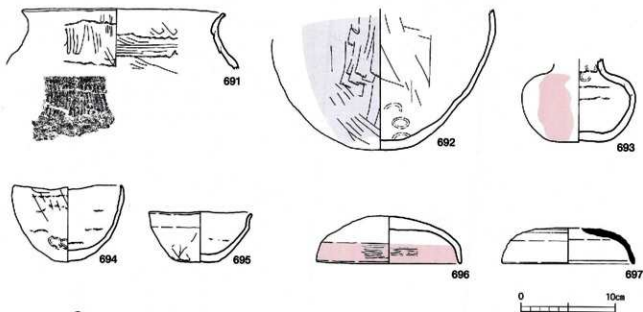
時期 須恵器は坏蓋 (690) が復元口径15.2cmで、TK209型式古段階の時期に相当する。土師器は688の甕が、概ね7期にあたると思われることから6世紀後半～7世紀初頃と想定される。



第113図 AA-2区遺構分布図及びSA40・41土層断面図 (S=1/60)



第114図 SA41出土遺物実測図 (S=1/4)

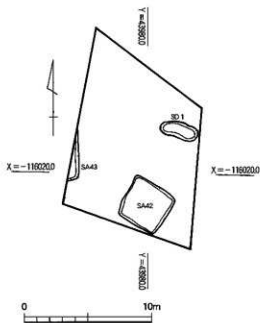


第115図 AA-2区包含層出土遺物実測図 (698のみS=1/1、他はS=1/4)



(2) AA-2区包含層出土遺物 (第115図、691-698)

691は甕の口縁部で、強い工具痕が外面は縦に頸部に沿って入っており、内面は斜方向にみられる。接合痕が明瞭である。692は球形甕の丸底の底部である。器壁が薄く均一である。694、695は完形の鉢で内外面ともに黒変している。696は模倣須恵器坏蓋で、内外面ともにミガキ・赤彩塗布されている。697は須恵器坏蓋で、天井部は平坦で、口縁に段がみられる。698は耳環で、断面円形の銅芯に金箔を貼っているが腐食のためその1/2は剥がれている。SA 8出土の耳環よりも細目である。



第116図 BB区遺構分布図 (S=1/300)

### 3. BB区の調査 (第116図)

平成5年11月調査分で、住居跡 (SA) 2軒、土壌墓 (SD) 1基を検出した。

#### (1) 住居跡 (SA)

SA42 (第117・118図、699-704)

位置 EEa 4、FFa 4 グリッド

重複 なし。

規模 長軸3.6×短軸3.58×深さ0.2m、8.7㎡

形状 方形。

柱穴・周溝 不明。

遺構調査状況 調査区の南側に位置する住居で、平面上より範囲を確定できた。切り合いのない単独の住居である。埋土はやわらかい黒褐砂質土で柱穴等住居内施設は不明である。

遺物 699-701は甕で、699、701はゆるやかに外反する口縁部をもつ器形である。703

は壺で、口縁部が外反し、肩部の張りはなくならぬ長胴形である。

時期 土師器のみの出土で、甕 (699-701)、瓶 (702) は概ね7期にあたると思われるが、壺 (703) は占手で4-5期に相当すると思われる。このことからSA42は5世紀後半～7世紀初頃の時期に該当すると思われる。

SA43 (第119・120図、705)

位置 EEa 3、EEa 4 グリッド

重複 なし。

規模 長軸 (3.58) × 短軸 (0.5) × 深さ0.2m

形状 方形。調査区外に遺構が伸びるため規模等詳細不明。

柱穴・周溝 不明。

遺構調査状況 調査区の東側に位置する住居跡で、平面上より範囲を確定できた。遺構は調査区外に広がるため一隅のみの検出にとどまった。埋土はやわらかい黒褐砂質土で柱穴等住居内施設は不明である。

遺物 軽石1点のみである。楕円状に成形されており、中央が窪んでいる。

時期 時期判定可能な遺物や重複関係もないため、不明である。

#### (2) 土壌墓 (SD)

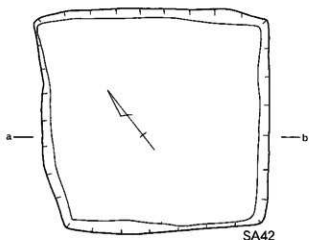
SD1 (第121・122図、706-708)

位置 FFa 3 グリッド

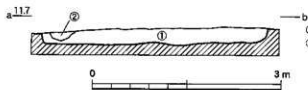
重複 なし。

規模 長軸3.0×短軸1.24×深さ0.32m

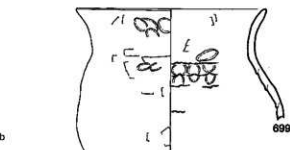
形状 楕円形



SA42

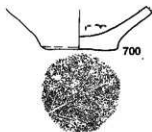


第117図 SA42平面図・土層断面図 (S=1/60)

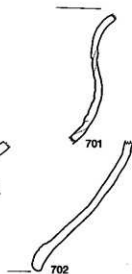


699

- ① 黒陶 砂質でやや重たかくしまりがない。
- ② 青緑灰 基本層序第IV層を含む。

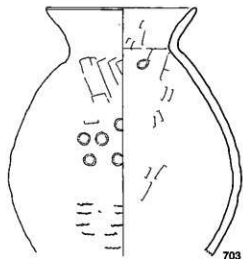


700

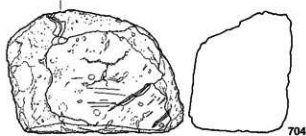


701

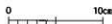
702



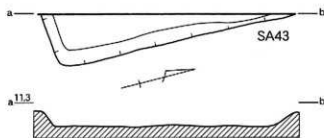
703



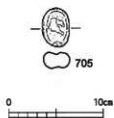
704



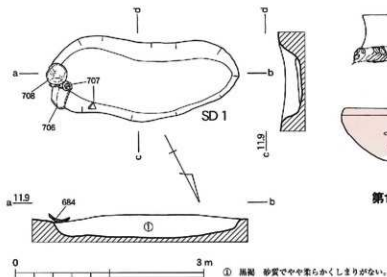
第118図 SA42出土遺物実測図 (S=1/4)



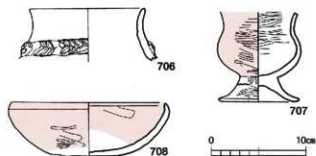
第119図 SA43平面図・土層断面図 (S=1/60)



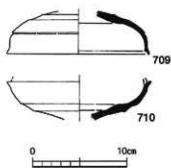
第120図 SA43出土遺物実測図 (S=1/4)



第121図 SD1平面図・土層断面図 (S=1/60)



第122図 SD1出土遺物実測図 (S=1/4)



第123図 BB区包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

遺構調査状況 調査区の北東側に位置する土坑である。この土坑は、平成15年度報告文の山崎上ノ原第2遺跡の土器敷きの土壇墓 (D-SD2) と検出状況が類似している。長軸の方向は東西で、西端には坏 (708) を中央に北側に壺頸部 (706)、高坏 (707) が置いてあった。付随する古墳等は不明である。

遺物 706は壺で、頸部に突帯を貼付けており、復元口径が約12cmと小型の壺である。707は高坏で、内外丁寧なミガキが施されている。708は底部が平底の坏で、口縁部がやや内湾する器形である。ミガキを内外に施している。

時期 概ね6-7期にあたることから、6世紀後半~7世紀初頃の土壇墓ではないかと想定される。

(3) BB区包含層出土遺物 (第123図、709・710)

709は肩部・口縁に段をもつ坏身で、710は有蓋高坏の坏部で、立ち上がりは欠損している。



第1表 B-1区出土土器観察表(1)

番号	出土 層位	№	種類	部位	残存数	胎土	色調	口径	高さ	底径	外面	内面	備考
1	SA1	148	甕	口縁部→ 胴部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(15.5)	15.3	4.5	口縁部コナテ、底・胴部向工ナテ、 胴部、胴縁あり、胴縁なし	口縁部コナテ、胴縁あり	瓶蓋
2	SA1	覆土中	甕	口縁部→ 胴部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	14.0			コナテ、接合痕あり。	コナテ	
3	SA1	129,130 150	甕	底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			3.2	斜方向の工具ナテ、ヨゴレ付	斜方向の工具ナテ、ヨゴレ付	
4	SA1	134	甕	底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			9.45	ナテ、斜方向の工具ナテ、底部 木の遺痕、趾土の跡あり	ナテ、底面	
5	SA1	146	甕	底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑			10.5	ナテ、接合痕、趾土の跡 のみあり、木の遺痕。	ナテ、斜方向の工具ナテ、 底面	
6	SA1	覆土中	甕	底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑			6.7	横・縦方向の工具ナテ	横・縦方向の工具ナテ、 底面遺痕。	
7	SA1	49	甕	底縁	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			(9.2)	ナテ(風化のため不明瞭)、 木の遺痕	ナテ(風化のため不明瞭)	
8	SA1	覆土中	甕	口縁部→ 胴部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	(21.0)			口縁部コナテ、全体ナ テのみミギキ	口縁部コナテ、全体ナ テのみミギキ、接合痕あり	
9	SA1	47	甕	口縁部→ 胴部	口縁部1/6	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(12.0)			ナテ、接合痕あり	ナテ、胴縁あり	
10	SA1	5	甕	口縁部→ 胴部	口縁部1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(12.6)			ナテ、接合痕あり	ナテ、胴縁あり	
11	SA1	10	高坏	胴縁、 杯縁	胴縁 欠損	微塵	黄				斜方向の工具ナテ、色差 あり	ナテ(風化のため不明瞭)	
20	SA1	14,37	甕	口縁部→ 胴部	口縁部2/3、 胴部1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(28.65)			口縁部コナテ、胴縁あり、 胴縁なし、胴縁あり	口縁部コナテ、全体コ ナテのみミギキ、全体的に風化	
21	SA1	21,23,25	甕	口縁部→ 胴部	1~3mm程度の 砂粒を含む	微	(26.6)				口縁部コナテ、底・胴部向工ナテ、 胴縁あり、胴縁なし	口縁部コナテ、全体コ ナテのみミギキ、胴縁あり	
22	SA2	1,44	甕	口縁部→ 胴部	1/2欠損	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	17.65			口縁部コナテ、全体ナ テのみミギキ	口縁部コナテ、全体ナ テのみミギキ、接合痕あり	
23	SA2	57	甕	胴部→ 底部	1/6	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄				胴部向工ナテ、接合痕、趾土の 跡あり、胴縁より上よりスズ付	胴・斜方向の工具ナテ	
24	SA2	覆土	甕	底部	1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			(8.0)	ナテ(風化)、スズ付、 木の遺痕	ナテ	底面を成形した後中央を磨 り削りて成形している
25	SA2	50	模倣須 土器	口縁部→ 胴部	1/4	微塵	黄	(8.2)			ミギキ(風化のため不明瞭)	ミギキ(風化のため不明瞭)	TK217 保存用 保線調査
26	SA2	56	坏	口縁部→ 胴部	1/4	微塵	黄	(14.4)			ナテ(風化のため不明瞭)	ナテ(風化のため不明瞭)、 スズ付	
27	SA2	底面	坏	口縁部→ 胴部	1/6	微塵	黄緑				ミギキ(風化のため不明瞭)	ミギキ(風化のため不明瞭)	
35	SE1	202	钵	口縁部→ 底縁	口縁部2/3、 底縁完成	微塵	黄	(12.0)	6.75	5.2	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ、胴縁あり	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ、胴縁あり	
38	SA5	28,125,126, 150,162	甕	口縁部→ 胴部	5/12	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(17.5)			口縁部コナテ、底・胴部向工ナテ (風化)、胴縁あり	口縁部コナテ、底・胴 部向の工具ナテ(風化気味)	
39	SA5	214	甕	口縁部→ 胴部	口縁部3/4、 底縁1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(21.1)			口縁部コナテ、全体ナ テのみミギキ	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ	
40	SA5	188	甕	口縁部→ 底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	17.5	19.0	2.8	口縁部コナテ、不定方向工 具ナテ、胴縁より上よりスズ付	口縁部コナテ、不定方向 の工具ナテ、接合痕あり。	
41	SA5	135,136, 139,212	甕	口縁部→ 底部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	18.6	24.8	6.2	口縁部コナテ、不定方向工 具ナテ、胴縁、スズ付	口縁部コナテ、不定方向 の工具ナテ、接合痕あり。	
42	SA5	213,212, 218	甕	口縁部→ 底部	口縁部ほぼ完 成、底縁1/3	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	21.2			口縁部コナテ、全体不定方向工 具ナテ、胴縁あり、胴縁なし	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ、底面 遺痕	
43	SA5	219	甕	胴部→ 底部	底縁完成、 胴部欠損	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			6.0	底・斜方向の工具ナテ、 胴縁、ヨゴレあり	底・斜方向の工具ナテ、 胴縁、ヨゴレあり	
44	SA5	181	甕	口縁部→ 胴部	1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	(31.0)			斜方向の工具ナテ、スズ 付	斜方向の工具ナテ、スズ 付	
45	SA5	23,125,126, 202,208	甕	口縁部→ 胴部	ほぼ完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	27.8	24.65	9.35	口縁部コナテ、胴部向のナ テ、底縁なし、全体にスズ、ヨゴレ付	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ、底面遺痕	
46	SA5	182	甕	口縁部→ 胴部	1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	(14.4)			口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ(風化気味)	口縁部コナテ、底・斜 方向の工具ナテ(風化気味)	
47	SA5	201,207, 210	甕	胴部→ 底部	胴部1/2、 底部完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑			8.1	底・斜方向の工具ナテ、底 部付着に伴ってスズ付	底・斜方向の工具ナテ、 底面あり	
48	SA5	131,142, 143	甕	口縁部→ 底部	口縁部1/3	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄緑	(28.15)	14.2	9.4	口縁部コナテ、斜方向 の工具ナテ、木の遺痕	口縁部コナテ、斜方向 の工具ナテ	
49	SA5	207	甕	胴部→ 底部	胴部1/2、 底部完成	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			8.3	斜方向ナテ(風化気味)、平 行に磨削、趾土の跡あり	底・斜方向のナテ(風化 気味)、全体にヨゴレ付	
50	SA5	10	甕	胴部→ 底部	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄				(5.5)	ケズリ状の工具ナテ(風 化気味)	ナテ、底面遺痕	
51	SA5	172,186	甕	胴部→ 底部	1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄			(6.3)	斜方向の工具ナテ、スズ 付	ナテ(風化気味)	底面を磨削し最後に磨き上 げて作られた、1~3mm
52	SA5	179	甕	底部	1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄	(7.2)			下真ナテ、ユビナテ、接 合痕あり	ユビナテ	底面を成形した後中央を磨 り削りて成形している
53	SA5	覆土中	高坏	杯縁	1/2	1~3mm程度の 褐色 砂粒を含む	黄	(9.0)			ナテ(風化のため不明瞭)	ナテ(風化のため不明瞭)、 底面遺痕	
54	SA5	覆土中	高坏	杯縁	1/2	1~3mm程度の 褐色 砂粒を含む	黄	(14.6)		(9.5)	ナテ(風化のため不明瞭)、 赤銅色	ナテ(風化のため不明瞭)、 底面、接合痕あり	底面遺痕あり
55	SA5	31,125,126, 126,128,139	高坏	杯縁	1/3	微塵	黄	(17.4)			ミギキ、強い工具痕・折 損痕の跡あり。	ナテ(風化のため不明瞭)	
56	SA5	171	坏	口縁部→ 底部	3/2	微塵	黄	(16.25)	4.8	4.0	口縁部コナテ、ミギキ (風化気味)	口縁部コナテ、ナテ (風化気味)	

第2表 B-1区出土土器観察表(2)

番号	出土 層位	地	器種	部位	残存度	胎土	色調	口径	高さ	底径	特徴	内面	備考
65	SC2	壤土中	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(21.2)			口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、接合痕あり	口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、接合痕あり	
66	SC2	壤土中	甕	底部		1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑				口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、接合痕あり	口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、接合痕あり	
67	SZ1	54.10.13.14 53.33.28.28	甕形土埴	口縁部~胴部	口縁1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(28.2)			ナク(風化欠損)、接合痕あり、ヨロレ付着	横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、接合痕あり	
68	SZ1	22	甕	口縁部~胴部	口縁1/6	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(15.8)			口縁部コナナク、ユビオヤニ、接合痕あり	コナナク、接合痕あり	
69	SZ1	12	甕	胴部~底部	底部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄		6.2		横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、胴部、接合痕あり、底部凹痕	横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、胴部、接合痕あり、底部凹痕	
70	SZ1	48.87	甕	底部	4/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄		(6.2)		斜方向の工具ナク(風化欠損)、指痕あり	ナク(風化欠損)、胴部あり	
71	SZ1	59	高坏	坏部~脚部	1/2	微細	黄				ナク(風化欠損)、縦方向のミダキ	横・斜方向のナク(風化欠損)、胴部、接合痕あり	
72	SZ1	34	文罎	脚部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑		4.3		横方向の工具ナク、指痕あり		
73	SC5	1	甕	口縁部~底部	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(42.7)	(30.5)	11.7	口縁部1/4、胴部1/3、底部1/2、指痕あり、ヨロレ、指痕	ナク、ユビオヤニ、一部凹痕	
80	SA3	70.20.20.20 20.20.20.20	甕	口縁部~胴部	口縁1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	19.2			口縁部コナナク、斜方向の工具ナク、口縁に微細なミダキあり	口縁部コナナク、指痕あり、接合痕あり	
81	SA3	156.33.8	甕	胴部~底部	胴部1/3、底部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑		4.5		横・斜方向の工具ナク、指痕あり、ヌメ部中央付着	斜方向の工具ナク、底部凹痕	
82	SA3	407.146	甕	口縁部~胴部	1/8	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑				口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、指痕あり	口縁部コナナク、横方向の工具ナク、接合痕あり	
83	SA3	302	鉢	完形		微細	黄	10.6	7.5	4.8	口縁部コナナク、ユビオヤニ、赤線あり	口縁部コナナク、ユビオヤニ、赤線あり	
85	SA9	84.136	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(21.8)			口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、指痕あり、ヨロレあり	口縁部コナナク、ナク(風化欠損) 指痕あり	
86	SA9	70.20.20.20 20.20.20.20	甕	口縁部~胴部	口縁1/6、底部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.4)	(21.2)	5.0	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク、赤線ミダキ、胴部上縁	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク(風化欠損)	
87	SA9	122	甕	口縁部~胴部	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(27.6)			口縁部コナナク、斜方向のナク(風化欠損不明)、接合痕あり	口縁部コナナク、横方向のナク(風化欠損不明)、接合痕あり	
88	SA9	353	甕	胴部~胴部	口縁部以外完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑		9.6		口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク、口縁部1/3以上付着	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク、接合痕あり、指痕あり	
89	SA9	76	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(25.7)			口縁部コナナク、ナク(風化欠損)	口縁部コナナク、ナク(風化欠損)	
90	SA9	151.282 314.345	甕	口縁部~胴部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(23.9)			口縁部コナナク、斜方向の工具ナク(風化欠損)	口縁部コナナク、斜方向の工具ナク(風化欠損)	
91	SA3	176	甕	口縁部~胴部	1/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(16.5)			口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク	口縁部コナナク、横方向の工具ナク	
92	SA9	64	甕	口縁部~胴部	1/8	微細	黄	(11.8)			口縁部コナナク後全体ミダキ(風化欠損)	ナク、ミダキ(風化欠損不明)	
93	SA9	350.406	洗鉢	口縁部~胴部	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(22.9)			口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク、接合痕あり	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク、胴部、接合痕あり	
94	SA9	79	甕	口縁部~胴部	1/8	微細	黄	(15.8)			口縁部コナナク、斜方向の工具ナク、指痕あり	口縁部コナナク、丁字ナク	
95	SA9	193	埴鉢	胴部~底部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(11.8)	6.7	(4.7)	ナク、斜方向の工具ナク、指痕あり	ナク、指痕あり	
96	SA9	120.133 134.136	高坏	坏部~脚部	坏部1/2、脚部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(6.4)	10.4	8.1	口縁部コナナク、胴部全体赤線、胴部凹痕あり、底部凹痕	口縁部コナナク、接合痕あり	胴部凹痕の裏側に赤線付着、観察している。
97	SA9	307	高坏	坏部~脚部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(15.9)	(13.0)	(11.5)	ミダキ、ナク(風化欠損不明)	ナク(風化欠損不明)	
98	SA9	182	高坏	脚部	1/8	微細	黄				ミダキ	ナク	
99	SA9	100.128 263.284	坏	胴部~底部	ほぼ完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	14.35	6.5	4.1	ミダキ(風化欠損不明)、一部赤線	ミダキ(風化欠損不明)、全体凹痕(内底)	
105	SA7	122	甕	口縁部~胴部	胴部1/3、口縁部欠損	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(16.2)	(18.0)	3.4	横・斜方向の工具ナク、指痕あり、ヨロレ	横・斜方向の工具ナク、指痕あり、ヨロレ	
106	SA7	壤土中	甕	口縁部~胴部	1/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(13.4)			口縁部コナナク、斜方向の工具ナク、指痕あり	口縁部コナナク、斜方向の工具ナク、指痕あり	
107	SA7	床底	甕	底部	底部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑		10.2		斜方向の工具ナク(風化欠損)、指痕あり、木の痕	工具ナク(風化欠損)、胴部	
108	SA7	120	高坏	坏部~脚部	1/4	微細	黄				ナク(風化欠損不明)	ナク(風化欠損不明)、指痕あり	
118	SA6	423	甕	口縁部~胴部	ほぼ完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	16.5	25.15	5.25	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、指痕あり、ヨロレ	口縁部コナナク、ナク(風化欠損)、指痕あり、胴部凹痕	
119	SA6	410	甕	胴部~胴部	完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑		4.6		横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、ユビオヤニ、指痕あり	斜方向の工具ナク(風化欠損)、胴部凹痕、接合痕あり	
120	SA6	48.335	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.4)			口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、指痕あり	口縁部コナナク、横・斜方向の工具ナク(風化欠損)、胴部、接合痕あり	
121	SA6	142.377	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(16.6)			口縁部コナナク、工具ナク(風化欠損)、指痕あり	ナク(風化欠損不明)、指痕あり、接合痕あり	
122	SA6	11.46.30.28 30.48.13	甕	口縁部~胴部	口縁1/2、底部完形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(25.0)	21.9	7.9	口縁部コナナク、胴部凹痕1/3付着、指痕あり	口縁部コナナク、不定方向の工具ナク、口縁部に微細な、指痕付着	
123	SA6	36.309.10	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(16.6)			口縁部コナナク、斜方向の工具ナク	口縁部コナナク、不定方向の工具ナク	
124	SA6	412	甕	口縁部~胴部	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑				口縁部コナナク、不定方向の工具ナク	口縁部コナナク、不定方向の工具ナク	

第3表 B-1区出土土器観察表(3)

番号	出土 場所	No.	種類	部位	残存度	土質	色調	口径	高さ	重量	列図	内面	備考
125	SA 6	36,289, 41,1D	甕	口縁部- 胴部	ほぼ完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色	(11.7)			口縁部コナテ、底方向の 一部破れ、スリ目、割れあり	口縁部コナテ、工具ナ テ、指痕、接合痕あり	
126	SA 6	409	鉢	口縁部- 底部	口縁1/2、 底部完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色	(13.25)	7.8	6.25	口縁部コナテ、底方向 の工具ナテ(風化気味)	口縁部コナテ、底方向 の工具ナテ	
127	SA 6	277,AB	高坏	坏部	1/4	微細	黄褐色	(15.9)			ミガキ、コゴレ付着	ミガキ(風化気味)	
128	SA 6	ニ	高坏	坏部-胴 部	坏部1/3、胴 部ほぼ完形	微細	橙		11.2		坏部ミガキ、磨滅方向のナ テ(文部館蔵)、斜方向の破 れあり	坏部ミガキ、ナテ(風化 気味)、指痕あり	
129	SA 6	3,205	高坏	坏部	4/5	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色		11.0		斜方向の工具ナテ、縦- 斜方向のミガキ	ナテ、指痕あり	
130	SA 6	378	坏	口縁部- 底部	1/4	微細	橙	(14.7)			口縁部コナテ、ミガキ、 ユビナヤス	口縁部コナテ、ミガキ (風化気味)	
131	SA 6	317,333	ニナテ 土器	口縁部- 底部	ほぼ完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色	(6.3)	3.2	5.35	ナテ、指痕、底部中央に 穿孔、底縁裏に割れあり	ナテ、指痕あり	
134	SA 4	34	甕	口縁部- 胴部	1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙	(16.8)			口縁部コナテ、縦-斜方 向の工具ナテ、全体スス付 着	口縁部コナテ、ナテ (風化気味)、接合痕あり	
135	SA 4	42	甕	胴部-底 部	胴部1/2、 底部完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色		(10.4)		斜方向の工具ナテ、接合 痕あり	斜方向の工具ナテ、接合 痕あり	
136	SA 4	42	甕	胴部-底 部	胴部1/2	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙	(5.2)			縦-斜方向の工具ナテ	縦-斜方向の工具ナテ、 コゴレ付着	
137	SA 4	30,103	甕	底部	底部完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色		8.5		工具ナテ、指痕あり。 本の磨滅	工具ナテ(風化気味)	
138	SA 4	94	小型甕	口縁部- 胴部	口縁1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙	(11.8)			横方向のナテ、接合痕あり あり。下部磨滅	縦-斜方向の工具ナテ、 下部磨滅	
139	SA 4	146	高坏	坏部	1/6	微細	橙	(19.4)			ナテ(風化の為不明瞭)	ミガキ(風化の為不明 瞭)	
140	SA 4	70	坏	口縁部- 胴部	口縁3/4	微細	橙	(16.6)	6.4	4.2	横方向のミガキ(風化気 味)、一部磨滅	横方向のミガキ(風化気 味)	
141	SA 4	24	坏	口縁部- 胴部	1/6	微細	橙	(14.0)			口縁部コナテ、ミガキ (風化気味)	口縁部コナテ、ミガキ (風化気味)	
142	SA 4	112	坏	口縁部- 底部	口縁1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙	(12.5)	4.6	6.2	口縁部コナテ、ナテ (風化の為不明瞭)	口縁部コナテ、ナテ (風化の為不明瞭)	
143	SA 4	ロ	土器	下部欠損	2/3	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙				丁寧なナテ	丁寧なナテ	
144	SA 4	D	ニナテ 土器	胴部-底 部	底部完形	微細	橙			3.7	ユビナテ、底部磨滅	ユビナテ	
145	SA 4	D	土器甕	口縁部- 底部	1/4	微細	黄褐色	(97.9)	1.5	(6.4)	回転ナテ、糸切痕	回転ナテ	
146	SA 4	D	土器甕	胴部-底 部	1/2	微細	黄褐色		(5.5)		回転ナテ、ヘラ切り痕	回転ナテ	
176	SA 8	9	甕	口縁部- 胴部	1/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙	(18.2)			口縁部コナテ、縦-斜方 向の工具ナテ、スス付着	ナテ(風化気味)	
177	SA 8	91,94	甕	底部	4/5	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙		(10.4)		ナテ(風化気味)、木の 葉痕、底部中央より底	ナテ(風化気味)	
186	B-1区	包含甕	甕	胴部-底 部	胴部1/5	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色		6.7		縦-斜方向の工具ナテ、全体に ススコゴレ付着、木の葉痕	縦方向の工具ナテ、接合 痕あり	
186	B-1区	包含甕	甕	胴部-底 部	底部3/4	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙		(10.0)		縦-斜方向の工具ナテ、 スス付着	縦-斜方向の工具ナテ、 コゴレ付着	
187	B-1区	包含甕	甕	口縁部- 底部	2/3、底部 完形	1~3mm程度の 砂粒を含む	橙		4.9		ケズリ状の工具ナテ(風 化気味)、木の葉痕	ナテ(風化の為不明瞭)	
188	B-1区	包含甕	横溝須 恵与甕	坏部	1/8	微細	橙	(11.7)			横方向のミガキ	横方向のミガキ、糸切痕	
189	B-1区	包含甕	横溝須 恵与甕	口縁部- 底部	1/3	1~3mm程度の 砂粒を含む	黄褐色	(14.6)	3.9		口縁部コナテ、ミガキ (風化の為不明瞭)	ナテ、ミガキ(風化気 味)	
190	B-1区	包含甕	坏	口縁部- 底部	ほぼ完形	微細	橙	11.8	5.0	4.0	ナテ(底の糸切痕、底部に スス、磨滅痕あり)にコゴレあり	ナテ(風化の為不明瞭)	
191	B-1区	包含甕	坏	口縁部- 底部	口縁1/5、 底部完形	微細	橙	(15.3)	6.6	2.0	丸底。ミガキ、一部ヘラ ケズリ。磨滅あり	ミガキ(風化気味)、底 部磨滅痕	



第5表 B-2区出土土器観察表(2)

番号	出土遺構	種類	部位	残存率	形状	色調	口徑	高さ	直径	外観	内面	備考
289	SA34 163.1,イ	甕	口縁部-底部	底面完形、口縁1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	(23.6)	27.58	6.5	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテの痕跡のみ確認、スス付着あり	口縁部コナテ、新方向の工具ナテ(風化気味)、甕面、甕底あり	
291	SA34 19	甕	口縁部-底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	(25.2)			口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、甕面、甕底付着あり	口縁部コナテ、新方向の工具ナテ、甕面あり	
292	SA34 111.13, 15,イ	甕	口縁部-底部	口縁1/2、口縁はほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	(23.36)	25.5	5.6	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、新方向の工具ナテ、スス付着あり	
293	SA34 111.13, 15,イ,ロ	甕	口縁部-底部	胴部1/2、口縁はほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	20.5	28.8	4.5	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、新方向の工具ナテ、スス付着あり	床面出土
294	SA34 33,イ	甕	口縁部-底部	口縁完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	20.8			口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、甕面、全体にスス付着あり	口縁部コナテ、新方向の工具ナテ、甕面あり	
295	SA34 47	甕	口縁部-底部	口縁1/2	微細	黄	(23.7)			口縁部コナテ、ナテ(風化の不明瞭)、甕面(微細)	口縁部コナテ、ナテ(風化の不明瞭)	
296	SA34 ロ	甕	胴部-底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			(7.4)	甕・新方向の工具ナテ、口縁部コナテ、スス付着あり	甕・新方向の工具ナテ(風化気味)、甕面あり	
297	SA34 30	甕	口縁部-底部	口縁1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	(15.1)		(4.0)	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、ナテ(風化気味)、工具ナテ、甕面、甕底あり	床面出土
298	SA34 36	鉢	口縁部-底部	1/4	1-3mm程度の赤褐色砂粒を含む	黄褐色	(13.9)	(8.35)	6.2	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
299	SA34 40	鉢	口縁部-底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	12.4	11.1	6.5	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	ナテ(風化気味)、甕・新方向の工具ナテ	
300	SA34 31	高杯	受皿部-胴部	全形1/2、胴部はほぼ完形	微細	黄	(14.85)	(10.6)	9.3	甕・新方向の工具ナテ	ナテ(風化の不明瞭)	
301	SA34 28.54	高杯	杯部-胴部	ほぼ完形	微細	黄	16.75	11.45	12.9	甕・新方向の工具ナテ、微細	ナテ(風化の不明瞭)、甕・新方向の工具ナテ	
302	SA34 24.26	高杯	杯部	3/4	微細	黄			13.0	甕・新方向の工具ナテ、ナテ	ナテ、甕面、甕底あり	
303	SA34 29.30	杯	口縁部-底部	ほぼ完形	微細	黄	16.5	6.3	6.8	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
304	SA34 40	杯	口縁部-底部	口縁1/2、胴部ほぼ完形	微細	黄	(14.3)	(7.2)	2.9	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
305	SA34 31	杯	口縁部-底部	3/4	微細	黄	(15.1)	6.3	4.5	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、甕面ナテ	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、見込み工具痕	
313	SA28 4.16	甕	胴部-底部	1/4	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色				甕・新方向の工具ナテ、甕面、スス付着あり	ナテ(風化の不明瞭)	
319	SA29 46.50.5A, 37.5B	甕	口縁部-底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	18.8	31.25		口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、甕面あり	
320	SA29 11,イ	甕	口縁部-底部	底面完形、口縁1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	(20.3)	24.4	4.6	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ(風化気味)	
321	SA29 9,イ	甕	口縁部-胴部	1/8	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色				口縁部コナテ、新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、ナテ(風化の不明瞭)、甕面あり	
322	SA29 9.12	甕	底部	2/3	1-3mm程度の砂粒を含む	黄			4.5	甕・新方向の工具ナテ、甕面	ナテ、甕面中心部割裂状に工具痕あり	
323	SA29 13,イ	鉢	底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			8.35	甕・新方向の工具ナテ、甕面、スス付着あり	甕・新方向の工具ナテ	
324	SA29 116.13,イ	甕	底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			5.0	ナテ、新方向の工具ナテ、甕面、スス付着あり	ナテ(風化気味)	
325	SA29 50	甕	口縁部-底部	口縁3/4、胴部2/3	微細	黄	(8.7)	11.1		ナテのみミガキ	ナテ、甕面あり	
326	SA29 132,イ	小甕	胴部-胴部	1/2	微細	黄				甕・新方向の工具ナテ、ミガキ(風化の不明瞭)	ナテ(風化気味)、甕面付近に接合痕あり	
327	SA29 58.60	高杯	杯部-胴部	杯部1/2、胴部完形	微細	黄	(15.2)	10.3	(9.9)	ナテ(風化気味)、甕・新方向の工具ナテ、甕面に接合痕あり	甕・新方向の工具ナテ(風化の不明瞭)、甕面あり	
328	SA29 75.79	杯	口縁部-底部	ほぼ完形	微細	黄	16.2	6.15	6.6	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
329	SA29 79	杯	口縁部-底部	1/2	微細	黄	(16.0)			不定方向のミガキ、1つは甕面ゴザリ痕あり	ミガキ(風化の不明瞭)	
330	SA29 掘土中	土鍬	中軸	2/3	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			幅2.7	ナテ、1つは甕面ゴザリ痕あり	ナテ、甕面あり	
331	SA29 34	3コマ土器	胴部-底部	2/3	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			3.2	ナテ、1つは甕面ゴザリ痕あり	ナテ、甕面あり	
340	SA30 53.00.12B, 138.14B	浅鉢?	底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄			8.25	甕・新方向の工具ナテ、甕面、スス付着あり	甕・新方向の工具ナテ、口縁部完形、甕面あり	
341	SA30 11.55	浅鉢又は浅鉢	胴部-底部	1/3	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色			(8.2)	ナテ(風化気味)、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	ナテ(風化気味)	
342	SA30 150.135	高杯	杯部	3/4	微細	黄褐色	(15.5)			ナテ(風化の不明瞭)、見込み(1つは、1つは甕面ゴザリ痕あり)	ナテ、一部ミガキ(風化の不明瞭)	
343	SA30 146	高杯	杯部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄			8.55	甕・新方向の工具ナテ、口縁部コナテ	ナテ、甕面付近に接合痕あり	甕の口縁部に接合痕あり、口縁はほぼ完形
344	SA30 132	高杯	杯部-胴部	胴部1/4、杯部ほぼ完形	微細	黄	15.9	12.7	(12.0)	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
345	SA30 73.74.11A, 127	杯	口縁部-底部	口縁1/2、底面完形	微細	黄褐色	(17.5)	7.1	3.7	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ、スス付着あり	口縁部コナテ、甕・新方向の工具ナテ	
348	SA17 43.57.71	甕	口縁部-胴部	口縁3/4	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色	(17.4)			口縁部コナテ、全体付着あり	口縁部コナテ、全体付着あり	小甕形胴部
349	SA17 11.30	甕底蓋	胴部-胴部	1/4	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色	(7.3)	(10.6)		ナテ、ミガキ、甕面(風化気味)	ナテ、甕面あり	
350	SA17 72	鉢?	口縁部-胴部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄褐色	(11.5)			コナテ、ミガキ、甕面、スス付着あり	コナテ、ナテ(風化気味)	
351	SA17 150	3コマ土器	胴部-底部	ほぼ完形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄	8.45	6.80	3.82	甕・新方向の工具ナテ、全体付着あり	甕・新方向の工具ナテ、全体付着あり	
352	SA17 89	高杯	杯部-胴部	杯部1/2、胴部完形	微細	黄	(12.5)	8.6	8.9	ナテ(風化で底不明瞭)、ミガキ(甕面付着)	ミガキ(風化で底不明瞭)、甕面付着あり	床面出土
353	SA17 73.88	高杯	杯部-胴部	杯部1/4、胴部完形	微細	黄				ナテ(風化で底不明瞭)、ミガキ(甕面付着)	ナテ(風化で底不明瞭)、甕面付着あり	床面出土

第6表 B-2区出土土器観察表(3)

番号	出土遺跡	種類	部位	存在数	胎土	表割	口徑	高さ	底径	外周	内面	備考
354	SA17 136,138, 140	高坪	坏部一底部	口縁3/4	黄緑	黄緑	13.6	11.85	10.05	口縁3/4, 裏面1/10, 胎土粗粒多量	口縁3/4, 裏面1/10, 胎土粗粒多量	床面上
355	SA17 80	甕?	口縁一底部	口縁1/2	微細	微	16.0	3.45		横方向のミガキ痕了寡なミガキ、ナデ (風化灰)	ミガキ、ナデ	床面上
356	SA17 94,147	甕?	口縁一底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(13.5)	2.6	(8.5)	横方向のミガキ、のちミガキ、ナデ	横方向のミガキ痕了寡なミガキ、ナデ	坏心、8期、床面上
357	SA17 104,147	甕	口縁一底部	ほぼ定形	微細	微	13.0	6.75	3.20	横方向のミガキ、のちミガキ、ナデ	横方向のミガキ痕了寡なミガキ、ナデ	
358	SA17 47,26,85	鉢	口縁一底部	口縁3/4	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(18.7)	6.7	9.0	縦・斜方向のナデ、横方向のナデ	斜方向のナデ	
359	SA17 102,90	坏	口縁一底部	口縁3/4	1-3mm程度の砂粒を含む	微	11.8	4.9	3.5	ヨコナデ、ミガキ (風化灰)	ヨコナデ、ミガキ (風化灰)	床面上
376	SC7 1	甕	口縁一底部	1/6	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑				口縁部ヨコナデ、横方向の工具ナデ、スス付着	口縁部ヨコナデ、横方向の工具ナデ、横合痕あり	7-8期
377	SC7 2	甕	胴部一底部	1/3	1-3mm程度の砂粒を含む	微				縦・斜方向の工具ナデ (風化灰)、スス付着付着	縦・斜方向の工具ナデ (風化灰)、横合痕あり	
378	SC7 3	1ナデ7土甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	7.7	5.12	2.85	ヨコナデ、指痕、横合痕あり	ヨコナデ、指痕、横合痕あり	
379	SC7 7	甕土中	口縁一底部	2/3	微細	微	(17.0)	(3.9)	4.1	口縁一底部ヨコナデ、横方向のミガキ	口縁部ヨコナデ、丁寧なナデ (風化で不明瞭)、ヨコナデ付着	口縁部若干変形痕。
380	SA19 北沢原風見塚	坏	口縁一底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(25.5)		6.5	ナデ (風化で不明瞭)、ヨコナデ付着	横方向の工具ナデ (風化で不明瞭)。	
381	SA19 136,138, 167	甕?	口縁一底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(15.2)			口縁部ヨコナデ、全体ナデ (風化灰)、全体ナデ付着	口縁部ヨコナデ、全体横方向の工具ナデ、横合痕あり	床面上
382	SA19 155	甕	胴部一底部	1/3	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑			6.45	縦・斜方向の工具ナデ (風化灰)、木の産痕	斜方向の工具ナデ (風化灰)、木の産痕	
383	SA19 147	甕	胴部一底部	胴部1/2, 底部定形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑			6.6	縦・斜方向の工具ナデ、底部付着産痕	ナデ (風化不明瞭)	
384	SA19 北沢原風見塚	甕	口縁一底部	上半分完形, 下半分1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	14.5	6.2	6.2	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ (風化灰)、横合痕あり	口縁部ヨコナデ、全体横方向の工具ナデ、横合痕あり	床面上
385	SA19 196	深鉢	口縁一底部	1/3	微細	微	(11.7)			口縁部ヨコナデ、斜方向のミガキ (風化灰)	口縁部ヨコナデ、ナデ (風化灰)、指痕あり	
386	SA19 148	深鉢	口縁一底部	1/3	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(13.4)	(6.35)	(8.5)	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ (風化灰)、木の産痕、横合痕あり	口縁部ヨコナデ、斜方向の横い工具ナデ	
387	SA19 160	坏	口縁一底部	1/2	微細	微	(12.2)	(4.6)		ミガキ、底部木の産痕?	ミガキ (風化で不明瞭)。	
388	SA35 16	甕	胴部一底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(25.0)			口縁部ヨコナデ、縦・横方向の工具ナデ、横合痕、スス付着	口縁部ヨコナデ、縦・横方向の工具ナデ、横合痕、スス付着	
389	SA35 16	甕	胴部一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微			5.4	縦・斜方向の工具ナデ、スス付着付着、底面にスス付着	縦・斜方向の工具ナデ、底面にスス付着	底部がこり面
400	SA38 16,17,18, 19	甕	胴部一底部	胴部1/2, 底部定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微			(8.2)	縦・斜方向の工具ナデ、スス付着付着	縦・斜方向の工具ナデ、スス付着付着	
401	SA38 10,ハ	甕	胴部一底部	胴部1/2, 底部定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微			6.50	縦・斜方向の工具ナデ	ナデ、ヨコナデ付着付着、横合痕あり	
402	SA38 12	甕	胴部一底部	1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	微			(7.2)	ナデ、横合痕あり、木の産痕	ナデ、横い工具ナデ	
403	SA38 16,19	甕	口縁一底部	口縁1/2	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(13.6)			口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ (風化灰)、横合痕あり	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ (風化灰)、横合痕あり	胴み部分分布の拡張
404	SA38 16	小型甕	口縁一底部	5/6	微細	微	8.9			横方向のミガキ、指痕、横合痕あり	横方向のミガキ、指痕、横合痕あり	げっ歯類ダゲリ痕あり
405	SA38 15	高坪	坏部一底部	受部1/2残存	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(15.0)	(10.8)	(11.5)	ミガキ	ミガキ、ナデ	床面上
414	SA19 北沢原風見塚	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微	18.8	24.7	6.3	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	
415	SA19 北沢原風見塚	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微	13.3	24.9	4.8	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、横合痕あり、口縁部一次横合痕あり	縦・斜方向の工具ナデ、横合痕あり、口縁部一次横合痕あり	
416	SA19 147	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	19.6	21.9	7.13	口縁部ヨコナデ、縦・斜方向の工具ナデ、底部木の産痕	口縁部ヨコナデ、縦・斜方向の工具ナデ、横合痕あり	
417	SA19 214	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微	24.8	31.2	2.7	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	
418	SA19 北沢原風見塚	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微	(20.4)	25.6		口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	底部中央がくぼんでいる。奥面に深い。
419	SA19 263	甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微	21.4	25.3	4.75	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	
420	SA19 263	小型甕	口縁一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	19.9	29.8	5.35	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	
421	SA19 287	小型甕	口縁一底部	ほぼ定形	微細	黄緑	10.5	14.8	4.2	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	口縁部ヨコナデ、斜方向の工具ナデ、スス付着付着	4期?
422	SA19 96	小型甕	胴部一底部	ほぼ定形	1-3mm程度の砂粒を含む	微			6.4	横方向のミガキ (風化灰)、ヨコナデ付着	横方向のミガキ (風化灰)、ヨコナデ付着	
423	SA19 46,209, 420	甕?	口縁一底部	ほぼ定形	微細	微	6.52	12.5		胴面に横い工具ナデ、全体ナデ (風化灰)、ヨコナデあり	ナデ (風化灰)、ヨコナデあり	
424	SA19 468	鉢	口縁1/10, 底部一胴部定形	口縁1/10, 底部一胴部定形	1-3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(11.2)	4.9	4.2	横方向のナデ、底部木の産痕	縦・斜方向のナデ	
425	SA19 310	甕	口縁一底部	3/4	微細	微	(16.4)	7.8	3.5	ミガキ	ナデ (風化灰)	7-8期
426	SA19 317	坏	口縁一底部	1/5	微細	微	(17.6)	(7.4)	(3.8)	ミガキ (風化灰)	口縁部ヨコナデ、全体ミガキ、横合痕?	
427	SA19 291	坏	口縁一底部	口縁1/3	微細	微	(15.7)	6.35	4.0	ミガキ (風化灰)	ミガキ	4-5期
428	SA19 256	鉢?高台付	口縁一底部	ほぼ定形	微細	微	8.0	(6.7)		縦・斜方向のナデ、指痕痕あり。	縦・斜方向のナデ、指痕痕あり。	

第7表 B-2区出土土器観察表(4)

番号	出土遺構	種類	部位	残存度	土質	色調	口径	高さ	底径	外画	内画	備考
429	SA15 340	土器	口縁部一底	口縁1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(6.6)	5.3	4.8	ナテ(風化灰味)。一部スス付着。	工具ナテによるヨコナテ、斜方向のナテ	
438	SA16 堆土中	埴	口縁部	1/6	微細	黄	(12.8)			ナテ、ミガキ(風化の為不明瞭)	ナテ、ミガキ(風化の為不明瞭)	
439	SA16 堆土中	埴	口縁部	1/6	微細	黄				ナテ、ミガキ(風化の為不明瞭)	ナテ、ミガキ(風化の為不明瞭)	
440	SA15-341	土器	口縁部一底	1/4	微細	黄	(8.5)	(4.8)		横・斜方向のナテ、工具痕有り	ナテ	
443	SA11 50	埴	口縁部一底	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(24.6)			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ	口縁部ヨコナテ、斜方向の工具ナテ、横・斜方向の工具ナテ	
444	SA11 50	埴	口縁部一底	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄				横・斜方向のヘラツクリ、瓦割痕・斜方向の工具ナテ	縦方向のヘラツクリ、底部付着痕・斜方向の工具ナテ	
445	SA11 121314 15	埴	口縁部一底	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	13.8			口縁部ヨコナテ、斜方向の工具ナテ(風化灰味)	口縁部ヨコナテ、斜方向の工具ナテ	底口縁
446	SA11 堆土中	狭口壺	口縁部一底	1/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(12.3)			口縁部ヨコナテ、ナテ(風化灰味)	ナテ、縦合痕あり	
447	SA11 10	狭口壺	口縁部一底	1/2	微細	黄	(11.4)	(4.3)	(7.2)	ヨコナテ(風化灰味)	ヨコナテ(風化灰味)	
450	SA11 93113 115ハ	土器	口縁部一底	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(15.0)			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横・斜方向の工具ナテ、全体スス付着、横合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕あり	
461	SA14 国田山田 国田山田	土器	口縁部一底	3/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.7)			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ(風化灰味)、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦方向の工具ナテ(風化灰味)、縦合痕あり	
462	SA4 158ハ	土器	口縁部一底	2/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(30.35)	(15.75)	(6.75)	口縁部ヨコナテ、縦方向のナテ、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向のナテ、縦合痕あり	
463	SA14 223	狭口壺	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	10.2	5.4	3.6	口縁部横画、口縁部ヨコナテ、全体にミガキ。(風化不明瞭)	口縁部ヨコナテ、全体にミガキ	
454	SA14 ニ	埴	口縁部一底		微細	黄	(3.1)			赤影着。口縁部ヨコナテ、全体にミガキ。縦合痕あり	ミガキ	
455	SA14 187	狭口壺	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	10.4	11.6	3.5	口縁部ヨコナテ、全体にミガキ、ナテ	縦部ツクリ、全体にナテ、ナテ、縦部ツクリ、斜部ツクリ	
456	SA14 108178 187ハ	高杯	口縁部一底		微細	黄				ナテ、縦・斜方向のナテ、スス付着	ナテ(風化灰味)、スス付着	
470	SA25 4	埴	口縁部一底	1/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.0)			ナテ	ナテ(風化灰味)、スス付着	
471	SA25 11	埴	口縁部一底	1/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(38.2)			ナテ、縦・斜方向のナテ、横・斜方向のミガキ、横合痕	ナテ、縦・斜方向のミガキ、横合痕	
477	SA23 260	壺	口縁部一底	口縁2/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(13.6)	(14.45)	(5.2)	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
478	SA23 338	壺	口縁部一底	口縁3/4	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(16.6)			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
479	SA23 26	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	13.5	25.4	6.1	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
480	SA23 294	壺	口縁部一底	口縁1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.35)	25.6	4.9	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
481	SA23 294	壺	口縁部一底	口縁3/5	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(19.95)			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
482	SA23 32	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	20.5	25.6	4.9	口縁部ヨコナテ、工具ナテ(風化灰味)、スス上に付着	口縁部ヨコナテ、ナテ(風化灰味)、スス上に付着	
483	SA23 26727 355ハ	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	19.8	25.1	3.2	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	横土層より出土。
484	SA23 301 352ハ	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	34.55	25.1	5.65	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
485	SA23 234	壺	口縁部一底	口縁1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(33.3)	24.0	9.7	ナテ(風化不明瞭)、斜部、口縁部一底に付着、斜部付着、口縁部付着、斜部付着	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
486	SA23 169	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	25.6	21.3	7.3	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
487	SA23 43.7ハ	壺	口縁部一底	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(27.45)	(25.86)	(7.0)	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕、縦合痕あり	
488	SA23 273.280	土器	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	6.95	9.1	1.5	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向のミガキ	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向のミガキ	
489	SA23 294	壺	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	10.8	10.65	4.9	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	
490	SA23 277	埴	口縁部一底	1/2	微細	黄	(13.2)			口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	
491	SA23 28	壺	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	15.6	10.3	3.2	口縁部ヨコナテ、ミガキ	口縁部ヨコナテ、ミガキ、中央少しぼく	
492	SA23 204.307	埴	口縁部一底	1/2	微細	黄	(17.6)	6.15	9.25	口縁部ヨコナテ、不定方向の工具ナテ、ミガキ、本の底	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ(風化不明)	
493	SA23 136.317	埴	口縁部一底	3/4	微細	黄	(15.2)	7.0	3.6	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化)	466と入手状態で出土(9)
494	SA23 273.274 280ハ	埴	口縁部一底	ほぼ先形	微細	黄	14.55	4.3	6.85	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化)	
495	SA23 195.196	埴	口縁部一底	3/4、底面一部欠損	微細	黄	(14.4)	5.9		口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	ナテ(風化の為不明瞭)	499と入手状態で出土
496	SA23 107	狭口壺	口縁部一底	1/2	微細	黄	(14.7)	6.0		口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	
497	SA23 96.104ハ	狭口壺	口縁部一底	1/3	微細	黄	(13.55)	5.1		口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	口縁部ヨコナテ、ミガキ(風化不明)	
498	SA23 26	埴	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	5.79	4.35	4.4	横・斜方向のナテ	下からトコニよるナテ	
510	SA13 221	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄				ナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕あり	ナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕あり	
511	SA13 1334.114 13	壺	口縁部一底	ほぼ先形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	16.73			口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕あり	口縁部ヨコナテ、縦・斜方向の工具ナテ、横合痕あり	

第8表 B-2 区出土土器観察表(5)

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	胎土	色調	口徑	器高	直径	内面	備考
512	SA13 104.116	甕	口縁部・底部付足	口縁1/2	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	32(0)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、ス、3ヶ所全体に付着	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、底部、接合部あり
513	SA13 184	甕	口縁部・底部	口縁3/4	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	20(15)	25.08	7.4	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、ス、3ヶ所全体に付着	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり、全体にヨゴレ付着
514	SA13 164	甕	口縁部・底部	ほぼ完全	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	13.65	24.2	6.4	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
515	SA13 81.87.80.92.114.256.イ	甕	口縁部・底部付足	胎土なし、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	16.5			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
516	SA13 110	甕	口縁部・底部付足	口縁1/16、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	33(0)			1口縁部コナナ、斜方向の工具ナ、接合部あり	1口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
517	SA13 131.147	甕	胴部・底部	胎土なし、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄			5.60	胴部・斜方向の工具ナ、接合部あり	胴部・斜方向の工具ナ、接合部あり
518	SA13 172	甕	胴部	口縁1/2	1〜3mm程度の砂粒を含む	灰緑			7.05	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、水	胴部コナナ、指痕あり
519	SA13 33.51.94.99	甕	口縁部・底部付足	1/2	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	21(0)	30(2)	6(1)	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、水	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、水
520	SA13 125.216.217	甕	胴部	胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄			8.2	胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、水	胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、水
521	SA13 12.56.58.10.170.173	甕	口縁部・底部	口縁3/4、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	14(3)	34.0	10.3	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、ヨゴレ部より付着	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、ヨゴレ部より付着
522	SA13 126.123	甕	口縁部・底部付足	口縁3/4、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	16(0)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
523	SA13 21.211.236	甕	胴部・底部	ほぼ完全	黄緑	13.2	8.95	7.2		口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
524	SA13 横土	高坏	胴部		1〜3mm程度の砂粒を含む	黄			9.9	コナナ、胴部に接合部あり	ナナ
525	SA13 196	高坏	胴部	ほぼ完全	黄緑	14.2	10.7	10.7		胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
526	SA13 74	高坏	胴部	胎土部	黄緑	19.00	17.05	13.05		胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
527	SA13 37	高坏	胴部	口縁1/2	黄緑		15(3)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
528	SA13 154	横線文高坏	口縁部・底部	1/3	黄緑	14(2)	4.05	8.2		受部コナナ、ミガキ(風化)	丁寧なナナ(風化欠)
529	SA13 70	口縁部・底部	2/3	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	7(0)	4.13	2.0		エビナナ、指痕あり	エビナナ、指痕あり
530	SA13 横土	口縁部・底部	胎土部	黄緑	9(4)	2.4	5.4			ナナ(風化欠)、水	ナナ(風化欠)、水
531	SA13 横土	台付坏	口縁部	1/2	黄緑	9(8)	3.3			口縁部コナナ、ミガキ(風化欠)	口縁部コナナ、ミガキ(風化欠)
548	SA20 322.347.382.イ	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	22(45)	29.5	4.75	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
549	SA20 391.43A.437.イ	甕	口縁部・底部	ほぼ完全	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	21.6	28.7	4.0	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
550	SA20 391	甕	口縁部・底部	口縁1/4、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	23(1)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
551	SA20 321.322.327.イ	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	20(3)	29.35	3.9	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
552	SA20 321.330.371.90.イ	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	20(6)	28.1	4.8	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
553	SA20 322.352.イ	甕	口縁部・底部	3/4	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	19(5)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
554	SA20 319	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄緑	16(5)	19.6	3.7	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
555	SA20 322.37.308.346.372.イ	甕	口縁部・底部	口縁3/4、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	20(0)	24.05	6.9	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
556	SA20 322.37.308.346.372.イ	甕	口縁部・底部	ほぼ完全	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	27(2)	36.85	6.75	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
557	SA20 347.イ	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	19(1)	18.8	4.55	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
558	SA20 132.166.31.131.9	甕	口縁部・底部	胎土部	黄緑	11(5)	21.5	7.0		口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
559	SA20 418.イ	甕	口縁部・底部	口縁1/4、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	33(3)	33.7	7.0	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
560	SA20 312.202.242.93.イ	甕	口縁部・底部	1/2	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	30(25)			口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
561	SA20 316.41R.320.イ	甕	口縁部・底部	ほぼ完全	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	18.3	25.75	7.8	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
562	SA20 166.309.311.1	甕	口縁部・底部	ほぼ完全	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	16.0	27.0	4.0	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
563	SA20 318.230.385	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	16(8)	22.8	(5.7)	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
564	SA20 320.335.349	甕	口縁部・底部	口縁1/2、胎土部	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄	17(05)	27.76	3.6	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
565	SA20 320.368.イ	甕	胴部・底部	1/2	1〜3mm程度の砂粒を含む	黄				胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	胴部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
566	SA20 イニ	甕	口縁部・底部	口縁1/2	黄緑	16.6				口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
567	SA20 348	坏	胴部	ほぼ完全	黄緑	14.35	6.40	2.2		口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
568	SA20 435.ニ	坏	胴部	ほぼ完全	黄緑	14.65	6.6	3.7		口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり
569	SA20 337	坏	胴部	ほぼ完全	黄緑	15.6	6.5	5.2		口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり	口縁部コナナ、横・斜方向の工具ナ、接合部あり

603と同一タイプ。



第9表 B-2区出土土器観察表(6)

番号	出土遺構	種類	部位	埋存位置	胎土	色調	口径	底径	底径	外底	内面	備考
570	SA20 314,316, 369	坏	口縁部一底部	底部1/2, ほぼ正形	微細	黄	15.5	6.1	4.0	ミガキ(一部風化欠味)	ミガキ, 丁寧なナデ(風化欠味)	
571	SA20 324,316, 369	坏	口縁部一底部	1/2	微細	黄	(16.88)			1.5mm程度のミガキ, ミガキナデ(風化欠味)	口縁部ミガキナデ, ミガキ	
572	SA20 93,78ハ	坏	口縁部一底部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(12.55)	3.1	3.1	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ(風化欠味), 磨滅あり	口縁部ミガキナデ, ミガキ, コロシ付	
573	SA20 23	椀・灰皿	口縁部一底部	3/4	微細	黄	(12.65)	4.85	2.5	口縁部ミガキナデ, ミガキ(風化欠味)	口縁部ミガキナデ, ミガキ(風化欠味)	
574	SA20 18	椀・灰皿	口縁部一底部	5/6	微細	黄	11.4	4.40	3.0	口縁部ミガキナデ, ミガキ(風化欠味), 赤銅色	口縁部ミガキナデ, ミガキ, 赤銅色	
575	SA20 118,306, 307,347	椀・灰皿	口縁部一底部	口縁1/2, ほぼ正形	微細	黄	(14.0)	5.75	4.75	口縁部ミガキナデ, ミガキ(風化欠味), 赤銅色	口縁部ミガキナデ, ミガキ(風化欠味)	
576	SA20 271	鉢	口縁部一底部	口縁1/2, ほぼ正形	微細	黄	(11.5)	(7.9)	3.7	不定方向の工具ナデ, ミガキ(風化欠味)	不定方向の工具ナデ, ミガキ(風化欠味)	
577	SA20 391,ニ	鉢	口縁部一底部	口縁1/2, ほぼ正形	微細	黄	(12.70)	11.0	6.0	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
578	SA20 284,285ハ	高坏	坏部一胴部	ほぼ正形	褐色の微細粒を含む	黄	(8.5)	9.0	8.50	口縁部ミガキナデ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキナデ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
579	SA20 345,346	高坏	坏部一胴部	ほぼ正形	微細	黄	(14.6)	11.85	9.9	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
580	SA20 438,ニ	高坏	坏部一胴部	ほぼ正形	微細	黄	(13.5)	8.8	10.7	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
581	SA20 300,366	高坏	胴部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄			(8.60)	縦・斜方向のナデ, 磨滅あり	ナデ, 磨滅あり, コロシ付	
582	SA20 383	ミナコト土器	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	5.1	3.55	1.8	ナデ, 磨滅あり	ナデ, 磨滅あり	
583	SA20 338	ミナコト土器	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(7.0)	5.5	3.8	ナデ, 磨滅あり	ナデ, 磨滅あり	
584	SA22 385	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(19.5)	18.25	8.2	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	片断
590	SA22 385	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(21.0)			口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	片断
594	SA22 67,50,121, 170,171	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(10.7)			口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	片断
596	SA22 64,73,61, 134,135	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(18.4)			口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
598	SA22 182	甕	底部	底部正形	微細	黄			8.9	縦方向の工具ナデ, 磨滅あり	工具ナデの残片のみ	
597	SA22 62,166, 167	椀・灰皿	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	(13.1)	6.1		ナデ, ミガキ(風化欠味)	ナデ, ミガキ(風化欠味), 赤	
598	SA22 104,184	椀・灰皿	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	14.55	4.9		ナデ, ミガキ(風化欠味)	ナデ, ミガキ(風化欠味), 赤	
599	SA22 43	ミナコト土器	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	6.4	3.5	3.2	口縁部ミガキ, ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, ナデ	
604	SA21 38,42,78,6, 62,63,64	甕	口縁部一胴部	口縁1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(9.1)			口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
605	SA21 209	甕	口縁部一胴部	ほぼ正形	微細	黄			7.2	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
606	SA21 137,207	甕	口縁部一胴部	ほぼ正形	微細	黄	(13.8)	31.7	7.0	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
607	SA21 30,61,64,68, 69,71,73	高坏	坏部一胴部	口縁1/2, ほぼ正形	微細	黄	(14.65)	12.6	10.3	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
608	SA21 38,61,64, 68,71,73	椀・灰皿	口縁部一底部	口縁1/2	微細	黄	(14.25)	4.0		口縁部ミガキ(風化欠味不明), ミガキ	口縁部ミガキ(風化欠味不明), ミガキ	
615	SA12 12,40	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	17.2	21.2	5.3	口縁部ミガキ, 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	
616	SA12 12	甕	口縁部一底部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(17.4)	(20.4)	(4.8)	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 前方の工具ナデ, 磨滅あり	
617	SA12 11,18,15,28, 27,28,30,32	甕	口縁部一底部	口縁1/2, ほぼ正形	微細	黄	(19.2)	(20.2)	6.9	口縁部ミガキ, 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	
618	SA12 7	甕	底部	ほぼ正形	微細	黄			7.6	ナデ, 木の炭, 磨滅あり	ナデ	
619	SA12 35	甕	口縁部一底部	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	9.7	4.2	9.4	口縁部ミガキ, ナデ, 接合痕, 磨滅あり	ナデ	
620	SA12 20	ミナコト土器	口縁部一底部	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	7.1	3.9	3.5	ナデ, 工具ナデ, 風化欠味	ナデ, 接合痕, 磨滅あり	
625	B-2 包含層	甕	口縁部一底部	1/3	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(13.2)			口縁部ミガキ, ナデ(風化欠味), げっ歯類ナデあり	口縁部ミガキ, 接合痕あり, げっ歯類ナデあり	
626	B-2 包含層	甕	底部	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄			12.45	縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	
627	B-2 包含層	瓶	把手	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄				縦・斜方向の工具ナデ, ナデ	ナデ, 磨滅あり	
628	B-2 包含層	瓶	胴部一底部	底部正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄			7.7	ナデ(風化欠味), 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	ナデ(風化欠味), 接合痕あり	底部の穿孔をきれいに埋められている
629	B-2 包含層	高坏	坏部	1/2	微細	黄	(15.4)			縦・斜方向のミガキ	縦方向のミガキ, 胴部内残存状にナデ	
630	B-2 包含層	高坏	坏部	ほぼ正形	微細	黄			9.7	縦・斜方向のミガキ, ナデ(風化欠味)	ナデ(風化欠味), 工具ナデ	
631	B-2 包含層	坏	口縁部一底部	ほぼ正形	微細	黄	13.9	5.1	4.9	口縁部ミガキ, ナデ(風化欠味), げっ歯類ナデあり	口縁部ミガキ, ナデ(風化欠味), げっ歯類ナデあり	
632	B-2 包含層	坏	口縁部一底部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(12.9)	(6.3)	(5.2)	口縁部ミガキ, 縦・斜方向の工具ナデ, 磨滅あり	口縁部ミガキ, ナデ(風化欠味)	
633	B-2 包含層	ミナコト土器	口縁部一底部	ほぼ正形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	2.5	2.0	1.6	ナデ(風化欠味不明), げっ歯類ナデあり	ナデ(風化欠味不明), 粘土のちりめり	

第10表 B-2区出土土器観察表(7)

番号	出土遺構	種類	部位	残存度	胎土	色調	口径	高さ	底径	外面	内面	備考
634	B-2	包含層	ニチャフ土器 上部	3/4	1~3mm程度の砂粒を含む	灰黒	(4.3)	2.9	1.6	ユビナデ、指痕痕	ユビナデ、指痕痕	
635	B-2	包含層	ニチャフ土器 上部	ほぼ定形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	5.7	2.6	2.6	ユビナデ、指痕痕、接合痕あり	ユビナデ、指痕痕	
636	B-2	包含層	ニチャフ土器 上部	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑	(5.8)	(3.2)	(4.4)	ユビナデ、指痕痕、接合痕あり	ユビナデ、指痕痕、接合痕あり	
637	B-2	包含層	ニチャフ土器 上部	底部定形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	(6.0)	4.2	4.02	ナデ(風化の為不明瞭)、げっ歯類ガザリ痕あり	ナデ(風化の為不明瞭)	
638	B-2	包含層	土器	ほぼ定形	1~3mm程度の砂粒を含む	黄	5.5	3.3	2.2	ナデ、粘土のつなぎ目あり	ナデ	
639	B-2	包含層	土器	1/2	1~3mm程度の砂粒を含む	黄		2.9	2.2	ナデ、粘土のつなぎ目あり	ナデ	
674	B-2	包含層	高台付土器	口縁部~底部	口縁1/3、底部定形	黄緑	(15.6)	(6.8)	6.25	回転ナデ(風化欠損)	回転ナデ(風化欠損)、高台内側付土器	
675	B-2	包含層	高台付土器	口縁部~底部	口縁1/3、底部定形	黄緑	(14.4)	(7.4)	7.6	回転ナデ(風化欠損)	回転ナデ(風化欠損)	
676	B-2	包含層	高台付土器	底部	3/4	黄緑			(7.2)	回転ナデ(風化欠損)、接合痕あり。中央に亀裂あり	回転ナデ(風化欠損)、接合痕あり。中央に亀裂あり	
677	B-2	包含層	高台付土器	底部	ほぼ定形	黄緑			7.2	回転ナデ(風化欠損)、接合痕あり。中央に亀裂あり	回転ナデ(風化欠損)、接合痕あり。中央に亀裂あり	
678	B-2	包含層	環	胴部~底部	2/3	黄緑			3.96	回転ナデ(風化の為不明瞭)	回転ナデ(風化の為不明瞭)	
679	B-2	包含層	環	底部	ほぼ定形	黄緑			4.8	回転ナデ(風化の為不明瞭)	回転ナデ(風化の為不明瞭)	
680	B-2	包含層	土師器	底部	1/2	黄緑			(4.6)	回転ナデ、底部回転弁あり	回転ナデ	

第11表 AA-1、2、BB区出土土器観察表

番号	出土遺構	種類	部位	残存度	胎土	色調	口径	高さ	底径	外面	内面	備考
683	SA38	23.24	横線部 器身	1/5	黄緑	黄				ナデ(風化の為不明瞭)、げっ歯類ガザリ痕あり	ナデ(風化の為不明瞭)、げっ歯類ガザリ痕あり	
685	SA39	77	胴部~底部	口縁部のみ欠損	1~3mm程度の砂粒を含む	黄緑				新方向の工具ナデ、接合痕あり。胴部下スス状	新方向の工具ナデ、接合痕あり。胴部下スス状	
686	SA39	38.60	横線部 器身	受部	1/6	黄緑		(13.3)		ナデのらミガキ(風化欠損)	ナデのらミガキ(風化欠損)	
687	SA39	113	鉢	口縁部~胴部	1/3	黄緑	(23.1)			口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ	口縁部ヨコナデ、ナデ(風化欠損)、接合痕あり	
688	SA41	64.76JK 105.109	鉢	口縁部~胴部	1/8	黄緑				口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	
689	SA41	86	ニチャフ土器	口縁部~底部	定形	黄緑	8.2	5.0	5.0	ナデ、武器放射状の工具痕、接合痕あり	ナデ	
691	AA-2	包含層	土器	口縁部~胴部	定形	黄緑	(21.1)			口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	
692	AA-2	包含層	土器	胴部~底部	底部定形	黄				縦・新方向の工具ナデ、ナデ、スス状	縦・新方向の工具ナデ、ナデ、指痕痕、ヨゴレあり	
693	AA-2	包含層	長方形器	胴部~底部	胴部定形	黄			4.5	ナデ(風化の為不明瞭)	ナデ(風化の為不明瞭)、指痕痕、接合痕あり	
694	AA-2	包含層	鉢	口縁部~胴部	ほぼ定形	黄緑・黒	11.2	7.9	2.5	ユビナデ、指痕痕、接合痕あり	ユビナデ、指痕痕	11線部観察されておらず
695	AA-2	包含層	鉢	口縁部~胴部	ほぼ定形	黒	10.6	5.38	4.45	口縁部ヨコナデ、ユビナデ	口縁部ヨコナデ、ユビナデ、接合痕あり	
696	AA-2	包含層	横線部 器身	口縁部~胴部	ほぼ定形	黄緑	15.0	5.0		口縁部新方向のミガキ、ミガキ(風化の為不明瞭)	口縁部新方向のミガキ、ミガキ(風化の為不明瞭)	
699	SA42	15.94JK ナツラニ一	環	口縁部~胴部	胴部1/2	黄	20.1			胴部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	胴部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	
700	SA42	28	葉1跡?	底部	定形	黄			7.4	ナデ(風化の為不明瞭)、指痕痕、げっ歯類ガザリ痕あり	ナデ(風化欠損)、指痕痕、ヨゴレあり	
701	SA42	3	葉	口縁部~胴部	1/5	黄				口縁部ヨコナデ、ナデ(風化欠損)	口縁部ヨコナデ、ナデ(風化の為不明瞭)、接合痕あり	
702	SA42	9.10.23	環	胴部~底部	1/5	黄				ナデ(風化の為不明瞭)、げっ歯類ガザリ痕あり	ナデ(風化の為不明瞭)、げっ歯類ガザリ痕あり	
703	SA42	51.35.65	葉	口縁部~胴部	胴部1/2	黄緑	15.7			口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	口縁部ヨコナデ、新方向の工具ナデ、接合痕あり	
706	SD1	1	葉	口縁部~胴部	1/2	黄緑			(12.0)	ナデ(風化欠損)、泥目目あり(年産)	ナデ(風化欠損)	
707	SD1	4.5	高坪	胴部~底部	ほぼ定形	黄緑			(7.85)	不定方向のミガキ(一部風化欠損)	不定方向のミガキ、胴部ナデ(風化欠損)	
708	SD1	3	環部	口縁部~底部	定形	黄緑	16.0	5.6	5.3	ナデ(風化の為不明瞭)、新・新方向のミガキ	横・新方向のミガキ(風化の為不明瞭)、ナデ	

第12表 B-1区出土須恵器観察表(1)

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	釉土	重量		色澤		質感・文様ほか		備考	
						口徑	高さ	高さ	外面	内面	外面		内面
12	SA 1	壺土	杯蓋 口縁部- 胴部	1/3	2mm以下の白色 砂粒を含む	(13.4)	3.65	にぶい黄	にぶい黄	ナダ、風化のため 不明瞭	ナダ、風化のため 不明瞭	未検成か。	
13	SA 1	46	杯身 口縁部- 底部	1/4	2mm以上の白色 砂粒を含む	(12.7)	3.9	オリブ黒	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
14	SA 1	壺土	杯蓋 胴部	1/4	2mm以下の灰白 色の砂粒を含む	(12.3)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
15	SA 1	壺土	蓋 胴部	1/8	1mm以下の灰白・黒 色光沢の粒を含む			黄灰	暗灰黄	ナダ、平行タタ キ・自然釉	ナダ、同心タタ キ		
16	SA 1	149	浅瓶 口縁部- 胴部	1/4	1mm次の灰白色 粒をわずかに含む			灰	灰	ナダ、ヘア割り、 自然釉	ナダ、エビオサエ	窪台痕あり。	
28	SA 2	29	坏蓋 口縁部- 胴部	1/3	1mm次の灰白色 粒をわずかに含む	(14.0)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
29	SA 2	1	坏蓋 口縁部- 胴部	1/4	1mm次の灰白・乳 白色粒を少量含む	(11.2)		オリブ黒	オリブ黒	ナダ、ケズリ・ヘ ア記号	ナダ		
30	SA 2	9	杯蓋 口縁部- 底部	2/5	1mm以下の灰白・黒 色・黒粒の砂粒を含む	(16.6)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
31	SA 2	壺土	蓋蓋 口縁部- 底部	1/2	精良	(8.1)	2.9	灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ	胎土に黒質多し。	
32	SA 2	壺土	高杯 脚部	1/5	1mm以下の灰白 色の砂粒を含む			灰	灰	ナダ、三方透かし	ナダ、しほり痕	口縁が外反する。	
37	SZ 1	壺土	杯蓋 口縁部- 胴部	2/7	2mm以下の灰白 色の砂粒を含む	(12.8)		灰黄	灰	ナダ、ケズリ・ヘ ア記号	ナダ		
97	SA 5	236	杯身 口縁部- 胴部	1/4	1mm以下の灰白・黒 色・黒粒の砂粒を含む	(10.9)		黄灰	黄灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
98	SA 5	222	ハソウ 口縁部- 胴部	1/4	1mm以下の灰白・黒 色粒の砂粒を含む			灰	灰	ナダ	ナダ		
73	SZ 1	52	杯蓋 口縁部- 胴部	1/5	3mm以下の灰濁・ 灰白色粒を含む	(12.7)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
74	SZ 1	壺土	杯身 口縁部- 胴部	1/3	3mm以下の灰白 色粒を含む	(11.4)		灰黄	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
75	SZ 1	壺土	杯身 口縁部- 底部	1/5	4mm以下の赤・黒 色の砂粒を含む	(12.7)		4.4	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ	底部に凹形状に 付着物あり	
76	SZ 1	31	杯身 口縁部- 底部	1/5	2mm以下の灰白 色の砂粒を含む	(12.0)		(4.0)	にぶい黄	ナダ、ヘア割り	ナダ	底部に亀裂あり	
77	SZ 1	98	高杯 脚部 脚部底形		1mm以下の白色・ 黒色粒を含む		8.2	黄灰	黄灰	ナダ	ナダ		
78	SZ 1	壺土	蓋 口縁部	1/8	3mm以下の灰白 色の砂粒を含む	(31.2)		灰	灰	ナダ、縞線状文	ナダ		
84	SA 3	4	杯蓋 口縁部- 底部	1/2	4mm以下の灰黄・灰 白色の砂粒を含む	(14.1)		4.2	暗灰黄	黄灰	ナダ、ケズリ・ヘ ア記号	ナダ	
101	SA 9	245	坏蓋 口縁部- 胴部	1/4	2mm以上の白色 砂粒を含む	(11.6)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
102	SA 9	51	高杯 脚部	1/4	2mm以下の黒濁 色粒を多く含む			オリブ灰	オリブ灰	ナダ、三方透かし	ナダ、しほり痕		
103	SA 9	288	蓋 脚部		2mm以下の黒濁 色粒を多く含む			オリブ灰	灰オリブ	ナダ、平行タタ キ・ケズリ	ナダ、同心タタ キ		
108	SA 7	95	杯蓋 口縁部- 胴部	1/6	1mm以下の黒濁・乳 白色粒を多く含む	(12.6)		3.6	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ	口縁部をわずかに 反り。	
110	SA 7	壺土	ハソウ 口縁部	1/8	1mmの黒濁色の 砂粒を含む			灰オリブ	灰オリブ	ナダ、文様帯	ナダ		
111	SA 7	51	高杯 脚部	1/4	3mm次の灰白・乳 白色粒を含む			黄灰	黄灰	ナダ	ナダ、しほり痕		
112	SA 7	121	高杯 脚部	1/4	2mm以下の灰白 色粒を含む			黄灰	黄灰	ナダ、三方透かし	ナダ、しほり痕		
113	SA 7	60	蓋 胴部		2mm以下の灰色 の砂粒を含む			にぶい黄	黄質黄	平行タタキ (風化 のため黄濁不明瞭)	同心タタキ (風化 のため黄濁不明瞭)	未検成?	
114	SA 7	35	蓋 口縁部- 底部	1/8	4mm以下の黄質 色粒を含む	(21.4)		灰	灰白	ナダ、平行タタ キ・自然釉	ナダ、同心タタ キ		
115	SA 7	42	浅瓶蓋 胴部	1/8	2mm程度の黒濁・乳 白色粒を多く含む	10.8		4.1	灰黄	黄灰	ナダ、自然釉	ナダ	
132	SA 6	257	坏蓋 口縁部- 胴部	2/3	4mm次の白色 砂粒を含む	(12.9)		灰オリブ	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
133	SA 6	166	坏蓋 口縁部- 底部	1/3	1mm以下の白色 砂粒を含む			オリブ黒	オリブ灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
134	SA 6	242	杯蓋 口縁部- 底部	1/4	2mm次の白色 砂粒を含む	(14.5)		灰	灰	ナダ、ヘア割り	ナダ		
135	SA 6	485	杯蓋 口縁部- 底部	2/3	3mm以下の灰白 色砂粒を含む	(13.2)		3.4	灰	ナダ、ケズリ・ヘ ア記号	ナダ	裏面跳きの痕跡 天守部にあり。	
136	SA 6	374	杯身 口縁部- 底部	1/4	2mm以下の灰白 色粒を含む	(11.8)		(4.6)	暗オリブ	暗オリブ	ナダ、ヘア割り	ナダ	古手
137	SA 6	406	杯身 口縁部- 底部	1/2	3mm以下の灰白 色粒を少し含む	11.7		3.5	灰	ナダ、ヘア割り、 自然釉	ナダ		
138	SA 6	184	杯身 口縁部- 底部	1/2	胴部-1mm次の灰 色粒を少量含む	12.7		3.95	灰オリブ	灰オリブ	ナダ、ヘア割り	ナダ	風化気味
139	SA 6	100	杯身 口縁部- 底部	2/3	3-4mm次の砂 粒を含む	(12.3)		4.0	暗オリブ	灰	ナダ、ケズリ・ヘ ア記号	ナダ	
140	SA 6	384	高杯 脚部	1/7	精良			灰	灰白	ナダ、透かし	ナダ	風化気味	
141	SA 6	壺土	高杯 脚部	1/7	1mm以下の灰白 色粒を含む	(8.8)		暗オリブ 灰	灰	ナダ、透かし、自 然釉	ナダ		
142	SA 6	202	高杯 脚部	1/7	1mm以下の灰白 色粒を少量含む			暗灰黄	灰	ナダ、透かし	ナダ、しほり痕		
143	SA 6	16	皿 口縁部- 底部	1/4	精良	(13.0)		灰	灰オリブ	ナダ、文様帯	ナダ		

第13表 B-1区出土須恵器観察表(2)

番号	出土遺構	器類	部位	残存率	土質	法 量				色調		剥離・文様ほか		備考
						口縁	底縁	縁高	外周	内周	外周	内周		
144	SA 6	413	蓋	1/4	2mm以下の白色砂粒を含む	(20.4)			オリーブ黒	オリーブ黒	1線一帯のナデ、平行タタキのちタタキ			ナデ・同心円タタキ
167	SA 4	36	杯蓋	1/8	3mm以下の黒・灰白色砂粒を含む	(14.1)		3.9	灰オリーブ	灰オリーブ	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
168	SA 4	26	杯身	1/2	1mm以下の灰白・黒色砂粒を含む	(10.2)		5.1	灰	灰	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
169	SA 4	34	杯身	1/6	1mm以下の灰白色砂粒を含む	(13.0)			灰オリーブ	灰	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
170	SA 4	90	高杯	1/5	2mm以下の灰白色砂粒を含む	(14.7)			灰	暗灰青	ナデ、透かし			ナデ
171	SA 4	37	器台	1/8	器縁・1mm以下の黒・赤色の砂粒を含む	(26.0)			灰・灰黄	灰黄	ナデ、内周透かし、沈線			ナデ
172	SA 4	52	器台	1/6	2mm以下の灰白・黒色砂粒を含む	(30.5)			灰	灰	ナデ、帯流状文、透かし、自然釉			ナデ
173	SA 4	41	蓋	1/8	4mm以下の灰白色の砂粒を含む				灰	灰	ナデ・平行タタキ・タタキ			ナデ・同心円タタキ
174	SA 4	15	蓋	1/4	3mm以下の灰白色の砂粒を含む				灰	灰	ナデ・平行タタキ・タタキ			ナデ・同心円タタキ
178	SA 8	36	杯蓋	1/2	3mm以下の灰黄色砂粒を含む	(14.3)			灰	灰	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
179	SA 8	111	杯身	1/7	2mm以下の灰白色砂粒を含む				灰	灰	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
180	SA 8	36	高杯	1/8	1mm以下の灰黄色・赤色の砂粒を含む				灰	黄灰	ナデ、透かし			ナデ、しぼり痕
181	SA 8	7	蓋	1/4	2mm以下の黒・白色砂粒を含む	(10.3)			灰	灰	ナデ			ナデ
182	SA 8	33	蓋	1/8	5mm以下の灰白色の砂粒を含む				黄灰	灰黄	ナデ、タタキ			ナデ・同心円タタキ
182	B-1区	W11G	高杯蓋	2/3	4mm以下の灰白色の砂粒を含む	(13.2)		4.7	灰	灰	ナデ、ケズリ、口縁部に工具痕文			ナデ
183	B-1区	覆土	高杯蓋	1/4	1mm以下の白色砂粒を含む				オリーブ黒	オリーブ黒	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
184	B-1区	U12G	杯蓋	1/7	2mm以下の灰白色の砂粒を含む	(16.3)			灰	灰	ナデ、ケズリ、口縁部に工具痕文			ナデ
185	B-1区	492	杯身	2/3	4mm以下の灰白色の砂粒を含む	(12.6)		4.8	灰	灰	ナデ・ヘタ開リ、自然釉			ナデ
186	B-1区	436	杯身	1/4	1mm以下の沈線・オリーブ黒を含む	(13.2)			灰	灰	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
187	B-1区	覆土	杯身	1/3	2mm以下の灰白・淡黄色砂粒を含む	(10.1)		(3.8)	灰白	灰黄	ナデ・ヘタ開リ			ナデ
188	B-1区	覆土	杯身	1/4	1mm以下の黒・赤・白色の砂粒を含む	(11.3)			黄灰	暗灰青	ナデ・ケズリ、ヘタ記号			ナデ
189	B-1区	覆土	高杯	1/8	1mm以下の黒色の砂粒を含む				灰オリーブ	灰オリーブ	ナデ、文様帯			ナデ
200	B-1区	23	蓋	1/4	1mm以下の白色の砂粒を含む	(10.6)			暗灰青	暗灰青	ナデ			ナデ
201	B-1区	3	高杯	1/3	2mm以下の黒・赤・白色の砂粒を含む	(14.7)			暗灰青	にぶい黄	ナデ・沈線			ナデ
202	B-1区	508	高杯	1/6	粒大				黒	黒	ナデ、帯流状文、三方透かし			ナデ、しぼり痕
203	B-1区	X11G	蓋	1/8	3mm以下の灰白・黄砂粒を含む				灰オリーブ	灰オリーブ	ナデ、口縁部に工具痕文			ナデ・自然釉
204	B-1区	134	蓋	1/2	2mm以下の灰白色の砂粒を含む				灰	灰	ナデ・帯流状文			ナデ・自然釉

第14表 玉類及び紡錘車観察表

番号	出土遺構	No.	遺物名称	色調もしくは石材	計測値			重量(g)	備考
					長さもしくは幅(cm)	幅もしくは高さ(cm)	孔径(cm)		
153	SA 6	8	ガラス玉	緑色・半透明	0.60	0.30	0.08	0.1	
254	SA34	60	碧玉	暗緑	0.85	2.65	0.20	2.7	
469	SA13	覆土	土師質玉	黒黒	0.80	0.60	0.10	0.5	
475	SA25	10	碧玉	透明	0.70	0.85	0.20	0.4	木蓋
498	SA14	覆土	土師質玉	灰黄	0.70	0.60	0.05	0.4	
604	SA12	覆土	ガラス玉	緑色・透明	0.25	0.20	0.10	0.0	
147	SA 6	9	紡錘車	滑石	径2.7(広面) 径2.5(狭面)	1.2	0.7	28.0	
286	SA10	13	紡錘車	土師質	径6.1	径高1.1	1.1	33.0	地成前成形、穿孔
312	SA26	1	紡錘車	土師質	径5.9	径高1.1	0.9	43.0	地成前成形、穿孔
430	SA15	9	紡錘車	土師質	径5.6	径高1.2	0.9	70.0	地成前成形、穿孔
464	SA1429	172	紡錘車	凝灰質	径6.1	径高1.3	0.7	28.0	嵌合、脱石型用
499	SA23	9	紡錘車	土師質	径5.7	径高1.0	1.1	37.0	地成前成形、穿孔
609	Z7グワッド	覆土	紡錘車	凝灰岩	径3.9(広面) 径1.3(狭面)	径高1.1	0.6	25.0	磨面文

第15表 B-2区出土須恵器観察表(1)

番号	出土層情	器種	部位	残存率	胎土	法		色		肌		底		備考
						口縁	底縁	胎高	内面	外面	内面	外面	内面	
225	SA33	16	坏壺	口縁部～底面	1/5	3mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ、口縁部に工具痕文	
226	SA33	12	坏壺	口縁部～底面	1/4	1mm以下の黒灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
231	SA31	甌土	坏壺	口縁部～胴部	1/8	3mm以下の灰内粉砂を含む					灰	灰	ナデ	ナデ
232	SA31	甌土	坏壺	口縁部～胴部	1/8	黒褐色～灰白、比ふい粉砂を含む					灰	灰	ナデ	ナデ
233	SA31	甌土	坏壺	口縁部～胴部	1/8	緻密な灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ、文線等	ナデ
234	SA31	12	甌	口縁部～底面	1/6	3mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ、胴部に文線等のカキ目	ナデ
249	SA32	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/6	3mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ	ナデ
251	SA32	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/7	黒褐色～2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
260	SA32	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/6	4mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
267	SA26	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/4	1mm～2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
270	SA18	78	坏壺	口縁部～底面	1/4	3mm以下の黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
271	SA18	78	坏壺	口縁部～底面	1/4	1mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
272	SA18	294	坏壺	口縁部～底面	ほぼ定形	精良	14.2	4.3	灰黄	灰黄	灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
273	SA18	286	坏壺	口縁部～底面	ほぼ定形	3mm以下の灰黄・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
274	SA18	98	坏壺	口縁部～底面	2/3	4mm以下の灰黄・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
275	SA18	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/2	緻密な灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
276	SA18	157	坏壺	口縁部～底面	2/5	1mm以下の灰内粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
277	SA18	230	甌	口縁部～底面	1/3	1～3mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
287	SA10	366	坏壺	口縁部～底面	ほぼ定形	3mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
306	SA34	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/8	精良					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
307	SA34	10	坏壺	口縁部～底面	ほぼ定形	1mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
308	SA34	甌土	坏壺	胴部	1/7	1mm以下の灰・灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
309	SA34	甌土	坏壺	胴部	1/7	1.5mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
310	SA34	26	甌	胴部	1/2	3mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ	ナデ
314	SA28	甌土	坏壺	口縁部	1/6	2mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ、口縁部に工具痕文	ナデ
315	SA28	甌土	坏壺	口縁部	1/10	緻密な灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ、三方違かし	ナデ
322	SA29	31	坏壺	口縁部～底面	1/2	2mm以下の黒・灰粉砂を含む					灰	灰	ナデ、ヘウ張り	ナデ
333	SA29	30	坏壺	口縁部～底面	1/3	緻密な黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
334	SA29	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/2	精良					灰	灰	ナデ、胴部に文線	ナデ
346	SA30	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/8	2mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
347	SA30	153	甌	胴部	1/8	1～4mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ、三方違かし・カキ目	ナデ
360	SA17	68	甌	口縁部～底面	2/5	2mm以下の黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
361	SA17	60	坏壺	口縁部～底面	1/2	2mm以下の灰粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
362	SA17	142	坏壺	底面	1/2	2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
363	SA17	149	坏壺	口縁部～底面	1/2	3mm以下の灰黄・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
364	SA17	9	坏壺	口縁部～底面	3/4	1mm以下の灰・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
365	SA17	41	坏壺	口縁部～底面	1/2	1mm以下の灰・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
366	SA17	甌土	坏壺	口縁部～底面	1/4	1mm以下の灰粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
367	SA17	甌土	坏壺	口縁部～底面	2/7	1mm以下の灰内粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
368	SA17	14	甌	胴部	1/8	1mm以下の灰・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・カキ目	ナデ
369	SA17	106	甌	胴部	1/2	2mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ・カキ目	ナデ
370	SA17	129	高杯	口縁部	ほぼ定形	1～2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ、カキ目	ナデ
371	SA17	177	甌	口縁部～底面	1/4	1mm以下の灰黄・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ	ナデ
372	SA17	177	高杯	胴部	1/4	1～2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・カキ目	ナデ
388	SA19	51	坏壺	口縁部～底面	1/2	2mm以下の灰白・黒粉砂を含む					灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ
389	SA19	107	坏壺	口縁部～底面	1/3	5mm以下の灰白粉砂を含む					灰	灰	ナデ、ケズリ・ヘウ張り	ナデ
390	SA19	183	高杯	坏壺	ほぼ定形	精良	12.2				灰	灰	ナデ・カキ目	ナデ
391	SA19	190	甌	口縁部～底面	1/2	精良					灰	灰	ナデ・ヘウ張り、自然釉	ナデ

第16表 B-2区出土須恵器観察表(2)

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	胎土	測量			色調		質感・文様ほか		備考	
						口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
392	SA19	19	甕	胴部	3/4	1mm以下の白砂粒を含む				灰	灰	ナデ、胴部に文様帯のちぎれ目	ナデ、ケズリ、接合痕	灰化のため裏面一部不明瞭、裏面不貞。
407	SA35	1	坏蓋	1/2	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(13.9)		4.12		灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
408	SA36	甌土	高杯	1/4	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.3)				灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
409	SA35	甌土	坏身	胴部	1/3	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.1)			黄灰	灰黄	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
410	SA35	甌土	坏身	胴部	1/3	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.0)			暗灰	暗灰	ナデ	ナデ	内面白胎土
411	SA35	甌土	長腹甕	胴部	1/3	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む				灰	灰	灰オリーブ	ナデ・タズリ、ヘウ張り	ナデ、しほり直
431	SA15	57	坏身	口縁部	1/4	精良	(11.6)			灰	灰	ナデ、タズリ、ヘウ張り	ナデ	
432	SA15	甌土	甕	口縁部	1/5	精良	(12.9)			灰	灰	ナデ、襷織状文	ナデ	内面白胎土
433	SA15	甌土	蓋	口縁部	1/6	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(15.4)			浅黄	灰黄	ナデ	ナデ	灰化のため裏面不明瞭
445	SA11	3	坏蓋	口縁部	1/6	数個～1mmの灰白砂粒を含む	(12.4)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
447	SA14	甌土	高杯	胴部	1/6	1mm以下の白砂粒を含む	12.3		2.7	灰黄褐	黄灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	裏面の上の裏面一部不明瞭、裏面不貞。
458	SA14	89	坏蓋	口縁部	1/3	3mm以下の黒砂粒を含む	(13.0)		(3.8)	灰黄	暗灰黄	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
459	SA14	222	坏身	口縁部	1/2	1～3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	12.8		(4.0)	灰オリーブ	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
460	SA14	18	坏身	口縁部	2/3	1～4mm以下の灰白砂粒を含む	(11.9)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
461	SA14	189	短腹甕	口縁部	1/3	5mm以下の灰白・黒砂粒を含む	10.6		7.6	黒	暗灰	ナデ・ヘウ張り、自然胎	ナデ	
462	SA14	19	甕	胴部	1/4	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(20.0)			ぶい・澄	ぶい・澄	ナデ、平打タズリ・カキ目	ナデ、同心円タズリ	焼成不良
472	SA25	甌土	坏身	口縁部	1/6	1mm～2mm以下の黒砂粒を含む	(10.7)			灰	灰	ナデ	ナデ	立ち上がりが高く、口縁に稜をつくる。
473	SA25	3	蓋	胴部	2/7	精良	(13.0)			灰黄、ぶい・澄	ぶい・澄	ナデ	ナデ	焼成不良
495	SC9	9	甕	口縁部	1/8	2.5mm以下の灰白砂粒を含む				灰	灰	ナデ・襷織状文	ナデ	
500	SA23	30	坏蓋	口縁部	2/3	2mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(11.1)		3.9	灰黄	ぶい・澄	ナデ・ヘウ張り	ナデ	襷織なヘウ張り。
501	SA23	3	坏蓋	口縁部	2/3	4mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(11.0)		3.2	灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	底部にヘウ張りあり。
502	SA23	甌土	坏身	口縁部	1/7	4mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(11.0)			灰	黄灰	ナデ	ナデ	外面白胎土
503	SA23	甌土	坏身	口縁部	1/5	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(9.8)		(3.1)	灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
532	SA13	224	坏蓋	口縁部	1/7	1mm以下の白砂粒を含む	(13.8)			オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
533	SA13	甌土	坏蓋	口縁部	1/4	数個の灰白・黒白砂粒を含む	(13.7)		(3.5)	灰オリーブ	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	天井帯彫。
534	SA13	甌土	坏蓋	口縁部	1/4	精良	(16.8)			灰オリーブ	灰オリーブ	ナデ・ヘウ張り	ナデ	口縁・胴部に稜あり。
535	SA13	甌土	坏身	口縁部	1/4	1mm以下の白砂粒を含む	(12.5)			オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
536	SA13	265	坏身	口縁部	1/7	数個の灰白砂粒を含む	(10.4)		(4.1)	灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
537	SA13	43.62	坏身	口縁部	宛形	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	11.4		3.75	灰	灰	ナデ・ヘウ張り、ヘウ張り、自然胎	ナデ	
538	SA13	222	坏身	口縁部	1/4	3mm以下の黒砂粒を含む	(15.7)			灰オリーブ	オリーブ灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
539	SA13	224	坏身	口縁部	2/3	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.5)			黄灰	暗灰黄	ナデ・ヘウ張り、自然胎	ナデ	
540	SA13	SA30	甌土	高杯	胴部	1/5	1mm以下の白砂粒を含む		(16.4)	灰黄	灰黄	ナデ、灑かし、自然胎	ナデ、しほり直	
541	SA13	68	甕	胴部	1/3	7mm以下の灰白砂粒を含む				灰	灰	ナデ・ヘウ張り、自然胎	ナデ	
542	SA13	133	甕	胴部	1/6	4mm以下の白砂粒を含む				オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ、接合痕あり	
584	SA20	257	坏身	口縁部	1/6	口縁部の灰、3mm以下の白砂粒を含む	(13.4)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	外面暗灰の自然胎、土塊付着
585	SA20	420	高杯	胴部	1/4	1mm以下の白砂粒を含む	(12.4)			オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ・四方透かし	ナデ	内面白胎土
600	SA22	39	坏身	口縁部	1/5	4mm以下の、3mm以下の白砂粒を含む	(12.4)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
601	SA22	3	坏身	口縁部	1/3	2mm以下の灰白砂粒を含む	(13.1)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	立ち上がり厚め。
602	SA22	112	高杯	胴部	1/3	1mm以下の灰白砂粒を含む		(8.4)		灰	灰	ナデ・タズリ、三方透かし	ナデ	短脚。
609	SA21	161	坏蓋	底面	1/6	精良				灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	扁平なつみ
610	SA21	155	坏蓋	底面	1/6	数個の灰白砂粒を含む	(10.8)			灰オリーブ	ぶい・澄	ナデ・タズリ	ナデ	口縁部におずかしに稜がある。
611	SA21	甌土	坏身	口縁部	1/4	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(10.0)		(3.6)	灰オリーブ	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
612	SA21	67	坏身	口縁部	1/6	精良	(11.0)			灰	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	
613	SA21	65	甕	胴部	1/2	4mm以下の灰白・黒砂粒を含む				灰	灰	ナデ	ナデ	外面白胎土
614	SA21	305	高杯	胴部	1/4	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(13.4)			灰	灰	ナデ、四方透かし	ナデ、しほり直	
621	SA12	34	坏蓋	口縁部	2/5	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.8)		(3.7)	黄灰	黄灰	ナデ・ヘウ張り、自然胎	ナデ	
640	B-2区	包含層	坏蓋	口縁部	6/7	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	13.2		4.0	灰オリーブ	灰	ナデ・ヘウ張り	ナデ	外面白胎土
641	B-2区	AA7	坏蓋	口縁部	1/8	1mm以下の灰白砂粒を含む	(16.0)			灰黄	灰黄	ナデ・タズリ、ヘウ張り	ナデ	

第17表 B-2区出土須臾器観察表(3)

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	胎土	量			色相		断面・文様ほか		備考	
						口徑	底径	高さ	外周	内周	外周	内周		
642	B-2区	包含層	坏蓋	1/2	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(13.8)		(4.7)	灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	扉部・口縁・底つらら、 天蓋部はあきそう。	
643	B-2区	包含層	坏蓋	1/3	1-2mm以下の灰・黒砂粒を含む	(12.9)		(3.8)	灰	灰白	ナデ・ヘラ削り	ナデ	扉部・口縁・底つらら にふく。底文様	
644	B-2区	包含層	坏蓋	1/3	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む				灰	灰	ナデ・ヘラ削り、 自然釉	ナデ	中央2つ窪つま ふ	
645	B-2区	包含層	坏蓋	2/3	2mm以下の灰白・黒砂粒を含む	13.1		3.4	灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ		
646	B-2区	包含層	坏蓋	1/4	3mm以下の灰・灰白砂粒を含む	(16.5)		(4.2)	灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	扉部・口縁・底つらら にふく。口縁はあき そう。	
647	B-2区	包含層	坏蓋	1/7	3mm以下の灰・黒砂粒を含む	(10.6)			灰黄	灰黄	ナデ・ヘラ削り	ナデ	受部に黄砂粒あり。	
648	B-2区	包含層	坏身	1/3	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(11.8)			灰	暗灰黄	ナデ・ヘラ削り、 自然釉	ナデ		
649	B-2区	AB 6	坏身	1/6	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.8)			灰	灰	ナデ・ヘラ削り、 自然釉	ナデ		
650	B-2区	包含層	坏身	1/5	5mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.6)			灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	立ち上がり部が 平。	
651	B-2区	包含層	坏身	2/5	3mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(12.2)		(4.6)	灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ、縄目痕	内面底面に縄目 あり。	
652	B-2区	包含層	高杯	坏部	1/4	3mm以下の灰・灰白砂粒を含む	(12.2)		にふく・赤釉	赤灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ・自然釉		
653	B-2区	包含層	高杯	坏部	1/4	1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(16.3)		灰	灰	ナデ・三方透かし	ナデ	扉部下方へ屈 曲	
654	B-2区	包含層	蓋	1/3	1-2mm以下の乳白砂粒を含む	(18.8)			灰黄	黄灰	ナデ・自然釉	ナデ・自然釉	内外面自然釉	
655	B-2区	包含層	蓋	1/2	精良	(25.6)			灰	灰	ナデ・平行タタキ	ナデ・平行タタキ ・自然釉		
656	B-2区	包含層	蓋	1/8	1-4mm以下の乳白砂粒を含む	(20.4)			灰	灰	灰オリーブ	ナデ	ナデ・自然釉	
657	B-2区	1314	蓋	1/3	精良	(14.6)			灰	灰	灰オリーブ	ナデ・平行タタキ ・ホキ目	ナデ・灰内タタ キ・自然釉	
658	B-2区	包含層	蓋	1/3	1mm以下の灰砂粒を含む				灰	灰	オリーブ灰	ナデ・ホキ目	ナデ	
659	B-2区	包含層	提梁	1/4	1-2mm以下の灰・黒砂粒を含む		17.3		灰	灰・オリーブ 黒	灰	ナデ・ホキ目	ナデ	内外面に自然釉 あり。
660	B-2区	包含層	蓋	1/4	1-1mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(20.0)			灰	灰	ナデ・平行タタキ ・ホキ目	ナデ・灰内タタ キ	外面自然釉	
681	B-2区	包含層	蓋	2/5	2.5mm以下の灰白・黒砂粒を含む	(15.0)			オリーブ黒	灰	ナデ・自然釉	ナデ		
682	B-2区	包含層	長脚蓋	脚部	1/5	3mm以下の灰・黒砂粒を含む			灰黄	灰黄	ナデ・文様部施文	ナデ		

第18表 AA-1、2、BB区出土須臾器観察表

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	胎土	量			色相		断面・文様ほか		備考
						口徑	底径	高さ	外周	内周	外周	内周	
684	SA38	13	坏身	2/5	1-2mm以下の灰・黒砂粒を含む	(13.0)			灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	
690	SA41	横土	坏蓋	1/4	精良	(15.2)			灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	
697	AA-1区	包含層	坏蓋	1/3	精良				暗黄灰	オリーブ灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	
709	BB区	包含層	坏蓋	1/10	精良	(14.9)			灰オリーブ	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	
710	BB区	包含層	高杯	坏部	1/3	精良			灰	灰	ナデ・ヘラ削り	ナデ	

第19表 出土陶磁器観察表

番号	出土遺構	器種	部位	残存度	胎土	量			色相		断面・文様ほか		備考
						口徑	底径	高さ	外周	内周	外周	内周	
728	B-2区	1149	碗	1/9	精良				にふく・黄	灰黄	施釉	施釉	扉部底面黄砂粒

第20表 石器計測表(1)

番号	出土遺構		器種	石材	計測値			
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
17	SA 1	包含層	磨石	砂岩	7.60	6.50	3.30	220.9
33	SA 2	包含層	蔽石	砂岩	5.85	4.75	1.30	55.5
34	SA 2	56	紡錘車	砂岩	5.50	5.85	1.30	60.0
35	SA 2	22	蔽石	砂岩	10.40	4.40	3.80	253.2
59	SA 5	137	蔽石	砂岩	8.45	6.65	2.30	194.6
104	SA 3	188	蔽石	砂岩	7.35	4.85	2.60	123.4
116	SA 7	包含層	蔽石	砂岩	9.55	6.70	2.85	228.7
145	SA 6	包含層	蔽石	砂岩	8.60	5.10	3.35	263.2
146	SA 6	408	砥石	珪長石	4.95	2.90	2.75	31.3
175	SA 4	包含層	蔽石	砂岩	8.85	6.15	3.60	274.7
183	SA 8	包含層	砥石	砂岩	11.70	5.30	1.50	135.8
205	B-1区	包含層	蔽石	砂岩	12.50	5.80	4.55	484.3
206	B-1区	包含層	蔽石	砂岩	9.20	6.95	4.10	360.2
207	B-2区	包含層	石廂丁	頁岩	6.65	5.20	1.00	38.1
215	SA24	9	砥石	珪長石	8.50	4.45	3.10	116.9
227	SA33	18	軽石	軽石	15.30	13.70	9.50	436.5
235	SA31	包含層	軽石	軽石	10.18	13.45	9.20	263.2
252	SA32	包含層	蔽石	砂岩	12.00	5.80	2.85	278.8
253	SA32	包含層	蔽石	砂岩	11.70	4.15	1.75	130.3
278	SA18	239	砥石	珪長石	8.90	6.45	5.10	295.7
279	SA18	161	蔽石	砂岩	13.10	5.55	3.55	363.3
280	SA18	289	磨・蔽石	砂岩	16.10	6.10	6.45	781.6
281	SA18	291	台石	砂岩	32.85	19.65	9.50	8.3
288	SA10	16	蔽石	砂岩	32.85	6.20	2.40	187.5
311	SA34	包含層	蔽石	砂岩	10.20	5.90	2.80	249.3
316	SA28	11	蔽石	砂岩	9.90	6.20	2.20	200.9
317	SA28	18	蔽石	砂岩	8.90	6.55	6.25	521.4
335	SA29	111	砥石	珪長石	7.70	8.05	3.20	151.9
336	SA29	65	砥石	砂岩	12.35	3.75	2.60	176.1
337	SA29	78	台石	砂岩	13.80	14.30	7.42	1.8
338	SA29	115	軽石	軽石	18.62	22.05	14.22	125.0
373	SA17	13	磨石	軽石	8.50	6.55	4.85	87.5
374	SA17	83	蔽石	砂岩	10.00	5.75	3.40	263.9
393	SA19	90	砥石	珪長石	6.45	5.10	2.15	50.0
394	SA19	133	蔽石	砂岩	7.45	6.00	3.05	249.5
395	SA19	65	磨石	砂岩	12.90	7.55	4.80	702.1
412	SA35	包含層	軽石	軽石	22.70	18.00	12.90	963.7
434	SA15	286	砥石	砂岩	15.45	8.00	2.25	324.5
435	SA15	51	蔽石	凝灰岩	8.70	8.70	3.25	302.3
436	SA15	包含層	軽石製品	軽石	15.60	17.35	10.95	747.6
441	SA15	432	蔽石	砂岩	8.40	3.20	2.05	80.8
442	SA15	423	蔽石	砂岩	12.80	9.00	3.63	541.1
449	SA11	包含層	蔽石	砂岩	12.20	5.90	3.85	372.8
463	SA14	包含層	砥石	珪長石	5.50	3.40	3.20	63.0
474	SA25	1	砥石	珪長石	6.80	2.40	2.65	41.0
504	SA23	259	台石	砂岩	16.65	27.50	10.70	5600.0
505	SA23	149	軽石製品	軽石	15.00	25.30	12.00	1700.0
506	SA23	258	軽石製品	軽石	22.80	20.50	18.80	2200.0
507	SA23	包含層	蔽石	砂岩	7.00	5.20	3.20	187.2
586	SA20	317	軽石製品	軽石	18.70	25.30	13.80	1500.0



第21表 石器計測表(2)

番号	出土遺構		器種	石材	計測値			
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
587	SA20	328	軽石製品	軽石	16.55	24.95	14.15	1480.0
588	SA20	332	軽石製品	軽石	20.00	16.75	14.10	843.9
589	SA20	417	礫石	砂岩	13.95	6.90	6.20	653.7
603	SA22	113	礫石	珪長石	6.15	3.40	2.90	57.2
622	SA12	包含層	礫石	珪長石	5.70	5.25	5.30	135.5
623	SA12	22	磨・礫石	砂岩	19.50	11.60	4.20	843.9
661	B-2区	包含層	礫石	砂岩	13.35	8.95	2.50	342.7
662	B-2区	包含層	礫石	砂岩	9.70	3.25	1.32	843.9
664	B-2区	包含層	礫石	砂岩	6.15	4.54	2.62	101.9
665	B-2区	包含層	磨・礫石	砂岩	7.55	7.10	2.98	297.8
666	B-2区	包含層	礫石	砂岩	13.30	5.55	4.40	421.1
667	B-2区	包含層	軽石	軽石	15.70	12.70	6.80	313.0
668	B-2区	包含層	軽石	軽石	12.60	5.60	5.70	76.1
704	SA42	54	軽石製品	軽石	13.05	18.75	10.95	685.4
705	SA43	包含層	礫石	軽石	4.15	2.85	1.80	5.2
764	B-1区	16	軽石製品	軽石	20.20	18.20	14.20	1361.5
765	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	12.10	15.40	6.20	505.5
766	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	7.20	13.80	7.20	262.8
767	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	12.60	17.80	9.10	414.8
768	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	14.20	12.60	2.30	184.6
769	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	6.80	(7.20)	4.90	182.3
770	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	14.20	17.60	5.40	429.1
771	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	14.10	(12.00)	13.00	914.6
772	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	8.80	8.20	3.80	81.0
773	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	15.00	7.20	5.00	365.4
774	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	17.80	2.24	15.00	1283.9
775	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	17.20	19.20	9.80	1207.1
776	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	15.20	21.80	6.60	1120.1
777	B-1区	包含層	軽石製品	軽石	15.00	23.00	5.40	880.9
778	B-2区	286	軽石製品	軽石	16.80	23.20	12.80	1456.9
779	SA24	51	軽石製品	軽石	16.80	(11.80)	11.20	614.1
780	SA33	包含層	軽石製品	軽石	16.40	19.20	15.20	1644.0
781	SA31	432	軽石製品	軽石	21.40	10.40	11.20	1279.4
782	SA32	423	軽石製品	軽石	22.60	(20.00)	9.20	1471.7
783	SA32	包含層	軽石製品	軽石	14.20	19.80	11.20	741.2
784	SA18	包含層	軽石製品	軽石	13.00	17.00	10.50	675.6
785	SA18	172	軽石製品	軽石	18.00	22.60	7.60	1096.2
786	SA18	1	軽石製品	軽石	17.40	21.60	13.60	1392.0
787	SA18	259	軽石製品	軽石	20.00	15.20	12.60	1205.2
789	SA34	258	軽石製品	軽石	15.50	19.20	12.80	1291.8
790	SA28	包含層	軽石製品	軽石	16.40	19.20	15.20	1361.3
791	SA28	317	軽石製品	軽石	18.80	21.20	11.10	2027.7
792	SA29	328	軽石製品	軽石	22.20	20.20	14.20	1938.7
793	SA29	332	軽石製品	軽石	14.20	19.80	11.20	1071.1
794	SA29	417	軽石製品	軽石	14.60	15.80	10.20	700.7
795	SA28	113	軽石製品	軽石	15.10	14.10	8.20	559.2
796	SA29	包含層	軽石製品	軽石	15.60	27.20	11.20	1329.2
797	SA29	417	軽石製品	軽石	14.60	19.10	11.20	1372.1

第22表 鉄器観察表

番号	出土遺構		種別・器種	法 量			備考	
				最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)		重量(g)
18	SA 1	1	刀子		1.68	0.55	10.5	
19	SA 1	126	鉄鏃		3.12	0.47	28.6	
60	SA 5	187	鉄鏃		1.05	0.43	4.4	基部のみ
61	SA 5	233	鉄鏃		0.65	0.42	2.2	基部のみ
62	SA 5	33	鉄鏃		0.64	0.41	1.3	基部のみ、木質残存
63	SA 5	165	鉄鏃		0.55	0.2	1.4	基部のみ
64	SC 2	2	鉄鏃・方頭鏃	12.67	2.6	0.5	16.0	
117	SA17	1	刀子		1.1	0.85	3.4	
148	SA 6	4	刀子		1.3	0.35	22.5	
149	SA 6	11	刀子		1.2	0.25	3.2	木質残存
150	SA 6	299	刀子		1.03	0.4	2.0	
151	SA 6	298	刀子		1.83	0.47	5.2	
152	SA 6	10	鉄鏃		1.05	0.65	2.6	基部のみ、木質残存
184	SA 8	186	耳環	2.7		0.67	20.4	銅芯、金箔一部剥離
208	B-1区	443	鉄鏃・三角形鏃		3.0	0.85	16.0	鏃身部のみ
209	B-1区	512	鉄鏃		0.97	0.55	4.1	基部のみ
210	B-2区		鉄鏃		0.3	0.35	1.6	基部のみ
211	B-1区	482	刀子		1.42	0.48	5.2	
236	SA31	4	鉄鏃		8.67	3.08	28.5	
258	SA26	8	刀子		1.1	0.3	7.0	木質残存
282	SA18	88	ヤカヅツ			0.81	10.0	
283	SA32	34	青銅製煙管	7.67	1.33	0.78	6.8	吸い口部分
289	SA36	18	釘		1.3	1.8	69.5	
318	SA28	2	鉄鏃		0.5	0.2	2.7	基部のみ
339	SA29	20	鉄鏃	17.7	2.0	0.45	39.7	
375	SA17	62	刀子		1.7	0.67	21.8	
396	SA19	192	鐮子状鉄製品	7.8	2.2	0.2	12.5	何らかの金具か
413	SA35	埋土中	鉄鏃		2.1	0.3	16.8	木質残存
437	SA15	埋土中	鉄鏃・方頭鏃		2.0	2.0	8.6	鏃身部のみ
465	SA14	埋土中	鉄鏃	18.47	5.27	0.66	89.7	
466	SA14	36	刀子		2.2	0.41	7.4	
467	SA14	171	鉄鏃		1.5	2.0	5.1	
508	SA23	埋土中	鉄鏃		1.0	0.25	4.6	基部のみ
509	SA23	埋土中	鉄鏃		1.80	0.5	6.5	基部2本錆着
543	SA13	3	鉄鏃		1.15	0.4	7.2	基部のみ
544	SA13	19	鉄鏃		1.3	0.5	7.6	
545	SA13	145	鉄鏃		0.45	0	5.6	基部のみ、木質残存
546	SA13	埋土中	不明鉄器	4.3	1.5	1.3	10.2	木質残存
547	SA13	219	不明鉄器	6.5	1.5	0.4	10.4	
590	SA20	埋土中	鉄鏃		0.35	0.3	3.5	基部のみ、木質残存
591	SA20	埋土中	鉄鏃		0.95	0.6	7.0	基部のみ、木質残存
670	B-2区	1328	鉄鏃		1.54	0.52	18.7	
671	B-2区	2916	鉄鏃		3.48	0.6	24.6	
672	B-2区	962	鉄鏃		2.3	0.33	48.0	
673	B-2区	302	馬鈴	6.2	4.6	4.5	82.2	青銅製、八角形
698	AA-2区	297	耳環	2.5		0.35	6.6	銅芯、金箔一部剥離

第23表 鉄滓計測表

番号	出土遺跡	遺物名	色調	計測値				備考	
				縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
711	SA 9	118	鉄滓	灰	4.60	2.60	2.50	243	大小気泡あり、土器器壁着
712	SA12	遺土中	鉄滓	にぶい濁	3.20	3.30	1.60	157	大小気泡あり、一部表面ガラス質化
713	SA12	遺土中	鉄滓	灰	6.80	2.50	1.30	452	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
714	SA12	36	鉄滓	にぶい濁	1.80	1.30	1.50	37	大小気泡あり、一部表面ガラス質化
715	SA13	88	鉄滓	灰	3.20	2.50	1.60	149	大小気泡あり、一部表面ガラス質化、鏽あり
716	SA13	遺土中	鉄滓	灰	2.10	1.70	1.60	43	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
717	SA13	161	鉄滓	にぶい濁	3.30	2.30	1.50	97	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
718	SA13	72	鉄滓	暗赤濁	5.60	2.30	1.50	412	大小気泡あり、一部表面ガラス質化、工具痕あり
719	SA13	107	鉄滓	にぶい濁	3.60	3.10	1.00	161	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、鉄付着
720	SA14	173	鉄塊	暗赤濁	2.70	2.00	2.10	107	砂粒全体付着、鏽あり
721	SA14	213	鉄滓	灰	3.30	2.30	16.50	09	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
722	SA14	123	鉄滓	灰	3.30	2.50	1.20	149	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
723	SA14	3	鉄滓	灰	4.60	4.60	1.60	923	大小気泡あり、一部表面ガラス質化、全体鏽あり
724	SA14	6	鉄滓	灰	4.80	4.20	1.10	683	大小気泡あり、一部表面ガラス質化、鏽あり
725	SA14	87	鉄滓	灰	6.50	3.30	2.70	750	大小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、鏽あり
726	SA15	396	鉄滓	にぶい濁	2.80	2.80	1.20	216	小気泡あり、砂粒一面付着、鏽あり
727	SA15	502	鉄滓	にぶい濁	2.50	1.50	0.80	38	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、一部ガラス質化
728	SA17	21	鉄塊	暗赤濁	2.80	2.50	2.80	317	砂粒全体付着、鏽あり
729	SA17	125	鉄滓	にぶい濁	3.50	2.30	2.00	94	大小気泡あり、一部表面ガラス質化
730	SA17	119	鉄滓	にぶい濁	4.20	3.50	2.00	485	滓が流れた形状を示す、一部表面ガラス質化
731	SA17	122	鉄滓	にぶい濁	3.50	1.70	1.50	169	砂粒全体付着
732	SA18	69	鉄滓	にぶい濁	5.00	4.20	1.60	594	大小気泡あり、鏽あり、工具痕あり
733	SA18	遺土中	鉄滓	暗赤濁	2.60	1.50	1.30	85	鏽あり
734	SA18	24	鉄滓	にぶい濁	2.70	2.20	1.10	108	砂粒全体付着、鏽あり
735	SA18	236	鉄滓	灰	3.00	2.10	1.20	66	大小気泡あり、一部表面ガラス質化
736	SA19	遺土中	鉄滓	灰	2.90	2.20	0.90	79	小気泡あり、砂粒一面付着、一部表面ガラス質化
737	SA19	遺土中	鉄塊	暗赤濁	2.60	2.20	1.50	112	砂粒全体付着、鏽あり
738	SA19	29	鉄滓	灰	2.90	2.60	1.50	620	大小気泡あり、一部表面ガラス質化
739	SA19	54	鉄滓	暗赤濁	4.80	3.80	1.50	454	大小気泡あり、一部表面ガラス質化、全体鏽あり
740	SA19	93	鉄滓	にぶい濁	5.70	3.80	2.80	1222	ひび割れ、鏽あり
741	SA20	147	鉄滓	にぶい濁	3.80	4.20	4.20	599	小気泡あり、鉄付着
742	SA20	203	鉄滓	灰	4.30	4.40	2.90	1172	滓が流れた形状を示す
743	SA20	405	鉄滓	灰	6.20	5.10	2.20	456	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、一部ガラス質化
744	SA21	136	鉄滓	灰	3.80	3.00	2.40	152	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、一部ガラス質化
745	SA21	141	鉄滓	にぶい濁	3.80	3.60	2.40	320	小気泡あり、凹凸あり
746	SA21	163	鉄滓	にぶい濁	3.10	2.80	2.50	380	鉄付着
747	SA21	187	鉄滓	にぶい濁	6.40	4.00	1.40	885	小気泡あり、砂粒一面付着、鏽あり
748	SA21	埋土中	鉄滓	にぶい濁	4.20	3.00	1.80	301	大小気泡あり、表面ガラス質化、砂一面付着
749	SA22	114	鉄滓	鉄滓	3.80	2.40	2.50	211	気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む
750	SA23	埋土中	鉄滓	にぶい濁	6.70	3.00	1.90	618	気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む
751	SA23	埋土中	鉄塊	暗赤濁	2.00	1.50	1.00	79	鏽あり
752	SA25	12	鉄滓	暗赤濁	2.50	2.10	1.50	151	鏽あり
753	SA26	9	鉄滓	にぶい濁	5.10	3.00	3.00	612	溝口付着
754	SA26	10	鉄滓	にぶい濁	7.00	5.60	0.70	745	木質付着
754	SA27	28	鉄滓	灰	5.20	3.20	1.80	539	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、一部ガラス質化
756	SA29	1	鉄滓	灰	5.60	5.00	3.30	1792	小気泡あり、砂粒一面付着、鏽あり
756	SA29	62	鉄滓	灰	3.90	2.70	1.70	367	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、一部ガラス質化
757	SA31	遺土中	鉄滓	灰	5.40	3.10	2.00	561	鏽あり
758	SA32	62	鉄滓	にぶい濁	7.00	5.00	2.30	1663	大小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、鏽あり
759	SA32	埋土中	鉄滓	灰	5.20	4.00	1.50	394	大小気泡あり、砂粒全体付着
760	SA33	17	鉄滓	灰	2.00	1.50	1.50	86	大気泡あり、一部表面ガラス質化、鉄付着
761	SA33	埋土中	鉄滓	にぶい濁	3.80	2.30	2.00	410	大小気泡あり
762	B-2区	961	鉄滓	にぶい濁	5.50	3.00	1.20	293	小気泡あり、凹凸あり砂粒かみ込む、全体ガラス質化
763	B-2区	964	鉄滓	暗赤濁	7.00	6.00	2.10	1515	大小気泡あり、鏽あり、木炭痕?

第24表 山崎上ノ原第2遺跡住居跡一覽

	遺構No.	時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面積(m <sup>2</sup> )	住居種別	柱穴	住居内施設
平成15年度報告文	A-SA 1	4	6.00	5.80	0.50	34.8	大		
	A-SA 2	4	4.90	4.50	0.60	22.1	中	4	
	A-SA 3	4	3.50	3.00	0.60	10.5	小		
	A-SA 4	4	3.00	2.80	0.20	8.4	小		
	C-SA 1	4	4.00	4.00	0.15	16.0	中		
	C-SA 2	5	3.50	3.50	0.15	12.3	小		
	C-SA 3	4	3.50	3.50	0.10	12.3	小		埋燬
	D-SA 1	4	3.60	3.30	0.40	11.9	小		
	D-SA 2	不明	3.80	3.60	0.25	13.7	小		
	D-SA 3	不明	2.90	3.20	0.40	9.3	小		
	D-SA 4	3	4.00	3.60	0.40	14.4	中		
	D-SA 5	5	2.50	2.20	0.40	5.5	小	1	
	D-SA 6	不明	3.20	2.90	0.15	9.3	小		
	D-SA 7	不明	3.70	3.60	0.60	13.3	小		
	D-SA 8	不明	4.00	3.80	0.60	15.2	中		
	D-SA 9	4	4.00	3.80	0.45	15.2	中		
	E-SA 1	古代		3.70	0.40				竈
	E-SA 2	古代			0.45				
	本報告文	SA01	5	3.20	2.86	0.35	9.2	小	
SA02		4	2.90		0.19				
SA03		4	4.36		0.20				
SA04		2	6.12	5.39	0.45	33.0	大	2	
SA05		4	3.56	3.50	0.40	12.5	小		埋燬
SA06		3	4.32	4.12	0.25	17.8	中		埋燬
SA07		4	5.34	4.56	0.30	24.4	大	4	埋燬
SA08		5	4.90	4.05	0.36	19.8	中	3	
SA09		4	5.56		0.25				埋燬
SA10		2	4.32	3.62	0.15	15.6	中	5	
SA11		4	5.40	4.30	0.25	23.2	大		
SA12		4	4.80	4.60	0.30	22.1	中		埋燬
SA13		4	6.50	6.00	0.28	39.0	特大	4	埋燬、竈
SA14		4	7.52	5.52	0.50	41.5	特大		
SA15		4	6.40		0.60				
SA16		4	4.80		0.50				
SA17		4	5.50	5.34	0.38	29.4	大		
SA18		4	5.53	4.55	0.50	25.2	大		
SA19		5	5.45	5.20	0.60	28.3	大	1	
SA20		2	5.75	4.65	0.30	26.7	大		
SA21		4	4.75	4.45	0.38	21.1	中		埋燬
SA22		4	4.30	4.20	0.56	18.1	中		埋燬
SA23		4	7.30		0.50				
SA24		5	5.05		0.25				
SA25		2	4.60		0.48				
SA26		4	5.05		0.35				
SA27		3	5.05		0.25				
SA28		3			0.30				
SA29		4	6.75	6.00	0.35	40.5	特大		
SA30		4							
SA31		2	5.40	5.25	0.25	28.4	大		
SA32		4	4.85		0.43				
SA33		4	6.30		0.25				
SA34		2	5.80	5.40	0.47	31.3	大	5	
SA35	3	5.95		0.30					
SA36	1								
SA37	1						1		
SA38	4								
SA39	4								
SA40	5	3.30		0.26					
SA41	4								
SA42	2	3.60	3.58	0.20	12.9	小			
SA43	不明								
SZ 1	4	4.62	3.50	0.32	16.2	中			

## 第4節 まとめ

この第4節では、本遺跡の中心となる古墳時代の遺構・遺物について、平成15年度報告分（A、C、D、E区調査分）と併せ、事実報告をまとめるかたちで述べていくこととする（平成15年度報告分では遺構番号が区毎に振られており、若干混乱を生じるので遺構名の前に区名を付して表記する）。

今回報告の調査区からは、古墳時代の住居跡42軒（不明遺構1基も加える）、溝状遺構1条、土壌墓1基、土坑5基、時期不明の住居跡2軒・土坑2基・溝状遺構2条が検出された。

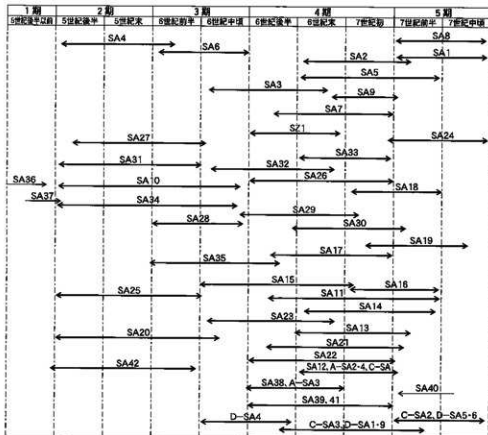
平成15年度報告分と併せて山崎上ノ原第2遺跡全体で住居跡は62軒に及び、そのうち古墳時代の住居跡は58軒検出されている。

### (1) 集落の変遷と特徴（第124、125図）

本遺跡は、1期（5世紀後半以前）、2期（5世紀後半～末）、3期（6世紀前半～中）、4期（6世紀後半～7世紀初）、5期（7世紀前半～中）の5時期に区分することができる。

山崎上ノ原第2遺跡の時期は、谷を挟んで南側に所在する墓城（山崎下ノ原第1遺跡）の消長とはほぼ合致しており、この墓城と集落との関係性が強いと認識される。以下本遺跡の変遷を、山崎下ノ原第1遺跡の様相も併せて述べることとする。

山崎上ノ原第2遺跡における集落の形成段階（1期）は、B-2区中央の5世紀後半以前の住居2軒（SA36、37）が相当する。2期（5世紀後半）になると、徐々に住居件数の増加が認められるようになる。住居の形成よりやや遅れて墓も形成され始める。まず調査区最北端のBB区の土壌墓（SD1）が造成され、南側では本遺跡の南方に位置する山崎下ノ原第1遺跡内の第2、3号墳が5世紀末に築造され



第124図 山崎上ノ原第2遺跡住居跡変遷図

るなど墓域の形成が集落の形成に連動しているのが読み取れる。

住居の大半はB-1区北側、B-2区に集中するあり方を示し、3期（6世紀前半）になると埋甕を付設した住居が出現する（SA6）。引き続き4期（6世紀後半）より急激に住居数が増加し始め、AA-1、AA-2、C、D区等でも住居がつくられ始め<sup>(41)</sup>、集落の展開が認められるが大半の住居跡はB区に集中しており集落の中心はB区であるのは変わらないようである。

宮崎県内における古墳時代後期の集落でも6世紀後半から展開する集落が多い中、本遺跡はその前段階である5世紀後半から7世紀中頃まで断断なく住居が続いており、5世紀後半からの継続的な集落の展開が読み取れる。

墓域である山崎下ノ原第1遺跡では3期頃に榎5・6号墳、4期には山崎下ノ原第1号墳が築造された後は土壌墓が造られ始めるが、山崎下ノ原第1遺跡以外にも山崎上ノ原第2遺跡のE区に、4期の土壌墓が確認されている。このことから、4期以降に墓域の拡大もしくは点的に墓が分散して造られ始めると考えられる。

5期（7世紀前半）になるとそれまで住居の集中していたB区での住居跡検出数も減少し、C区、D区側でわずかに数軒のみ検出され、さらに7世紀後半以降になると、B区で遺構は検出されなくなり遺物等が包含層からわずかに出土する程度で、南側のC区に土坑（C-SC1）、南端のE区で住居跡が2軒（E-SA1、2）検出される程度にとどまり、集落は衰退し始める。

南北に細長い調査区内では、7世紀以降の集落の様相を追うことはできないが、7世紀前後を二期として集落内に何らかの変動が起きたことが示唆されよう。

墓域である山崎下ノ原第1遺跡の衰退は山崎上ノ原第2遺跡より早く、6世紀末から7世紀初頭頃と報告されている。しかし墓自体はD区から5期の土壌墓が検出されていることから、墓域の移動もしくは5期以降は区域を持たず、点的に墓が造られていくと思われる。

衰退した古墳時代の集落以降は、B区より南側のC～E区で古代の住居跡2軒や土坑数基、溝状遺構が検出されるのみである。古代以降、集落は減少もしくは内陸側へ移動するようである。再び本遺跡に人間活動の顕著な痕跡が遺構として明確になるのは中世の段階で、C区において数基の土壌墓が検出され、墓域としての利用が再び始まった様子が窺える。

## （2）遺跡の立地・地形

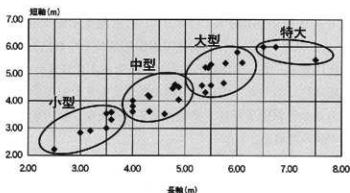
本遺跡は第1章第3節でも述べたとおり、第2砂丘列上に位置する砂丘列内の古墳時代集落跡である。この集落の生活基盤は、鉄鎌等の鉄器が多く出土したことから農耕と考えられ、砂丘列にはさまれた低地（後背湿地）を水田として開発・使用したのであろう。そして鉄滓や錆の羽目、鍛造剥片等の出土から鉄器生産も行っていった可能性が高い。また、この集落の特徴として大量の土器が出土していることが挙げられるが、砂丘列内では土器を形成する粘土は採取できず、他地域より土器そのもの、もしくは原料の粘土を購入した、といった他地域との交易を行っていたと想定される。粘土は土器以外にも土壌墓や甕を構築するのに使用されており、またSA13より見た目が土器の胎土と同一で、焼成された粘土塊が出土していることから土器そのものでなく、幅広い用途に使用するため粘土そのものを交易していた可能性が高い。

本遺跡に展開する集落は、砂丘列内での自然地形を利用した集落形成を行っていたようである。北側の標高約120mの微高地には住居を形成し（BB～C区）、谷地形に挟まれた標高80～90mの低地（D・E区）は、住居跡と墓が混在している。さらに南にいくに従いやや高くなった標高約9～10mの地帯には墓を形成している（山崎下ノ原第1遺跡）。このように墓域と居住域を、自然地形を利用し意識的に切り離して形成している様子が窺える。

### (3) 住居跡について (第24表、第125～128図)

古墳時代の堅穴住居跡55軒は、その大半は方形プランで、長方形、不定成形が数軒存在する。主柱穴は4本柱もしくは不明で、溝溝は検出できなかった。

55軒のうち平面積(長軸・短軸の長さより算出した)の計測可能な34軒を対象とし、面積の度数分布図を作成した(第125図)。その分布より、小型住居(5～13㎡)、中型住居(14～23㎡)、大型住居(23～35㎡)、特大住居(35㎡以上)と区別される。また、住居跡34軒の平均値は約20㎡である。



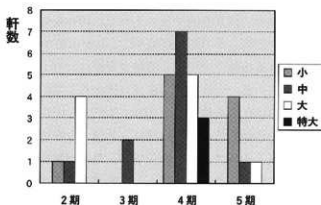
第125図 住居跡度数分布図

各時期の住居種類別数を算出したのが第126図である(1期は平面積不明な住居跡しかないで除外している)。

これによると以下4点の特徴が読み取れる。

- ① 中型住居は集落全時期を通して構築
- ② 大型・小型住居は3期以外は構築
- ③ 特大住居は4期のみ構築
- ④ 小型住居は4期より増加する

②は、3期に相当する住居跡で平面積を算出できるのが2軒しかないためにこのような結果になったと思われる。この時期に該当する住居跡は全部で5軒あり、そのうち長軸もしくは短軸が算出可能な



第126図 時期別住居跡種類

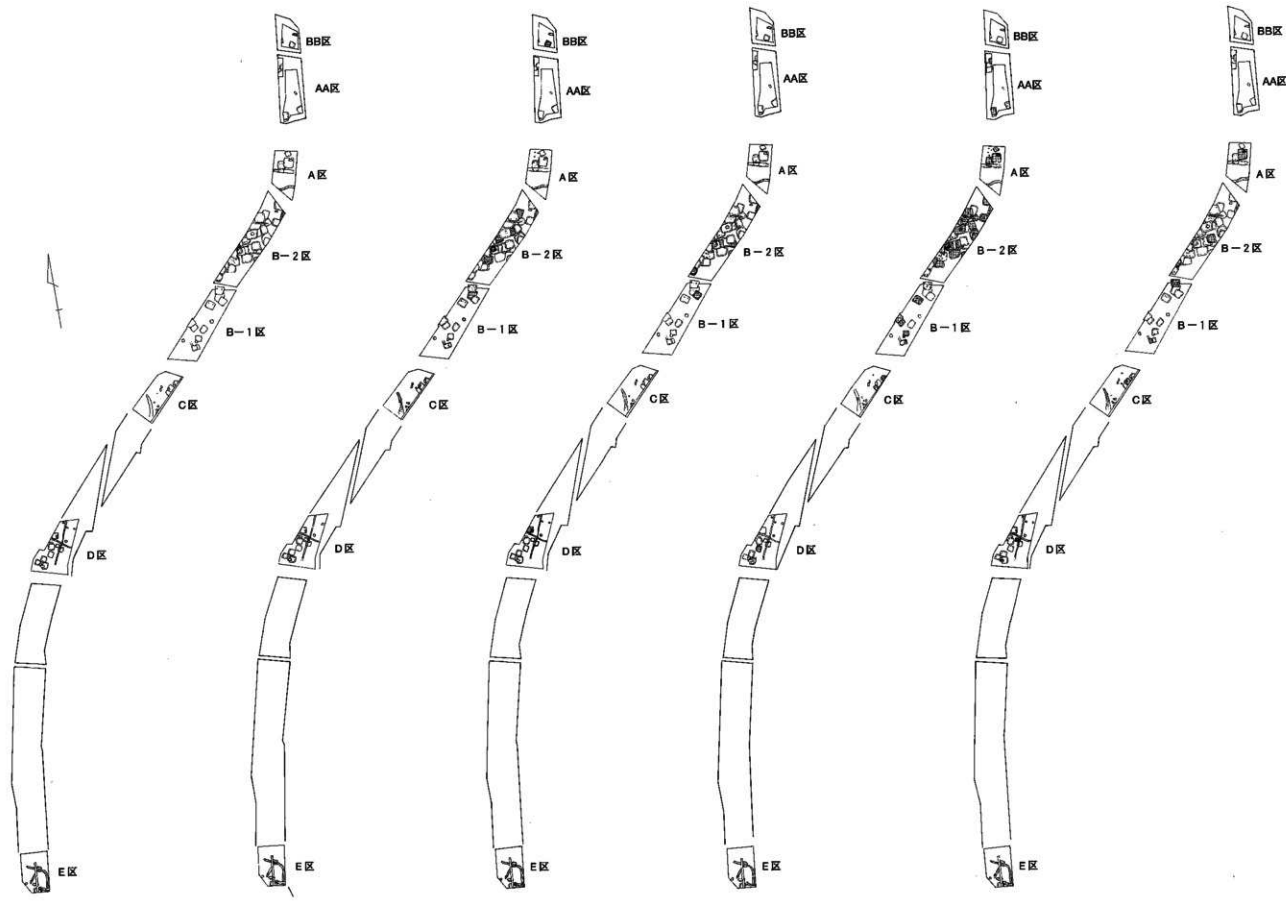
住居跡はSA27、28、35で、27・35は5m以上6m以下と大型住居の長軸もしくは短軸範囲に一致することから大型住居の可能性がある。SA28は2.9mと小型住居の長軸もしくは短軸範囲に一致することから小型住居の可能性がある。これより中型住居同様小型・大型住居も全時期を通して一定数構築されたと推定される。

次に各住居の分布状況を表した第128図によると、大型住居・特大住居がA～B-1区の北半分までの範囲に集中する傾向がある。中でも特大住居はB-2区の中央に集中している。このことから集落の中心域と大型・特大住居の分布域が一致することが確認された。

中型住居はA～D区の範囲にみられ、その分布域には特徴はみられない。

小型住居はBB区、A区、B-1区、C、D区と広範囲に分布しているが、集落の中心域には1軒もなく、むしろ中心域の端もしくは周辺に所在する傾向がみられた。理由としては住居の機能の違いもしくは階層性等が考えられる。

遺物の出土量にも差がみられるだろうか。小型住居が最も出土量の少ない(もしくは細片のみ)遺構が多い。しかし、集落の中心域の端に位置するA区のA-SA3、B-1区に所在するSA1、5は小型住居だが、比較的遺物量が多い。この中心域より離れた小型住居は皆一様に遺物量が少ない。小型住居の遺物出土量はその所在位置に左右されるようである。中型住居はその出土量にばらつきがあり、これ



1期(5世紀後半以前)

2期(5世紀後半~末)

3期(6世紀前半~中)

4期(6世紀後半~7世紀初)

5期(7世紀前半~7世紀中)

第127図 集落変遷図 (S=1/4,500)



といった傾向は見られない。ただ小型住居と比べると、D-SA4など中心域から離れた位置でも出土量は多く、位置に左右されないといった特徴がみられる。大型・特大住居は小・中型住居と比較して遺物量が多い。

最後に住居内施設との関係だが、埋甕が検出された住居跡は平面積別では10軒中（1軒種別不能）特大住居1軒、大型住居1軒、中型住居4軒、小型住居3軒で、中型・小型住居が大半を占めている。

以上より各住居の特徴をまとめると、

①特大・大型住居は集落の中心域に分布する。

遺物出土量は多い。

②中型住居は分布に特徴はみられない。遺物はその所在に関係なく一定量出土する。

③小型住居は集落の中心域の端もしくは周辺に所在し、遺物出土量は所在地により変動する。

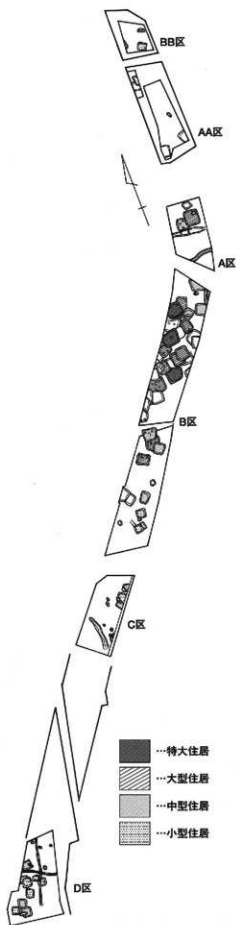
となる。③より小型住居はその分布域からは階層性、遺物出土量の所在地による差は、遺物量が多く、集落の中心域の端の住居は居住施設としての利用、ほとんど出土しない中心域より離れた位置に所在する住居は、居住以外の利用（物置小屋など）といった解釈が成り立つ。

#### （4）火処について

山崎上ノ原第2遺跡住居跡55軒のうち10軒（SA6は2基検出）で埋甕、SA13（SA44）より甕が検出された。

埋甕はその大半は4期に集中しているが、3期（SA6）に1軒、5期（SA1）に1軒と、数は少ないものの集落内での使用期間は長期にわたって確認される。また住居内での設置箇所は、住居跡中央設置が6軒で、その他4軒は住居の対角線上の隅部に偏差している。通常埋甕は住居内中央での検出が多いことから、この隅部設置は本遺跡における埋甕の特徴といえる。

次にSA13の住居中央から出土した甕であるが、遺構の説明で述べたように、この甕は検出できなかった住居跡（仮SA44）の東壁中央に設置された施設である可能性が高い。甕内部から



第128図 住居種類別の分布状況

出土した土器（510）の時期は今塩屋編年の6～7期に相当し概ね6世紀後半頃である。この時期は本集落の最盛期である4期に相当し、埋甕をもつ住居跡は8軒存在することから、他の集落同様この集落でも埋甕を持つ住居と竈を持つ住居が同時期に存在したことが確認される。ただ埋甕と竈両方を併せ持った住居跡は確認されていない。7世紀中頃以降はE-SA1（8世紀以降）より、粘土を構築材とした竈と思われる住居内施設<sup>(32)</sup>が確認されている。調査区外に及ぶため平面での検出は出来ず、調査区壁での確認だったが、その形状よりほぼ間違いないということである。

よって本遺跡での火処は、6世紀前半より埋甕を使用し、後半になると竈が設置される。しかし竈はわずか1基で集落内では埋甕が主であり、また埋甕+竈の併用住居跡は確認されなかった。埋甕は7世紀前半に確認されたのを最後に、以降は造付竈が設置・使用されていくようである。

#### （5）住居内出土の土師器について

上ノ原第2遺跡の土師器の出土量は、同時期・同規模の集落遺跡と比較しても出土量が膨大で、土師器の完形率が非常に高いといった特徴がある。以下、3点ほど目に留まった点を述べる。

##### （ア）甌

6世紀中頃以降と推定される住居跡から甌片が出土している。全部で16点程度と少ないが、その大半は蒸気孔形態が単孔のつつぬけタイプで、完形は多くないが確証は持てないがその器形から取手無の形態と思われる<sup>(33)</sup>。取手付甌は取手部分の破片が1点（627）とわずかだが包含層より出土している。

本遺跡出土のつつぬけタイプの甌はその蒸気孔の製作過程において二種類に分けることが可能である。

ひとつは薄手で頸部のくびれない楕円状の器形を成すものである。胎土は褐色を呈するものが多く、砂粒等の混入が少ない精製された土を使用している。この甌は九州本島内でも特に宮崎県地域に集中している器形である<sup>(34)</sup>。

もう一点は最初底部を形作った後、底部中央を削り貫きつつぬけ甌を形成したものである。底部のみの残存が大半で全体の器形は不明だがおそらく完形で出土した小型甌（384）のように甕と同器形を成すと思われる、胎土も甕と同様砂粒等の混入が認められる胎土である。そのため底部以外の部位は甕との分離は困難であろう。本遺跡の掲載分の甌のうち、成形後削り貫き形は約2割程度で、その主流は楕円状の器形を成すものであると思われる。時期は成形後削り貫き形の底部が平底で、木の葉底を有すことから今塩屋編年の7期以降に相当するようであり、楕円状の器形を成す甌も同時期であり時期差はほとんどみられない。

##### （イ）黒色処理された坏について

本遺跡では、SA5出土高坏（54）のように内面に黒色処理を行ういわゆる内黒等もみられるが、その他、坏に黒色処理を施したものが認められる。SA27出土坏（218）、SA18出土坏3点（267～269）の4点である。

これらの坏の時期は今塩屋編年の5～6期（TK47～MT85）に相当し、何故か全て比熱を受けており風化が著しい。黒色処理を施した箇所は、4点中3点が内面全体に黒色処理を行っている。外面は全体に施したものは1点しか見られず、口縁部から底部付近までのものが4点中3点認められる（残りの1点は風化のため不明）。また、黒色処理を行わない箇所に赤彩塗布<sup>(35)</sup>しているものも1点（218）ある。

ではこの黒色処理は何を用いて行われたのだろうか。山崎上ノ原第2遺跡ではE区のエ-SA2より漆入れ容器として使用された坏が出土している（遺物番号E-9）。時期は古代以降と時期差はあるが、

この漆の色調・質感に218、269の黒色処理された箇所が類似していることから焼付け漆の可能性も考えられる。焼付け漆は九州では筑前・筑後地方で5世紀後半から認められ、太宰府市尾崎遺跡で5世紀後半～6世紀前半の焼付け漆を行った坏が確認されており時期的には関東に先行する事例<sup>(25)</sup>となっている。

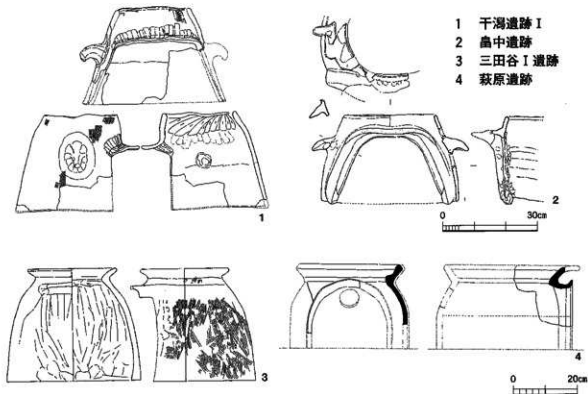
黒色土器は南九州内では本遺跡の他に鹿児島県中尾遺跡（大隅半島）で出土している<sup>(26)</sup>。なお今塩屋氏によって宮崎県内での黒色土器は認められないとされていたが本遺跡の事例により覆されることとなった。<sup>(27)</sup> その消長等については今後の事例の増加を待ちたい。

#### (ウ) 甕形土器について

SA1・2 (20、21) SZ1 (67) より甕形土器が出土した。県内初の出土例である。

九州内では北部九州を中心に出土しており、福岡県小郡市干潟遺跡I、大野城市仲島遺跡X等で出土している。南九州の出土例は若干時期は下り、古代の甕形土器が鹿児島県始良町萩原遺跡より出土している。中国・四国地方では島根県三田谷I遺跡、高広遺跡、山口県高野遺跡（北地区）、畿内では大阪府堺市伏尾遺跡、畠中遺跡、亀川遺跡等で出土している。

さて、本遺跡では甕形と思われる土器が3点（と部位不明の土器片1点）出土しているが、他県の出土遺物と比較すると、口縁部（掛口）の形状が顕著に異なっているのが明瞭である。干潟遺跡I、仲島遺跡Xでは口縁部（掛口）は水平に成形されているが、本遺跡の20、67はL字形の屈曲した口縁部をもつ。L字形口縁をもつ土器は今塩屋編年の8-9期の裏にみられる特徴的な口縁部形態である。この器形は九州内の甕形土器よりは鳥取県西部から島根県にかけて分布する山陰型と呼ばれる特徴的な器形に類似している。しかしこの山陰型はTK23型式段階に存在するもので、本遺跡の土器とは時期幅がありすぎる。そして22は他の2点とは異なり、小型長胴形甕の口縁部形態と同様の器形である。これら3点



第129図 各地方の甕形土器（各報告書より転載、S=1/12）

の土器に共通することだが、いずれも甕を成形した後に、焚口を成形し底を取付けるなどして甕形に成形されている。そのため典型的な甕形ではなく、在地の甕に近い形態を成している。胴部も大きく異なり、他県の甕形土器の胴部は完全なドーム形か、ドーム形の器形に焚口と対面する器壁に穿孔を施すものがあるが、20は側面・背面部分も切り抜き両側面を足のように成形するなどまったく異なっている。67は頸部付近までしか残存していないので不明である。22は、正面頸部から背面胴部にわたって斜めに形成されており、焚口に庇状のものについては、ドーム形の甕形土器とは完全に別物である。また、口縁部（掛口）の内径は、20は16cm、22は15cm、67は17cmと通常の甕形土器が内径20-30cmであるのに対し小さい印象を受けるが、同時期の甕を設置するのに丁度良い大きさで設計されているのだろうが、同時期の甕を計測すると最も多く出土する長胴甕の底部付近の大きさが15cm程度であり、甕として煮炊きするには土器がおおよそ器高の1/3程度は甕内に入らないと不安定と思われる。

では甕形土器として使用痕跡はみられるのか。20は断面にわずかにススが付着している等使用を窺わせる痕跡が見られる。22、67にはススなどの使用痕跡はみられない。そして当遺跡の住居内火処施設は埋甕が大半で、床上の焼土や炭化物の広がり等の痕跡はSA23のみで、遺物の出土地点から大きく離れており甕形土器を使用した痕跡であると言ひ難い。

ではどのように使用されたのか。本遺跡は砂地であるため、容易に地面にうずめることが可能であることから砂地に設置して使用した可能性も考えられる。そのため前述したように焼土等の使用痕跡が認められないのではないだろうか。

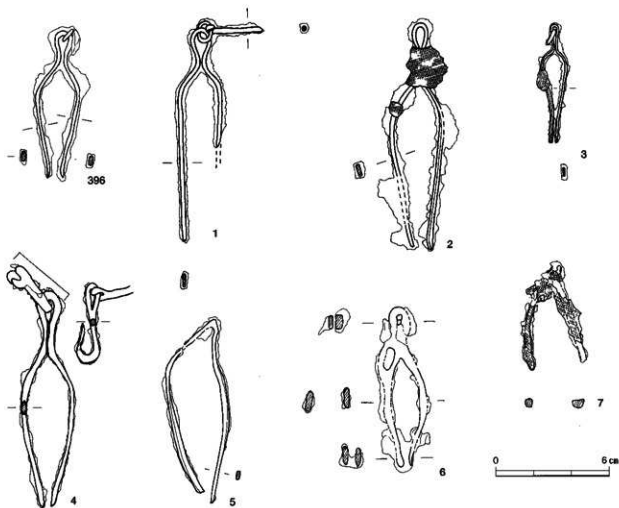
しかし遺物に残されたススなどの使用痕も20以外認められず、その20も恒常的な利用を行ったように見えない。これは甕としての恒常的な利用を行ったものではなく、祭祀等の特別な使用を目的として作られたのではないだろうか。甕形土器が62軒もの住居跡からわずか3点のみの出土であり、本遺跡での住居内火処は埋甕が大半であることから裏付けされよう。古墳時代後期の古墳にミニチュアの甕が副葬される例があるが<sup>(84)</sup>、他の土器類とは位置を異にして出土することがあることから信仰的背景が存在する可能性を指摘している。甕形土器が何らかの祭りに用いられたことは「延喜式」においても甕形土器をさす「韓甕」が頻繁にでることからも確認できる<sup>(85)</sup>。これらのことから本遺跡の甕形土器は一時的利用、すなわち祭祀を目的として使用されたと考えられる。

## (6) 錐子状鉄製品 (第25表、第130図)

SA19で錐子状鉄製品 (396) が出土している。錐子状製品の用途は毛抜きあるいは装身具、鉗、工具などが想定されており、その出土状況より推察していくことが必要である。県内での出土例は本遺跡出

遺跡名	所在地	出土遺物	遺物の時期	他の遺品群・出土品	遺 量			第130図 実測番号	備考	
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)			
北畑ノ上遺跡2	宮崎市	S A19 雑土中層 土	7世紀前半-中	須恵器、土師器、磁石	7.8	2.2	0.2	125	396	
鎌ノ池遺跡6	宮崎市	竹杖塚長良氏塚集 品	鎌倉時代後半の時期 は6世紀中-8世紀		11.1	2.2	0.2		1	
六 野 塚 遺 跡	国富町	8号墳	5世紀後半	外環状印行、三輪形鉄剣、新 羅銅、銅鏡、土、赤土、 玉環、鏡、石、石、石	12.2	2.6	0.2		2	鉄線に付着して出土。頭部 より下は破壊痕あり。
福元ノ上遺跡6	四国市	7号地下式横穴墓 ・ビイダリツ	6世紀前半頃(推定) 、6世紀後半頃(推定)		6.3	1.4	0.1		3	
若ノ原地下式横穴墓	国富町	10号地下式横穴墓	第1段階に付く遺物。 6世紀中葉。	刀、鉄線、鏡、土師器 (須恵器、土師器)	11.5	2.8	0.2		4	
穂島地下式横穴墓	那珂市	32号地下式横穴墓	茶屋敷のため詳細 不明。	大刀、鉄刀 (鉈行)						
式部地下式横穴墓	高岡町	2号地下式横穴墓	5世紀末	鉈、鉄刀、鉄線	10.3	3.2	0.15		5	人骨の右側下半身に刺と ともに出土。
島内地下式横穴墓	えびの市	42号地下式横穴墓	6世紀	刀、鉄線、刀子	8.6	2.3	0.2		6	刀子等とともに2号人骨の 左側に出土。
島内地下式横穴墓	えびの市	82号地下式横穴墓	5世紀中頃	刀、鉄線、鏡、不明	5.2	2.9	0.2		7	1号人骨の上肢骨(腕)に刺、鉄線、刀子等 付着して出土。2号に刺着痕あり。
石 船 古 墳 群	新宮町	新田原42号墳	7世紀後半	大刀、鉄線、須恵器	10.0	7.0				鉄線に付着して出土。
浄土寺山古墳	延岡市	浄土寺山古墳	8世紀後半	鉄線						鉄線に付着して出土。

第25表 県内錐子状鉄製品集成



第130図 県内出土鑷子状鉄製品

1～3は未報告もしくは報告書未掲載資料。  
4～7は各報告書より再トレース。

土も含め11例確認することが出来（第25表<sup>9910</sup>）、主に古墳・地下式横穴墓より確認されており集落内での出土例は乏しく、希少な遺物である。

#### 時期

396はSA19（7世紀前半～中）の西側（第63図）の埋土中より出土している。宇野慎敏氏の分類によるとIIa類に属し<sup>9911</sup>、その時期は5世紀前半～8世紀に比定し、住居跡の時期にも相当する。しかし重複する住居跡からの混入も想定され、遺構の時期をそのまま当てはめるのはいささか不安である。そこで遺構より時期推定が可能な県内出土遺物との比較を行い再度検討を試みる。369の形状は頭部に連結する金具を有しているが、これは1、3、4にもあり、また先端部の一方は外方に反っているが、これは2、6にもみられる特徴である。肩部の張り具合などから3、4が最も類似すると思われる。これらの時期は6世紀中～7世紀中頃であり、369もこの時期におさまると考えられ、SA19の時期に相当するようである。

また形状の特徴からその用途も推測される。先端部の一方が反ることから毛抜きとしての用途は考えにくい。頭部に環状金具が連結している点からも何らかの装身具であった可能性が考えられる。

### (7) 鉄滓 (第23表、図版24)

平成15年度の報告分ではA-SA1より鉄滓、鍛造剥片が大量に出土するなど集落内に鍛冶遺構こそ検出されなかったもの集落内で行われていた可能性を指摘されている。

今回の調査区では包含層・住居跡からまとまった量の鉄滓が出土した。理化学的分析は行わなかったため、計測表と実視観察のみ記している(第23表)。この他にもSA32より鑄の羽口片が1点出土しており、集落内で小鍛冶が行われていたことはほぼ確実であろう。また集落内での鉄器の種類の数豊富さと所持数の多さも鍛冶が行われていたことに起因するものと思われる。

### (8) 紡錘車

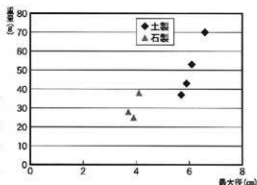
山崎上ノ原第2遺跡では古墳時代の住居跡と包含層より出土している(第33図147、第53図286、第56図312、第70図430、第76図464、第82図499、第104図669)。個々の遺物の観察は第2章の本文中と第14表紡錘車観察表を参照されたい。

本遺跡で出土した紡錘車は石製3点、土製4点の計7点である。これらは共伴遺物より時期は5世紀後半から7世紀中頃の時期幅におさまり、出土紡錘車そのものからみた年代観とも一致する。しかし個々の遺物の編年的位置については形態変化に乏しいため判断できない。

ただ第76図464のような砥石の転用品は関東の事例から8世紀に下る可能性を有している。しかし宮崎県内では初例で、今後さらなる検討を要するため、ここでは可能性を指摘するにとどめたい。

まず土製・石製紡錘車の量比について検討を試みる。第131図重量-径散布図では特定の集中域は看取されず、特に土製は石製より規格性に乏しく、重量が重い。また土製品の場合、棒莖が挿入される中心孔も0.7~1.2cmと幅がある。この差異は紡糸される糸に制限されておこったものではなく、紡錘車自身の製作工程に影響されたものと考えられる。このように土製紡錘車については厳密な規格性を読み取れなかったが、このことから、それほど厳密な量法が求められないという本来的な特性も推測される。

次に施文された石製紡錘車について着目したい。本遺跡出土紡錘車の中で施文されているのは蛇紋岩製(669)1点のみで、同様の紡錘車が西都市宮ノ東遺跡より出土している<sup>13)</sup>。669には両面に呪的性質を強く持つと言われる鋸歯文<sup>14)</sup>が施されているが、その施文作業は雑である。施文時に工具が滑りのみ出した痕跡や、文様を削付ける際、計画的に行っていなかったとみられる痕跡が見受けられる。狭面の線刻にいたっては彫り込み自体が浅く、星形とでもいべき崩れた鋸歯文を不規則に施しているが、狭面全体に施すことなく中断している。これは宮ノ東遺跡出土の紡錘車の施文にも同様の傾向が確認される。この紡錘車は狭面も削りとりように再加工されているが、広面と側面に残存する鋸歯文の具合から、669と同様断面台形であり、かつ全面に鋸歯文を施していたと考えられる。さらに再加工後文様の消えた狭面側に、669のものと同様粗雑な鋸歯文を施している。このことから狭面側には鋸歯文を施すという意識がはたらいっていたことが予想され、狭面に施す文様は鋸歯文と認識できる程度のもので目的が果たされるとのあったと考えられる。また、石製紡錘車の中でも滑石製、蛇紋岩製の紡錘車は墳墓への副葬がみられることや、祭祀的な文様を持つことから実用品以外の用途も指摘されており、669もそのような要素を有していたと考えられる。なお、滑石製、蛇紋岩製の紡錘車は搬入品の可能性があることを指摘しておきたい。通常、紡錘車の生産地と考えられる遺跡<sup>15)</sup>では、未製品や加工に伴う剥片がみられるが、本遺跡では確認されておらず147、669の資料は搬入品の可能性が想定される。



第131図 重量-径散布図

### (9) 軽石

南九州の遺跡では、軽石が大量に出土することがあり、今回の調査でも住居跡から大小様々な軽石が大量に出土した。これらは時期が特定できず、大半は用途不明である。中にはその形状から特定できるもの（山崎上原第2遺跡C-SC1出土 独案）、出土位置から特定できるもの（間越遺跡、大町遺跡の住居内より角柱形に加工された軽石、支脚）も存在する。特に造り付け窓の支脚として用いられる例が多く、本遺跡でも同様の形状の軽石をこれらの出土例から支脚、と判断・報告しており、棒状成形の軽石=支脚というのは一般化している。

今回は本遺跡で多く出土した加工痕は認められるものの、使用痕が認められないといった用途不明の軽石たちに絞って検討を試みることにする。

これらの軽石の出土例は多く、大町遺跡、北中遺跡、狼野遺跡、間越遺跡、右葛ヶ迫遺跡等で確認されている。軽石が出土した遺構は住居内が多く、中には赤化した例もあるため、炉間施設施の利用が想定されている。狼野遺跡では4号住居内から軽石を用いた石組が検出されるなどその仮説を裏付ける出土例もみられる。

その他に、地下式横穴墓からの出土が報告されている。北中遺跡6号地下式横穴墓内より大量の軽石が玄室内で出土、特に羨門付近での出土が多いことから調査担当者の河野氏は、羨門閉塞に軽石を使用した可能性を指摘している。同様の出土例は大町遺跡、間越遺跡でも確認されている。しかし地下式横穴墓の出土例に関しては軽石の形状についての記述がなく、ここで対象としている軽石と同様のものかは確認できなかった。

さて、本遺跡から出土した用途不明の軽石だが、その形状はいくつか種類があり、山形(506)、半円形(765)、台形(776)などに分けられ、大きさは一定しておらず、長さ6cmから22cm以上と幅がみられる。

これらに共通するのは、最低一面は平坦面が形成されている点で、多いものでは4箇所の平坦面がみられるものもある。その加工面は一様に鋭く、ほぼ水平にカットされていることから、使用工具は鉄器で鈍のような道具の使用が想定される。平坦面以外は全体を滑らかに整えている。

しかしこれらの軽石に形状は似ているが、砥石として利用されたのか擦痕や深い裂傷、磨り減った痕跡が確認できる遺物(412、777)もいくつか認められる。

これらのことから加工痕のみの軽石は、使用前の半加工品という可能性が考えられる。その形状も地面に置きやすいように平坦面を形成し、何にでも使えるようおおまかに形を整える程度で止めていたと考えれば辻褄が合う。上記に記した使用痕もみられるものは、未使用の半加工品をそのまましくは使いやすい大きさにカットして使用したものではないだろうか。本遺跡では住居跡からの出土が大半であることから半加工品の状態で常備されていたものと推察される。

### (10) 馬歯

本遺跡内の住居跡7軒より、馬歯が出土している。全て白歯のみで、1～2本の出土である（保存状態が悪く、1本は確実に確認できるがその大半が粉碎しているものもあり正確な本数が確認できないものは「1～2」本とした）。出土した住居跡の時期も5世紀後

出土遺構	No	出土位置	本数	種類	時期
SA 6		埋土中	1	白歯	6c前～中
SA 7		埋土中	1	白歯	6c後～7c初
SZ 1		埋土中	1～2	白歯	6c後～末
SA13	109	埋土中	1	白歯	6c後～7c中
SA13	115	埋土中	1	白歯	
SA14	221	埋土中	1～2	白歯	6c末～7c前
SA17	116	埋土中	1	白歯	6c後～7c前
SA20	357	床面上	2	白歯	5c後～6c中

第26表 馬歯出土住居跡一覧

半～7世紀中頃とはほぼ集落の時期全般に認められ、一時期に偏ったものではないようである。

発掘調査当初、馬埋葬土坑等の土坑が住居跡に重複しているのかと思われたが、山崎下ノ原第1遺跡の馬埋葬土坑は馬1頭が馬具を装着した状態で埋葬されており、遺構検出時には馬1頭分の歯が出土している等、その出土状況が明らかに異なる。

南側の墓域である山崎下ノ原第1遺跡で馬埋葬土坑が6世紀前半以降より古墳に付随し造成されている等この集落で馬は、祭祀の儀礼に用いられたことが認められており、やはり住居跡出土の馬歯も、何らかの祭祀的儀礼のひとつの可能性が高いと想定される。

#### 参考文献

- ・「浄土江遺跡2」 宮崎市文化財調査報告書 宮崎市教育委員会 1993
  - ・「宮崎県史(通史編原始・古代1)」 宮崎県 1993
  - ・「宮崎県史(資料編考古2)」 宮崎県 1993
  - ・「猿野遺跡・萩崎第2遺跡」 宮崎市教育委員会 1996
  - ・「大町遺跡」 宮崎市文化財調査報告書第33集 宮崎市教育委員会 1998
  - ・「京園遺跡」 宮崎市文化財調査報告書第34集 宮崎市教育委員会 1998
  - ・「北中遺跡」 宮崎市文化財調査報告書第38集 宮崎市教育委員会 1999
  - ・「間越遺跡」 宮崎市文化財調査報告書第48集 宮崎市教育委員会 2001
  - ・「北中遺跡2」 宮崎市文化財調査報告書第51集 宮崎市教育委員会 2002
  - ・「北中遺跡3」 宮崎市文化財調査報告書第56集 宮崎市教育委員会 2003
  - ・「山崎下ノ原第1遺跡・山崎上ノ原第2遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター第79集 宮崎県教育委員会 2003
  - ・「第5回九州前方後円墳研究会 古墳時代中・後期の土師器 発表要旨資料」 2002
  - ・「宮崎半島の古墳と古墳群」第20回 九州古墳時代研究会(宮崎県大会)資料集 第29回九州古墳時代研究会実行委員会/宮崎考古学会 2003
- (5)
- (ア)
- ・「鎌付遺跡」 高山町埋蔵文化財発掘調査報告書09 高山町教育委員会
  - ・「朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系語変動の比較研究」 熊本大学文学部 2003
- (イ)
- ・「稲荷塚・大野原」 栃木県埋蔵文化財調査報告書第84集 栃木県教育委員会 1987
  - ・「東金市久我台遺跡本文・挿図篇」(財)千葉県文化財センター 1988
  - ・「千葉市復作遺跡」 千葉県文化財センター調査報告書第216集 (財)千葉県文化財センター 1992
  - ・「太宰府・在野地区遺跡群Ⅲ-尾崎遺跡第1次調査-」 太宰府市の文化財第20集 太宰府市教育委員会 1993
  - ・「朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系語変動の比較研究」 熊本大学文学部 2003
  - ・「中尾遺跡」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(87) 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005
- (ウ)
- ・「萩原遺跡02」 始良町教育委員会 1980
  - ・「干潟遺跡01本文編・図版編」 福岡県文化財調査報告書第59集 福岡県教育委員会 1980
  - ・「畠中遺跡」 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第07輯 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1986
  - ・「古墳時代の研究8」 古墳Ⅱ 副露品 雄山閣 1998
  - ・古川 登「古墳時代後期後半の祭祀について」『福井考古学会会誌第9号』福井考古学会 1991
  - ・「考古資料大観1(弥生・古墳時代)土器2 小学館 2003
  - ・「考古資料大観3(弥生・古墳時代)土器3 小学館 2003
  - ・「企画展示 シリーズ ここまでわかった考古学 甕形土器のかたるもの」カルチュアはっとりNo3 (財)大阪府文化財センター 日本民家集落博物館 2004



## (6)

- ・「六野原古墳」 史跡名勝天然記念物調査報告第13輯 瀬之口伝九郎 1944
- ・「井水地下式横穴墓群・市の瀬地下式横穴墓群・上ノ原遺跡」 国富町文化財調査資料第04集 国富町教育委員会 1985
- ・宇野慎敏「藤子考」『末永雅雄先生米寿記念献呈論文集』 1985
- ・「立切地下式横穴墓群」 高原町文化財調査報告書第01集 高原町教育委員会 1991
- ・「前方後円墳の終焉」第43回 埋蔵文化財研究会集 埋蔵文化財研究会 1996
- ・「島内地下式横穴墓群」えびの市埋蔵文化財調査報告書第29集 えびの市教育委員会 2001
- ・「九州の横穴墓と地下式横穴墓」第1分冊・第2分冊 第4回九州前方後円墳研究会大会 九州前方後円墳研究会 2001

## (8)

- ・酒井龍一「銅鐸・そのうちなる世界」『摂河泉文化資料 第3巻2号』 1978
- ・「矢田遺跡平安時代住居編(1)」 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第106集 群馬県教育委員会 1990
- ・堀田学博「古代における鉄製紡錘車普及の意義」『神奈川考古 第35号』 1999
- ・豊島雷絵「古墳時代における石製紡錘車の研究—中国・近畿地方の出土例を中心に—」『古代古備』第23集 2001

## (10)

- ・「新編・家畜比較解剖図説(上巻)」(株)養賢堂・加藤嘉太郎・山内昭二 2003
- ・古川 登「古墳時代後期後半の祭祀について」『福井考古学会会誌第9号』 福井考古学会 1991

## 註

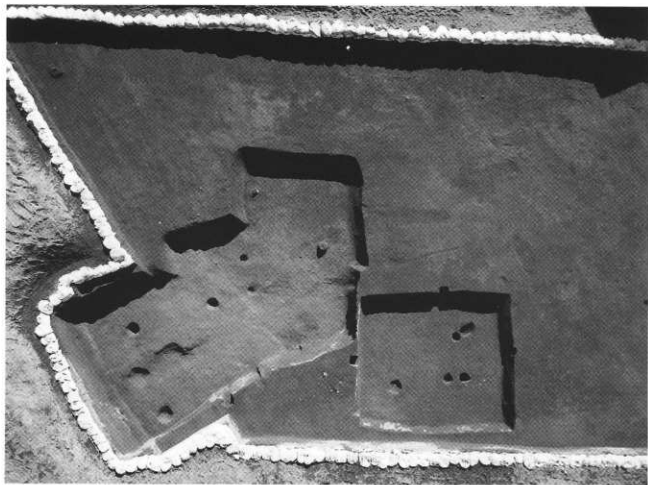
- 註1 D区では9軒の古墳時代に相当する住居跡が検出されているが、そのうち5軒は遺物が小破片のみの出土で詳細な時期は不明である。
- 註2 調査者からの情報である。
- 註3 多孔式の破片は本遺跡からは平成14年度調査時のA区SA2より1点出土している。「山崎下ノ原第1遺跡・山崎下ノ原第2遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター第79集 宮崎県教育委員会 2003 16頁参照。
- 註4 杉井健「生活様式における中心周辺関係の成立」『朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系諸変動の比較研究 熊本大学文学部 2003』
- 註5 永嶋正春「土器表面の漆仕上げ処理について」『太宰府・佐野地区遺跡群Ⅲ—尾崎遺跡第1次調査—』太宰府市の文化財第20集 太宰府市教育委員会 1993
- 註6 主に溝状遺構より出土しておりTK217新段階に相当する坏身・坏蓋と共存することから7世紀代のものと考えられる。
- 註7 註4同。12頁の表1より。しかし今塩屋氏は「日向における古墳時代中～後期の土師器—宮崎平野部を中心に—」『第5回九州前方後円墳研究会 古墳時代中・後期の土師器 発表要旨資料 2002』では5期より黒色土器が出現すると述べており、見解が一定していない。こちらの論文の見解によると本遺跡の事例は限内初現期に相当するようである。
- 註8 「古墳時代の研究8」古墳Ⅱ 副葬品 雄山園 1998
- 註9 「企画展示 シリーズ ここまでわかった考古学 甕形土器のかたるもの」カルチュアはっとり№3 (財)大阪府文化財センター 日本民家集落博物館 2004
- 註10 1は曾我部長良氏による採集品で、報告書未掲載。3は報告書未刊資料である。
- 註11 宇野慎敏「藤子考」『末永雅雄先生米寿記念献呈論文集』 1985
- 註12 紡錘車は属性の少ない遺物であり、紡糸を目的とするという性質に制限されるため、形態に変化が起こりにくい。断面台形の石製紡錘車自体は古墳時代中期からみられるが、本遺跡出土のような厚みのあるものや線刻品は後期と考えるとよいだろう。また、土器等よりも破損、成形のサイクルが長いと考えられ編年の指標となるような遺物ではないと思われる。
- 註13 「東九州自動車道(都農～西都間)関連埋蔵文化財発掘調査概要報告V」2005 に紹介されているが、本報告は未刊である。
- 註14 鋸歯の持つ意味については結界的機能を有するものと解釈されることが多いが(酒井1978等)、紡錘車に関して該当するのかわからない。
- 註15 紡錘車の製作工程がわかる資料は玉造の正確を持つ遺跡に出土する例が多い。このことから、特別な紡錘車は、元的な箇所で作られていた可能性がうかがわれる。(長根羽田倉遺跡、若宮八幡宮遺跡等)



B-2区古墳時代完掘状況



SA21・22完掘状況



SA4・6・7・8完掘状況(東より)



SA6遺物出土状況(南より)



SA6埋甕(119)(南より)



SA6埋甕(118)(南より)



SA7埋甕(105)(東より)



SA12完掘状況 (南より)



SA12遺物出土状況 (南より)



SA12埋甕 (南より)



SA12遺物出土状況 (南東より)



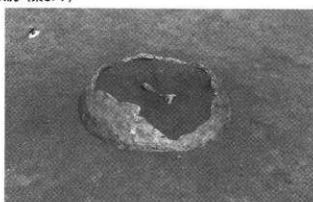
作業風景 (南より)



SA13・23完掘状況（東より）



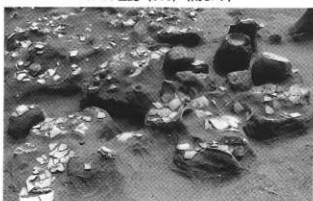
SA13 (SA44) 竈検出状況（南より）



SA13埋甕 (510) (南より)



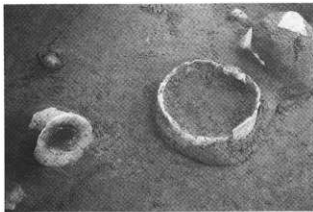
SA23遺物出土状況（南東より）



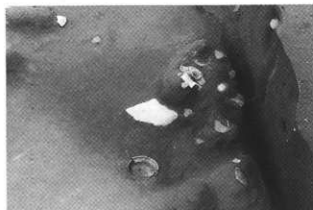
SA23遺物出土状況（北東より）



SA3・9完掘状況（北より）



SA9埋甕（南より）



SA36検出状況（北東隅）



SA10・18・36完掘状況（南より）



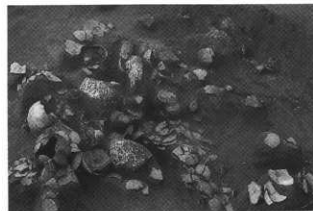
SA21完掘状況（北より）



SA20馬歯出土状況



SA20遺物出土状況（1）



SA20遺物出土状況（2）



SA13出土土器 (1)



SA14出土土器 (1)



SA15出土土器 (1)

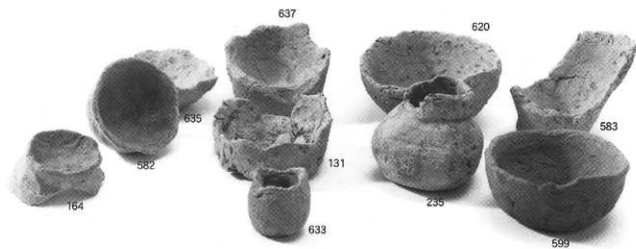


SA20出土土器 (1)





SA23出土土器 (1)



ミニチュア土器



SZ 1 出土甗形土器 (67)



SA 2 出土甗形土器 (22)



SA 1・2 出土甗形土器 (20)



側面より



SA1 出土土器



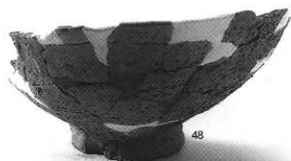
SA5 出土土器 (1)



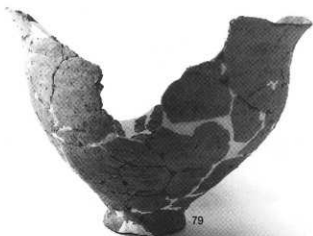
SA5 出土土器 (2)



SA5 出土土器 (3)



SA5 出土土器 (4)



SC5 出土土器



105

SA7出土土器(1)



122

SA6出土土器(1)



174

SA4出土須恵器(1)



260

SA18出土土器(1)



264

SA18出土土器(2)



277

SA18出土須恵器(1)



SA34出土土器 (1)



SA17出土土器 (1)



SA17出土土器 (2)



SA17出土須恵器 (1)



SA19出土土器



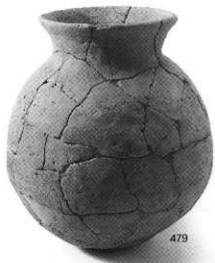
SA15出土土器 (1)



SA15出土土器 (2)



SA14出土土器



SA23出土土器 (2)



SA23出土土器 (3)



SA23出土土器 (4)



SA23出土土器 (5)